

ISSN 2760-8832

事業年報

令和7年度

ま え が き

地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所（大安研）では、大阪府と大阪市の地方衛生研究所として住民の健康と生活の安全を守るために、感染症や食品、医薬品、水道等の公衆衛生に関する法令に基づいた試験検査を実施しています。また、それらに関する調査研究、研修指導および公衆衛生情報の収集・解析・提供等の業務を行っています。

健康危機事象の発生時には、公衆衛生行政を科学的かつ技術的に支援する中核組織としての役割を果たします。加えて、令和6年度には大阪府「新型インフルエンザ等対策行動計画」の改訂が行われ、大安研は感染症健康危機事象に備え、大阪府の感染症インテリジェンスに資する情報を府内外から収集・解析し、リスク評価を行う体制を整備することとなりました。これを受けて、大安研では、感染症インテリジェンスを所掌する人材の育成にさらに力を入れていきたいと考えています。

令和7年4月から半年間開催されました2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）期間中は、大阪府、大阪市、国立感染症研究所と大安研が共同で、感染症に関するさまざまな情報を収集・解析する「大阪・関西万博感染症情報解析センター」を研究所内に開設しました。また、下水からの病原体の監視（下水サーベイランス）を行い、感染対策を含めた会場内の衛生支援を行いました。その経験は万博のレガシーとして、情報収集の強化、リスク評価体制の構築、サーベイランスの発展的な継続へと繋げ、万博後も研究所内に継承してまいります。

さらに、大阪の感染症危機管理の基軸として、大阪府、大阪市、大阪公立大学、大阪大学と私たち大安研の5者で連携協定を結び、平時から情報収集、リスク評価、専門人材育成、研究開発を進めることとなりました。

大阪における公衆衛生の向上、地域住民の安全を守り、健康増進を図ることを使命とした地方衛生研究所としての大安研の事業年報をご覧ください。大阪の公衆衛生上の課題解決への先進的な取り組みの一端をくみ取っていただければ幸いです。

令和7年8月

地方独立行政法人
大阪健康安全基盤研究所
理事長 朝野和典

沿

革

旧大阪府立公衆衛生研究所

- 1880年12月 警察部衛生課に、細菌検査・化学試験を主とした検査室を設置
- 1948年12月 大阪府細菌検査所と改称
- 1949年10月 部門を増設して大阪府立衛生研究所を設置
- 1960年7月 府立労働科学研究所を統合、大阪府立公衆衛生研究所を設置

旧大阪市立環境科学研究所

- 1906年8月 市立大阪衛生試験所創設
- 1921年4月 大阪市立衛生試験所と改称
- 1942年6月 大阪市立生活科学研究所と改称
- 1950年9月 大阪市立予防衛生研究所及び市立防疫所の検査業務を統合、大阪市立衛生研究所と改称
- 1974年12月 大阪市立環境科学研究所と改称

-
- 2017年4月 大阪府立公衆衛生研究所と大阪市立環境科学研究所の衛生部門を統合し、地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所を設置し、総務部（総務課、管理課、庶務課）、企画部（研究企画課、健康危機管理課、疫学解析研究課、精度管理室）、微生物部（細菌課、ウイルス課、微生物課）、衛生化学部（食品化学1課、食品化学2課、医薬品課、生活環境課）の4部を置く
 - 2018年4月 公衆衛生部を置き、企画部より健康危機管理課、疫学解析研究課を移管
 - 2023年1月 新施設に移転し、総務部（総務課、管理課）、企画部（研究企画課、信頼性保証室）、公衆衛生部（健康危機管理課、疫学解析研究課）、微生物部（細菌課、ウイルス課）、衛生化学部（食品安全課、食品化学課、医薬品課、生活環境課）の5部11課1室に再編

目 次

まえがき

沿 革

事業概要

1. 組織と業務	3
2. 施設の状況	4
3. 歳入及び歳出	5
4. 研究備品の整備状況	5
5. 試験実施件数	6
6. 調査研究実施状況	8
7. 教育、研修	12
8. 広報、報道	14
9. 受賞、表彰	16
10. 委員会等	17

課別事業内容等

企画部

研究企画課	23
信頼性保証室	25

公衆衛生部

健康危機管理課	29
疫学解析研究課	31

微生物部

細菌課	35
ウイルス課	41

衛生化学部

食品安全課	53
食品化学課	59
医薬品課	69
生活環境課	73

地研関連事業	81
--------	----

業績集

誌上発表	85
学会発表	93

事業概要

1. 組織と業務

表 1.1 所の組織と業務

(令和8年3月31日現在)

役員	部	課	主な業務
理事長 副理事長	総務部	総務課	人事労務、庶務、法務、文書管理
		管理課	予算、経理、契約、財産管理
理事 監事(非常勤)	企画部	研究企画課	法人業務の企画調整
		信頼性保証室	試験検査の信頼性確保業務
公衆衛生部	健康危機管理課	健康危機管理情報の収集と提供 基幹感染症情報センターの運営	
	疫学解析研究課	疫学解析研究業務 循環器疾患予防業務	
微生物部	細菌課	食品中の微生物の試験検査・試験法の開発 食中毒の原因因子の検索・同定	
	ウイルス課	感染症の原因病原体の検索・確定診断、感染症発生动向調査 病原体を媒介する動物、節足動物の調査研究 感染症に関する疫学調査・解析・研究	
衛生化学部	食品安全課	食品中の残留農薬、食品添加物、重金属等の試験検査、分析法の開発	
	食品化学課	アレルギー物質や自然毒等に関する検査・研究	
	医薬品課	医薬品等の品質確保および健康被害防止に関する試験・研究	
	生活環境課	水道水等の微量有害物質の検査・研究 環境中の放射能調査、環境微生物の検査・研究	

表 1.2 部課別・職種別現員表

(令和8年3月31日現在)

		研究職	事務職	技術職	技能労務職	合計
理事長		1 (1)				1 (1)
副理事長			1			1
理事			1			1
総務部	総務課		11	2		13
	管理課		8			8
企画部	研究企画課	3	1			4
	信頼性保証室	3				3
公衆衛生部	健康危機管理課	7 (4)				7 (4)
	疫学解析研究課	4 (2)		3 (1)		7 (3)
微生物部	細菌課	22				22
	ウイルス課	22		1	2	25
衛生化学部	食品安全課	19				19
	食品化学課	15				15
	医薬品課	10				10
	生活環境課	15				15
合計		121 (7)	22	6 (1)	2	151 (8)

注 1) 健康危機管理監は健康危機管理課の項に、公衆衛生部長は疫学解析研究課の項に、微生物部長は細菌課の項に、衛生化学部長は食品安全課の項に掲出

注 2) 食品安全課兼信頼性保証室室員は食品安全課の項、ウイルス課兼総務課課員はウイルス課の項に掲出

注 3) 技術職は、医師、薬学職、保健師、電気職、機械職である

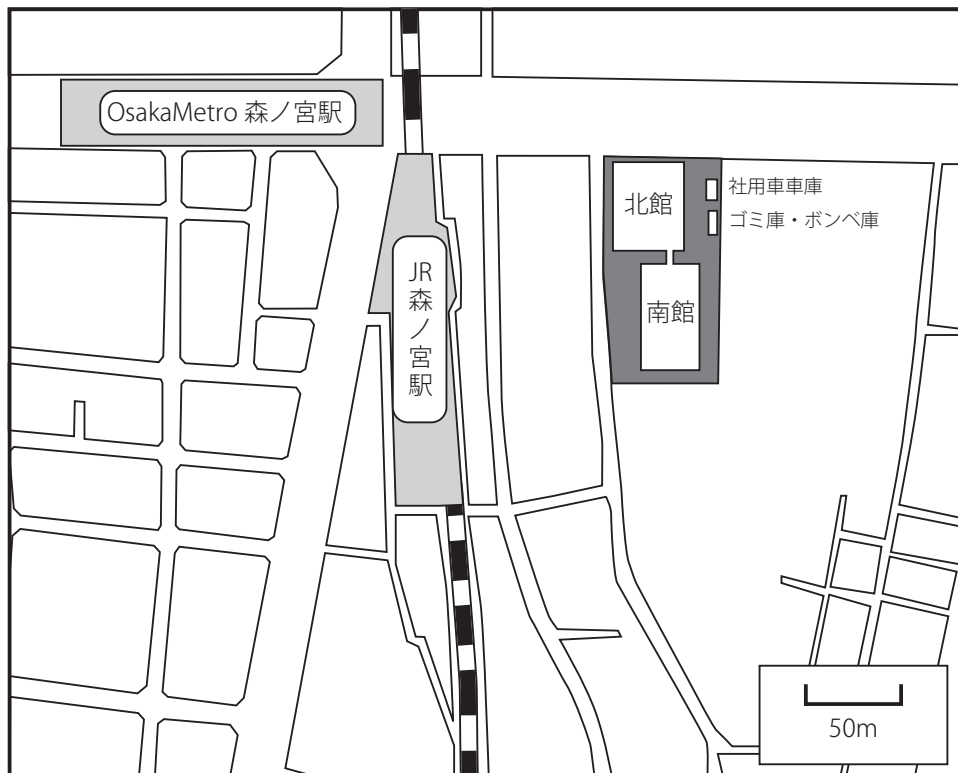
注 4) 技能労務職は、単純な労務に雇用される者である

注 5) 再雇用職員を含み、非常勤職員、契約派遣職員を除く

注 6) 医師は、内数を括弧書きにて掲出

2. 施設の状況

表 1.3 建物の概要



(令和8年3月31日現在)

名称	構造	建面積 (m ²)	延面積 (m ²)	備考
北館	SRC (鉄骨鉄筋コンクリート造) 地上13階	1,421.06	12,023.10	
南館	PCaPC (プレキャスト・プレストレストコンクリート造) 地上8階	1,351.97	8,879.14	渡り廊下 含む
ゴミ庫・ ボンベ庫	鉄骨造	60.12	60.12	
社用車庫	軽量鉄骨造	63.37	63.37	
合計 (m ²)		2,896.52	21,025.73	

3. 歳入及び歳出

表 1.4 令和7年度決算報告書

(単位：百万円)

区分	決算額
収入	2,393
運営費交付金	27
補助金	291
自己収入	72
検査手数料収入	15
受託研究収入	124
受託事業収入	80
雑入	1
前中期目標期間繰越積立金取崩	89
計	2,801
支出	
業務費	583
業務経費	451
受託研究費	11
受託事業費	121
一般管理費	598
人件費	1,533
補助事業費	27
計	2,740

4. 研究備品の整備状況

表 1.5 新たに取得した主要研究備品

(購入価格 百万円以上)

備品名	型式
防爆冷蔵庫	日本フリーザー社製 EP400
分析型マイクロ天びん	メトラー・トレド製 XPR36V
ウルトラマイクロ天びん	メトラー・トレド社製 XPR2UV
オートクレーブ	トミー精工社製 BSX-500
凍結乾燥機	東京理化工機社製 FDM-2010
高速冷却遠心機	久保田商事社製 6200
多本架冷却遠心機	久保田商事社製 S500FR
微量高速冷却遠心機	トミー精工社製 MDX-310
恒温振とう培養機	タイテック社製 BR-43FL
フラッシュ自動精製装置	バイオタージジャパン社製 Selekt Enkel
ゲル撮影装置	ATTO 社製 2305405 WSE-5400A-CP Printgraph Classic
バイオクリーンベンチ	PHC 社製 MCV-B91F-PJ
人工気象器	Nksystem 社製 LH-241PFPT-S
リアルタイム PCR	サーモフィッシャー製 QS5-96S-TIP
微量分光光度計	ライフテクノロジー社製 NanoDrop UltraC ND-ULTRAC-GL
検出器及びデジタルシグナルアナライザ	ミリオンテクノロジー社製キャンベラ社製 GC3018, DSA-LX
蛍光微分顕微鏡装置用微分干渉パーツ	カールツァイス社製 Condenser module, DIC slider
高速液体クロマトグラフ	日本ウォーターズ社製 ArchHPLC システム、Acquity Premier 計 3 台
トリプル四重極型質量分析計付高速液体クロマトグラフ	エービー・サイエックス社製 TripleQuad6500+ LC/MS/MS システム
GPC クリーンアップシステム	日本ウォーターズ社製 2707/2489/1525/ III /AF
AI-OCR ソフトウェア	DynaEye 11 Entry AI-OCR 初期ライセンス
病原体等データベースシステム	病原体保管情報システム PaSS
ウイルス検査受付システム追加機能	—

5. 試験実施件数

表 1.6 (1) 衛生検査実施件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの	計	
		住民	保健所	保健所以外の行政機関	その他（医療機関、学校、事業所等）			
結核	分離・同定・検出			23	22		1	46
	核酸検査			142	78	16	332	568
	化学療法剤に対する耐性検査			24	13		1	38
性病	梅毒					41	138	179
	その他			1			400	401
ウイルス・リケッチア等検査	分離・同定・検出	ウイルス		1,437	3,280	12	234	4,963
		リケッチア		52	19		8	79
		クラミジア・マイコプラズマ						
	抗体検査	ウイルス		198	50		172	420
		リケッチア		2	50		189	241
		クラミジア・マイコプラズマ						
病原微生物の動物試験								
原虫・寄生虫等	原虫			2			2	4
	寄生虫		3					3
	そ族・節足動物			4,306	6,278		554	11,138
	真菌・その他						67	67
食中毒	病原微生物検査	細菌		347	358			705
		ウイルス		757	52			809
		核酸検査		385	375			760
	理化学的検査			4	18			22
	動物を用いる検査							
	その他							
臨床検査	血液検査（血液一般検査）							
	血清等検査	エイズ（HIV）検査		24	59	84	88	255
		HBs 抗原、抗体検査					116	116
		その他						
	生化学検査	先天性代謝異常検査						
		その他						
	尿検査	尿一般						
		神経芽細胞腫						
		その他						
アレルギー検査（抗原検査・抗体検査）								
その他								
食品等検査	微生物学的検査			1,095	1,778		484	3,357
	理化学的検査（残留農薬・食品添加物等）			504	1,355			1,859
	動物を用いる検査				5			5
	その他							
（上記以外）細菌検査	分離・同定・検出			668	586	39	68	1,361
	核酸検査			554	586	45	63	1,248
	抗体検査			1				1
	化学療法剤に対する耐性検査			114	180	36	63	393

表 1.6 (2) 衛生検査実施件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの	計	
		住民	保健所	保健所以外の行政機関	その他（医療機関、学校、事業所等）			
医薬品・家庭用品等検査	医薬品			73			73	
	医薬部外品			239			239	
	化粧品			35			35	
	医療機器			5			5	
	毒劇物							
	家庭用品			325			325	
	その他							
栄養関係検査								
水道等水質検査	水道原水	細菌学的検査						
		理化学的検査		1	44	1	22	68
		生物学的検査			34	4		38
	飲用水	細菌学的検査			22	1		23
		理化学的検査		1	132	5	21	159
	利用水等（プール水等を含む）	細菌学的検査		6	65	37	49	157
理化学的検査			4	16	33		53	
廃棄物関係検査	一般廃棄物	細菌学的検査						
		理化学的検査						
		生物学的検査						
	産業廃棄物	細菌学的検査						
		理化学的検査						
		生物学的検査						
環境・公害関係検査	大気検査	SO ₂ ・NO ₂ ・OX等						
		浮遊粒子状物質						
		降下煤塵						
		有害化学物質・重金属等						
		酸性雨						
		その他						
	水質検査	公共用水域			2			2
		工場・事業場排水						
		浄化槽放流水			40			40
		その他			12			12
		騒音・振動						
		悪臭検査						
		土壌・底質検査						
	環境生物検査	藻類・プランクトン・魚介類						
		その他						
		一般室内環境						
	その他				14		14	
放射能	環境試料（雨水・空気・土壌等）			2,285			2,285	
	食品			30			30	
	その他			31			31	
	温泉（鉱泉）泉質検査			15			15	
	その他							
	総計	3	10,652	18,547	368	3,072	32,642	

6. 調査研究実施状況

表 1.7 通常研究

主担	研究題名
疫学解析研究課	疾病予防と健康増進に関する疫学解析研究
微生物部	腸管感染症に関する研究
微生物部	呼吸器感染症に関する研究
ウイルス課	HIV およびその他の性感染症に関する研究
微生物部	衛生動物を介する感染症に関する研究
食品安全課	器具・容器包装等に関する衛生学的研究
食品安全課 食品化学課	食品に含まれる健康危害物質に関する衛生学的研究
食品化学課	食品中の残留農薬等に関する研究
食品安全課 食品化学課	食品の安全性、機能性および品質に関する研究
医薬品課	医薬品等の品質確保及び健康被害防止に関する研究
医薬品課	危険ドラッグに関する研究
生活環境課	水環境に関する衛生学的研究
生活環境課	生活衛生に関する総合研究

表 1.8 (1) 受託・共同研究

所属	受託研究題名
公衆衛生部	疫学調査と流行動向変化に基づいた、下痢症ウイルスに対する革新的粘膜ワクチン、抗体医薬、迅速診断法、およびインビトロ評価系の開発
公衆衛生部	空間マルチオミクス解析に基づく細菌性肺炎の重症化分子機構の解明と新規感染制御法の確立
細菌課	カンピロバクターに関する定量的データに基づくフードチェーンを通じたリスク評価
細菌課	O157 ラテックス凝集試薬の性能評価
ウイルス課	国内流行 HIV 及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究
ウイルス課	性感染症病原微生物検出試薬の性能評価
ウイルス課	ノロウイルス検出キットの性能評価
食品安全課	気候変動を考慮したかび毒汚染実態解明並びに汚染低減に関する研究
生活環境課	建築物飲料水水質検査における定量精度に影響を及ぼす因子の解明ならびに改良分析法の提案に関する研究
所属	共同研究題名
細菌課	MALDI-MS 微生物検査システムに関する新規技術開発
細菌課	消化器感染症に対する診断システムに関する研究
細菌課	本邦におけるマクロライド耐性百日咳菌（MRBP）の感染実態調査およびその解析
細菌課	小児における細菌性感染症に関する研究
細菌課	下水由来の薬剤耐性菌に関する研究

表 1.8 (2) 受託・共同研究

所属	共同研究題名
細菌課	下水由来の薬剤耐性菌に関する研究
細菌課	食中毒原因菌 <i>Campylobacter jejuni</i> の原生物を利用した環境生存機構の解明
細菌課	ブルカー社製 IR バイオタイパーによる細菌の鑑別
細菌課	医療機関及び下水で検出されるバンコマイシン耐性腸球菌のナショナルサーベイランスに関する研究
細菌課	人工抗体法を用いた菌種識別法の開発
細菌課	腸管出血性大腸菌の血清型 O157 における志賀毒素転換ファージおよび志賀毒素産生性の多様性の解明
細菌課	腸内細菌科細菌の接着因子遺伝子の遺伝的多様性と宿主定着能の相関解析
細菌課 ウイルス課	ウイルスが誘導する液性免疫に関する研究
ウイルス課	病原体に対する特異抗体を用いた迅速診断キットの開発
ウイルス課	迅速 PCR 検査法に関する研究
ウイルス課	メタゲノム解析を用いた感染症の流行因子及び病原因子の探索
ウイルス課	エムボックスの迅速診断キットの開発
ウイルス課	ヒトノロウイルスなどの下痢症ウイルスの臨床分離株の樹立と、腸管上皮細胞への侵入機構の解明
ウイルス課	下痢症ウイルスに対するワクチン・抗体の開発
ウイルス課	住民と育む未来型知的インフラ創造拠点
ウイルス課	重症熱性血小板減少症候群ウイルス (SFTSV) の検出法確立に関する研究
食品安全課	ポリエチレンテレフタレート (以下「PET」という) ケミカルリサイクルにより製造された PET を食品用包装材へ適用する場合の当該 PET の品質・安全性の評価試験系構築に関する研究
食品化学課	生体試料中の各種生理活性物質存在量の解明
食品化学課	住環境の衛生微生物学的安全保証のための病原微生物オンサイトモニタリングデバイスの開発
食品化学課	LC-QTOFMS を用いたジフェニルグアニジン塩素化体の探索
医薬品課	新規精神活性物質 (危険ドラッグ) の薬物動態解析
生活環境課	生活用水の微生物生態学的水質評価法に関する研究

表 1.9 (1) 文部科学省科学研究費補助金による研究

研究種目	研究題名	所属	研究者
基盤 C	肺炎球菌新規 PspA ワクチンの宿主間感染伝播プロセスにおける予防効果の解明		濱口重人
基盤 C	国内で流行するノロウイルスの包括的ゲノム解析および病原性の比較解析	公衆衛生部	本村和嗣
若手	結核根絶を見据えた全ゲノム解析を用いた結核菌の薬剤耐性予測	健康危機管理課	北島平太
若手	呼吸器感染症の時空間的拡大機構の解明と流行予測に関する疫学的研究	疫学解析研究課	三山豪士
若手	災害が心身の健康に及ぼす長期的な影響と発症予防に寄与する要因についての疫学研究	疫学解析研究課	吉田知克
若手	大阪府健診ビッグデータを用いた説明可能な生活習慣病発症予測システムの開発	疫学解析研究課	大山飛鳥
基盤 C	食中毒起因カンピロバクターが保有する調理環境ストレス適応因子の探索	細菌課	中村寛海
基盤 C	院内感染由来 VRE が保有する vanA 線状プラスミドの多様性とその分子疫学マーカーの探索	細菌課	原田哲也
基盤 C	ウエルシュ菌新型エンテロトキシン BEC の細胞膜受容体の同定	細菌課	余野木伸哉
基盤 C	地域の社会経済状況が結核菌の遺伝的多様性に及ぼす影響	細菌課	山本香織

表 1.9 (2) 文部科学省科学研究費補助金による研究

研究種目	研究題名	所属	研究者
基盤 C	水系環境から分離されるレジオネラ属菌のヒトへの病原リスク研究	細菌課	平井佑治
基盤 C	マウスモデルを用いた侵襲性 B 群溶血性レンサ球菌の免疫原性解析	細菌課	安楽正輝
挑戦的 萌芽	セルソーターを用いた薬剤耐性菌分離検出法の開発	細菌課	山口貴弘
若手	都市構造の変化が結核罹患構造へおよび影響に関する研究	細菌課	山本香織
若手	Pan-RNA-Seq による新興病原細菌 - アルジェンテウス菌の遺伝子系統間の発現量比較解析	細菌課	若林友騎
若手	カンピロバクターの共生菌由来シデロフォア獲得に着目した病原性発揮機序の解明	細菌課	白石志帆
基盤 C	急性呼吸器感染症の包括的病原体検索および全長ゲノム配列を用いた進化解析	ウイルス課	改田厚
基盤 C	風土病梅毒 (bejel) の非流行地域 (日本) における流行状況調査と性感染症リスク評価	ウイルス課	川畑拓也
基盤 C	麻痺性貝毒食中毒の発生防止に資する普及性の高い本貝毒モニタリング法の開発	ウイルス課	川津健太郎
基盤 C	外来植物の送粉者は送粉シンドロームから予測できるか?	ウイルス課	山崎一夫
基盤 C	医療従事者に感染リスクの高い疥癬の迅速診断法の開発 - ベッドサイド診断への応用 -	ウイルス課	青山幾子
基盤 C	修飾麻疹の感染伝播リスクに関するウイルス学および免疫学的評価	ウイルス課	倉田貴子
基盤 C	新型コロナウイルスに対する血清疫学調査およびワクチンによる抗体応答に関する研究	ウイルス課	廣井聡
基盤 C	風疹患者体内で活性化する免疫の司令塔 T 細胞の風疹ウイルス排除における役割の解明	ウイルス課	上林大起
基盤 C	日本近海産魚介類に寄生するアニサキス属幼線虫の虫種規定要因の解明	ウイルス課	馬場孝
基盤 C	ヒトノロウイルス流行状況に影響を及ぼすゲノム複製と遺伝子変異に関する研究	ウイルス課	白井達哉
基盤 C	患者多発地域をモデルとした日本紅斑熱リケッチアの感染環の解明	ウイルス課	池森亮
基盤 C	エムボックスの感染リスクに関するウイルス学および疫学的評価	ウイルス課	浜みなみ
基盤 C	ワクチンの導入は RS ウイルスの流行に影響を及ぼすか	ウイルス課	小山芽以
基盤 C	重金属の化学形態別一斉分析法の確立と乳幼児における健康リスク評価及びその低減化	食品安全課	柿本幸子
基盤 C	健康食品に含まれるアレルギー原因食物由来タンパク成分の一斉分析法の開発	食品安全課	清田恭平
基盤 C	保健機能食品の品質確保を目的とした機能性タンパク類とアレルゲンの同時分析法開発	食品安全課	清田恭平
基盤 C	損傷マクレオシドを指標とした照射食品検知法の低線量照射食品への応用	食品安全課	藤原拓也
基盤 C	5,6-ジヒドロチミジンを指標に食品への照射の線量および食品の抗酸化力を評価する	食品化学課	福井直樹
基盤 C	食用種子アレルギーに対する 2S アルブミンファミリー一斉分析法の確立	食品化学課	吉光真人
基盤 C	食品を対象とした直鎖 PFAS 一斉分析法の構築と汚染実態調査	食品化学課	永吉晴奈
若手	特産酒類に適した残留農薬分析法を開発し、海外輸出拡大に貢献する	食品化学課	平田祥太郎
若手	物質群をターゲットにした食品中化学物質の高精度検出法の開発	食品化学課	松井啓史
スタート 支援	トリアゾール系抗真菌薬の一斉分析法の開発と輸入農作物における実態調査	食品化学課	武内咲知枝
基盤 C	新規乱用薬物の微量代謝物を対象とした絶対構造解析法の構築	医薬品課	土井崇広
基盤 C	危険ドラッグとして乱用されるオピオイド系薬物の実質的なりリスク評価研究	医薬品課	浅田安紀子
基盤 C	乱用薬物・代謝物双方に着目した肝障害の寄与因子解明とリスク評価	医薬品課	東雄貴
基盤 C	成分分析による植物性天然素材の品質管理と健康食品の安全性評価に関する研究	医薬品課	坂本裕介
基盤 C	新型タバコによる合成カンナビノイドの熱分解	医薬品課	武田章弘
基盤 B	水道水におけるアメーバと寄生病原細菌との関連性および潜在的感染リスクの解明	生活環境課	枝川亜希子
基盤 C	PFAS の一括規制に向けた環境残留性に着目した構造的特徴の解析	生活環境課	高木総吉

表 1.9 (3) 文部科学省科学研究費補助金による研究

研究種目	研究題名	所属	研究者
基盤 C*	大気中マイクロプラスチックの長期変動解析と発生源解明および呼吸器系作用部位の推定	研究企画課	尾崎麻子
基盤 C*	マイクロプラスチックが農用地における重金属の動態に及ぼす影響	研究企画課	尾崎麻子
基盤 B*	壮年期の社会心理的負担と軽度認知障害に関する研究	疫学解析研究課	清水悠路
挑戦的萌芽*	血液バイオマーカーを用いた栄養評価による認知症発症リスク解明の疫学研究	疫学解析研究課	清水悠路
国際 B*	ガーナにおける薬剤耐性菌エンデミック実態の解明	細菌課	安楽正輝
基盤 A*	途上国社会に蔓延する薬剤耐性菌の耐性安定化機序解明	細菌課	河原隆二 山口貴弘
基盤 B*	プラスミド性薬剤耐性菌のヒト保菌及び腸内細菌耐性拡散機構の解明	細菌課	山口貴弘
基盤 B*	創薬を見据えた革新的ヒトノロウイルス in vitro 増殖法の確立	ウイルス課	左近直美
基盤 B*	捕食者体内の攻防：カエル類と昆虫類における進化的軍拡競争の解明	ウイルス課	山崎一夫
挑戦的萌芽*	スズメバチ類をめぐる音響擬態リングの解明	ウイルス課	山崎一夫
基盤 B*	難分解性有機フッ素化合物の包括的毒性評価―酵母を用いたリスク低減への挑戦	食品化学課	永吉晴奈

* は研究分担者

表 1.10 その他の研究助成金による研究

補助金等事業者名	研究題名	所属	研究者
厚生労働科学研究費補助金*	大規模イベントに対する戦略的リスクアセスメント及びヘルスシステムの強化に向けた標準的枠組に関する研究	公衆衛生部	本村和嗣
厚生労働科学研究費補助金*	循環器疾患及び糖尿病、COPD 等の生活習慣病の個人リスク及び集団リスクの評価ツールの開発と応用のための研究	疫学解析研究課	清水悠路
厚生労働科学研究費補助金*	腸管出血性大腸菌 (EHEC) 感染症等の病原体に関する解析手法及び共有化システム構築のための研究	細菌課	原田哲也
厚生労働科学研究費補助金*	ワクチンの有効性・安全性の疫学的評価と予防接種政策の最適化に資する研究	ウイルス課	森川佐依子
厚生労働科学研究費補助金*	食品衛生検査施設等の検査の信頼性確保に関する研究	食品安全課	新矢将尚
厚生労働科学研究費補助金*	環境における薬剤耐性微生物及び抗微生物剤の調査法等の確立のための研究	食品化学課	山口進康
厚生労働科学研究費補助金*	公衆浴場等におけるレジオネラ発生防止及び衛生管理推進のための研究	生活衛生課	枝川亜希子
株式会社ヤクルト本社	水系環境由来レジオネラ属菌の細胞変性プロファイルと遺伝的規定因子の統合的解析	公衆衛生部	本村和嗣
大同生命厚生事業団	大阪府と周辺地域における HTLV-1 ウイルスの分子系統解析	ウイルス課	阪野文哉
大同生命厚生事業団	麻しん疑似検体からのデングウイルス検出による紛れ込みリスクの評価	ウイルス課	池森亮
大同生命厚生事業団	陶磁器製食器からの有害元素の溶出に関する実態調査	食品安全課	岸映里
大同生命厚生事業団	大阪府内に流通する食品における PFAS の一日摂取量調査	食品化学課	宮本伊織
公益財団法人 山崎香辛料振興財団	DNA 損傷ヌクレオシドである 5,6-ジヒドロチミジンを指標とした香辛料の放射線照射履歴の検知	食品化学課	福井直樹
日本農薬学会	検査困難なジビエに最適化した残留農薬試験法の開発	食品化学課	平田祥太郎

* は研究分担者

7. 教育、研修

表 1.11 府内関係職員への検査業務に関する技術研修

担当課	テーマ	対象	回数
健康危機管理課 細菌課	感染症研修（薬剤耐性菌・応用編）	大阪府内保健所職員等	2
健康危機管理課 細菌課	疫学研修（腸管出血性大腸菌感染症）	大阪府内保健所職員等	1
細菌課	保健所感染症担当者研修会	大阪府保健所保健師	1
細菌課	検査技術研修（微生物学的検査）	大阪府食品衛生監視員	2
細菌課	感染症研修 薬剤耐性菌（CRE・VRE）感染症について	大阪府保健所保健師等	2
ウイルス課	感染症媒介蚊に関する研修	大阪府健康医療部職員等	2
ウイルス課	蚊等衛生害虫に係る同定研修	大阪市生活衛生監視事務所職員等	3
ウイルス課	HIV/エイズ・梅毒の現況と検査について（WEB開催）	大阪府保健師	1
ウイルス課	ノロウイルス遺伝子検出・遺伝子型別	大阪府保健所職員等	1
ウイルス課	急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスと分子疫学について	大阪市保健所職員	1
ウイルス課	ねずみの外部寄生虫同定研修	大阪市生活衛生監視事務所職員等	1
食品安全課	検査技術研修（理化学検査：亜硝酸根）	大阪府食品衛生監視員	1
食品化学課	検査技術研修（理化学検査：抗生物質・残留農薬）	大阪府食品衛生監視員	2
医薬品課	医薬品分析の研修	大阪府薬事監視員等	4
生活環境課	大阪府水道水質検査外部精度管理結果報告会	大阪府健康医療部職員等	1
生活環境課	令和7年度府内水道行政機関連絡会議（水道水質におけるPFAS問題）	大阪府健康医療部職員等	1
生活環境課	PFOS・PFOA研修	大阪府健康医療部職員	1
		合計	27

表 1.12 国内外の公衆衛生関係者に対する研修・講演・見学

担当課	テーマ	対象	人数
健康危機管理監	行政医師業務研修	公衆衛生専門職員等	14
健康危機管理課 医薬品課	環境医学実習	大阪大学医学部生	7
総務課	大都市衛生主管局長会議行政視察等	政令指定都市等衛生主管局長等	23
総務課 公衆衛生部	施設視察、FETP概要説明	福岡市副市長等	5
総務課	3機関合同管理職研修、施設見学	大阪府内地方独立行政法人3研究機関職員	23
公衆衛生部	大阪・関西万博感染症解析センター見学	名古屋市健康福祉局職員等	4
公衆衛生部	健康危機管理課 O-FEIT 活動について	福岡市保健医療局職員	3
公衆衛生部	大阪・関西万博感染症解析センターについて	横浜市衛生研究所職員	4
健康危機管理課 細菌課	EHEC 検査に関わる実験室および検査見学	国立感染症研究所所実地疫学専門家コース（FETP）研修生	3
健康危機管理課 ウイルス課	感染症危機対応に直結する検査診断技術、ラボ・バイオセーフティー管理およびサーベイランスシステムの強化	独立行政法人国際協力機構（JICA）研修生等	11
健康危機管理課	施設見学	大阪公立大学医学部生等	4
健康危機管理課	健康危機管理課 O-FEIT 活動について	大阪公立大学看護学部生等	10
細菌課	感染症細菌検査（百日咳等）に関わる実験室見学	滋賀県衛生科学センター職員	1
細菌課	食品細菌および食中毒検査に関わる実験室見学	国立医薬品食品衛生研究所職員	1
ウイルス課	ノロウイルス遺伝子型別関連実験室見学	奈良市保健所職員	1
ウイルス課	透過型電子顕微鏡（TEM）を用いたウイルス観察研修	地方衛生研究所職員等	24
食品安全課 食品化学課 生活環境課	業務概要説明及び施設見学	大阪公立大学獣医学部生等	41
食品安全課 食品化学課	インターンシップ実習	武庫川女子大学食物栄養科学部生	4
食品化学課	衛生化学講義、ヒスタミン検査実習	大阪医科薬科大学看護学部生等	6
食品化学課	施設視察	国立医薬品食品衛生研究所職員	2
医薬品課	近畿府県薬務主管課長会 GMP 研修	各府県 GMP 調査員	32
医薬品課	環境医学実習	大阪大学医学部生	3
医薬品課	SSH ミラクルチャレンジ『大阪健康安全基盤研究所研修』	大阪府立生野高等学校生等	6
生活環境課	2025年度建築物飲料水水質検査業外部精度管理説明会	建築物飲料水水質検査業者職員	25
		合計	257

表 1.13 外部研修等への講師派遣

講演日	内容	講演会等名	担当部署
R7.7.6	若手医師のための感染症セミナー	大阪感染症サマーセミナー（大阪大学）	健康危機管理監
R7.9.18	戦略的場所での下水サーベイランスについて	GLOWACON at the EXPO OSAKA（GLOWACON）	健康危機管理監
R7.10.16	感染性胃腸炎対策研修	高齢者入所施設向け研修会（守口保健所）	健康危機管理監
R7.11.23	科学から社会へ一次のパンデミックに備えた研究と実装の架け橋	森ノ宮キャンパス開設記念大阪公立大学・長崎大学感染症合同シンポジウム（大阪公立大学）	健康危機管理監
R7.12.2	大阪健康安全基盤研究所における信頼性確保の取組	令和7年度食品GLP検査の信頼性確保に係る研修会（京都府保健環境研究所）	信頼性保証室
R7.12.11-12	積極的疫学調査について	令和7年度積極的疫学調査研修（大阪市）	健康危機管理課 微生物部
R8.1.23	麻しんへの対応	令和7年度第6回健康危機管理担当保健師研修・連絡会（大阪市）	健康危機管理課 ウイルス課
R8.1.29	地域における感染症対策の充実に向けて～集団発生が疑われる事例への対応について～腸管出血性大腸菌感染症への対応	感染症対策に関する保健師研修（応用編）（大阪市）	健康危機管理課 細菌課
R7.7.24	大阪府内の感染症発生状況	第1回吹田市院内感染対策合同カンファレンス	健康危機管理課
R8.1.19	麻しん疑い患者への来院から確定診断までの対応	枚方市感染症ネットワーク会議	健康危機管理課
R7.6.27	禁煙支援について	令和7年度和泉保健所禁煙支援担当者研修会	疫学解析研究課
R8.2.26	禁煙支援について	令和7年度第2回泉佐野保健所地域・職域連携推進会議研修会	疫学解析研究課
R7.11.20	ノロウイルスの特徴から考える、食中毒予防対策について・カンピロバクターを起因とする食中毒を発生させないために	令和7年度秋季食品衛生研修会「ノロウイルス食中毒予防講習・カンピロバクター食中毒予防講習（大阪食品衛生協会）」	細菌課 ウイルス課
R8.1.23	ウェルシュ菌検査法	検査能力向上講習会（JIHS 国立感染症研究所）	細菌課
R8.2.4	結核菌検査のゲノム解析の現状と課題	令和7年度第13回ワークショップ（ストップ結核パートナーシップ関西）	細菌課
R7.4.22	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について	動物におけるSFTS感染症研修（大阪府）	ウイルス課
R7.6.19	蚊の生態と防除	2025年防除作業従事者講習会（一般社団法人大阪ビルメンテナンス協会建築物衛生管理委員会）	ウイルス課
R7.6.26	大阪府における警戒すべき節足動物媒介感染症～万博での対策も含めて～	2025年富田林保健所公衆衛生協力会セミナー	ウイルス課
R7.6.27	HIV検査の基礎知識	令和7年度HIV／エイズ基礎研修会（公益財団法人エイズ予防財団）	ウイルス課
R7.9.12	大阪府内におけるアライグマサーベイランス調査とダニ媒介感染症について	第23回大阪府アライグマ対策連絡協議会総会（大阪府）	ウイルス課
R7.10.15	地方衛生研究所におけるウイルス検査について	ウイルス研修（JIHS 国立感染症研究所）	ウイルス課
R8.1.27	ノロウイルスはなぜ流行る～他人事じゃない！ウイルス性食中毒～	令和7年度「食の安全・安心講習会」（大阪市）	ウイルス課
R8.1.29	感染性胃腸炎（ウイルス）の大安研での検査と遺伝子解析	令和7年度第1回保健所検査課部門別業務研修（大阪府）	ウイルス課
R7.11.20	食品用ラミネートフィルムに含まれる金属類の溶出	第74回回技術大会（日本缶詰びん詰レトルト食品協会）	食品安全課
R8.3.5	浄化槽の構造、機能等について	令和7年度大阪府浄化槽管理士講習会（大阪府）	生活環境課

表 1.14 大学等の講師

所属	研究者	大学等教育機関名	期間	講義	回数
	濱口重人	岡山大学	R7.4.1～R7.9.30	細菌学における遺伝子検査・薬剤耐性	1
疫学解析研究課	大山飛鳥	帝京大学大学院	R7.9.11～R7.9.12	医学物理セミナー	1
疫学解析研究課	清水悠路	長崎大学大学院	R7.10.22	Graduate Seminar	1
研究企画課	尾崎麻子	大阪公立大学	R7.4.1～R7.9.23	健康へのアプローチ	1
微生物部	入谷展弘	大阪公立大学	R7.4.1～R7.9.28	ウイルス感染症コース	1
細菌課	河合高生	大阪教育大学	R7.4.1～R7.9.30	微生物学	15
ウイルス課	山崎一夫	滋賀県立大学	R7.9.26～R8.3.31	環境動物学	5
食品安全課	新矢将尚	京都府立大学	R7.4.1～R7.9.28	水質保全論	15
食品化学課	山口進康	大阪大学	R7.4.1～R8.3.31	薬学入門2	1

8. 広報、報道

表 1.15 マスメディア対応

掲載日	報道機関	内容	関係部署
R7.5.22	産経新聞	はしかの感染状況と注意点について	公衆衛生部
R7.6.5	NHK	レジオネラ菌について	健康危機管理監
R7.6.5	NHK	レジオネラ菌の写真	生活環境課
R7.6.5	関西テレビ放送	レジオネラ菌の写真	生活環境課
R7.6.7	関西テレビ放送	レジオネラ菌の写真	生活環境課
R7.6.10	関西テレビ放送	レジオネラ菌の写真	生活環境課
R7.6.29	共同通信社	万博下水サーベイランスの研究に関する取材	理事長
R7.7.1	読売新聞	リンゴ病（伝染性紅斑）について	公衆衛生部
R7.7.1	読売新聞	レジオネラ菌について	理事長
R7.7.2	神戸新聞社	瓶ものや保存食に直箸することの危険性や、影響について	細菌課
R7.7.3	読売新聞	大阪・関西万博での防疫、感染症監視対策について	理事長
R7.7.18,25	NHK	蚊の予防について	ウイルス課
R7.7.18	NHK	蚊の写真	ウイルス課
R7.8.1	ABEMA	日本海裂頭条虫の写真	ウイルス課
R7.8.14,19,30	読売新聞	マクロライド耐性百日咳菌について	細菌課
R7.9.8	TNC テレビ西日本	RS ウイルスの写真	ウイルス課
R7.9.8	TVQ 九州放送	インフルエンザウイルスの写真	ウイルス課
R7.11.27	TVQ 九州放送	インフルエンザウイルスの写真	ウイルス課
R7.12.19	共同通信社	万博強化サーベイランス	公衆衛生部
R8.2.1	NHK	赤キャベツ色素の色調変化写真	食品安全課
R8.2.3	読売新聞	マスギャザリング	公衆衛生部
R8.2.17	朝日新聞	マダニの写真	ウイルス課

表 1.16 大安研ニュースの発行

号数	発行日	記事	関係部署
No.23	令和7年7月	真菌による初の新興感染症～カンジダ・アウリス感染症とは～ よく使われている除草剤グリホサート	細菌課 食品化学課
No.24	令和7年11月	こどもの化学物質の摂取量はどのぐらい？～室内濃度の規制が新たに検討されている物質～ Safety-IとSafety-IIの視点から考える検査の信頼性～ヒューマンエラーを責めない文化を育てる～	生活環境課 信頼性保証室
No.25	令和8年3月	食物アレルギー表示ってどうなっているの？基本と最新動向 大阪・関西万博を安全に！感染症の発生を監視する取り組み	食品安全課 健康危機管理課

表 1.17 大安研セミナーの開催

回	開催日	演題	講師	所属
No.16	R7.8.22	研究・実験施設の安全衛生管理	山本仁	大阪大学 安全衛生管理部
No.17	R7.10.3	少品目の標準物質との MS/MS スペクトル類似度を指標とした食品中サルファ剤の網羅的検出	松井啓史	食品化学課
		マイクロ流路デバイスを用いた食中毒原因菌の迅速オンサイトモニタリング方法の構築	徳永佑亮	食品安全課
		地方衛生研究所の微生物検査・研究における次世代シーケンサーの活用	若林友騎	細菌課
		大阪健康モバイルアプリ「アスマイル」：機械学習による生活習慣病発症予測とアプリ利用の効果検証	大山飛鳥	疫学解析研究課
No.18	R8.2.25	合成カンナビノイド NPB-22 の生物学的影響と熱分解	武田章弘	医薬品課
		水道水質検査におけるガスクロマトグラフ - 質量分析法のヘリウム代替キャリアガスに関する検討	小泉義彦	生活環境課
		2025 大阪・関西万博における下水サーベイランスによる感染症対策の試み	左近直美	ウイルス課

表 1.18 「報道機関連絡会」の開催

開催日	内容	講師
R7.5.15	大阪府の感染症情報 侵襲性髄膜炎菌感染症	本村和嗣 安楽正輝
R7.9.18	大阪府の感染症情報 百日咳	本村和嗣 北島平太 / 山口貴弘
R7.10.17	大阪府の感染症情報 インフルエンザ	本村和嗣 西田陽子 / 森川佐依子
R7.12.19	大阪府の感染症情報 大阪・関西万博感染症強化サーベイランス	西田陽子 本村和嗣

表 1.19 広報活動

開催日	種別	演題 / 内容	講師	参加者	備考
R7.4.10	第 2 回大安研公開講座	万博がやって来る！感染症対策の備え	朝野和典	74 名	
R7.8.5	夏休み科学体験	バスボム作り、 浄水処理の話、浄水処理体験		24 名	小学生対象 (保護者同伴)
R7.9.25	大阪府結核・呼吸器予防 週間啓発セミナー	感染症との共存時代～予防・接種・健診 のすすめ～	朝野和典	100 名	大阪府との共催

9. 受賞、表彰

表 1.20 受賞一覧

受賞日	所属	氏名	表彰名	題名
R7.4.18	ウイルス課	佐々木麻綾	第77回日本衛生動物学会大会 優秀発表賞	大阪府内で採取されたトコジラミの分子系統解析：地域および国際的視点から
R7.7.4	食品化学課	福井直樹	第62回アイソトープ・放射線研究発表会 ポスター賞	照射原料を用いた模擬加工食品の照射履歴検知の試み
R7.7.30	細菌課	河原隆二	令和7年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部 支部長表彰	—
R7.7.30	食品化学課	福井直樹	令和7年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部 支部長表彰	—
R7.10.12	食品化学課	平田祥太郎	日本獣医公衆衛生学会（近畿）奨励賞	梅加工飲料を対象とした残留オキシテトラサイクリン試験法の検討
R7.10.16	食品安全課 研究企画課	岸映里、尾崎麻子、新矢将尚	日本食品衛生学会 論文賞	食品用ラミネートフィルムに含まれる金属類の溶出
R7.10.28	微生物部	入谷展弘	地方衛生研究所全国協議会 会長表彰	—
R7.11.8	ウイルス課	阪野文哉	日本 HTLV-1 学会 令和7年度若手研究者奨励賞	大阪府の MSM における HTLV-1 抗体陽性率の推計
R7.11.9	細菌課	安楽正輝	第57回日本小児感染症学会総会・学術集会 ポスター賞	侵襲性黄色ブドウ球菌感染症における分離菌株の Leukocidin 保有率
R7.11.20	食品安全課 研究企画課	岸映里、尾崎麻子、新矢将尚	日本缶詰びん詰レトルト食品協会 令和7年度逸見賞	食品用ラミネートフィルムに含まれる金属類の溶出

表 1.21 職員表彰受賞者一覧

表彰項目	受賞者	所属
優秀職員表彰 研究開発賞最優秀賞	食品健康危機事例対策チーム	-
優秀職員表彰 研究開発賞優秀賞	坂田淳子、梅川奈央、若林友騎	細菌課
優秀職員表彰 研究開発賞優秀賞	浅田安紀子、土井崇広	医薬品課
優秀職員表彰 研究開発賞優秀賞	福井直樹、藤原拓也、高取聡	食品化学課 食品安全課 生活環境課
優秀職員表彰 業務改善賞	若林友騎、平井佑治、余野木伸哉、山口貴弘、中村寛海、神吉政史	細菌課
功績職員表彰	徳永佑亮	食品安全課

10. 委員会等

表 1.22 委員会一覧

委員会名	委員長・議長	委員*	備考
安全衛生委員会	副理事長	16名	労働安全衛生法及び安全衛生管理規程による職員の安全確保及び健康増進等に関する審議を行う。
安全推進委員会	安全管理者 (衛生化学部長)	12名	安全衛生委員会の下位組織として、職場環境の安全に関する措置に関する検討を行う。
感染症防止対策委員会	衛生管理者 (公衆衛生部長)	10名	職員の感染による健康被害防止に関する検討を行う。
兼業等審査委員会	理事長	3名以上	理事長が必要と認める職員の兼業の許可に関する審議を行う。
備品委員会	総務部長	17名	備品の計画的な整備及び効率的な利用を図ることを目的として、購入内容に関する審議を行う。
総合評価一般競争入札事業者選定委員会	副理事長	3名以上	総合評価一般競争入札を実施するにあたり、落札者決定基準及び評価点の決定に係る審査を行う。
防火・防災管理委員会	総務部長	7名	防火・防災管理業務の効果的な推進を図り、類似用途での被害発生等を踏まえた消防計画の見直し、改善を行うための事項について審議する。
食品衛生検査等業務管理運営委員会	理事長	10名	食品衛生法等に基づく食品衛生検査又は試験の信頼性確保のため、業務管理に関する基本方針等の審議を行う。
病原体等検査業務管理運営委員会	理事長	7名	感染症法に基づく病原体等検査の信頼性確保のため、業務管理に関する基本方針等の審議を行う。
地域連絡会	理事長	18名	研究所運営に対する住民の理解を深めるため、安全実験施設の運用状況や、調査研究、検査業務について、地域住民に情報を提供する。
倫理審査委員会	企画部長	10名	人を対象とする医学系研究等の倫理審査を行う。
利益相反管理委員会	企画部長	10名	外部資金等を利用して実施する調査研究において、当該研究員の利益相反管理を目的とした審議を行う。
調査研究審査委員会	理事長	7名	法人において実施している調査研究の妥当性に関する審議を行う。
調査研究評価委員会	外部有識者	6名	研究水準の向上及び活性化を図るため、研究内容について外部有識者により評価を行う。
組換え DNA 実験安全管理委員会	組換え DNA 実験 安全主任(細菌課長)	—	組換え DNA 実験の実施状況の確認及び次年度実験計画に関する審議を行う。
動物実験委員会	ウイルス課長	11名	動物実験を立案し、実施する場合に遵守すべき事項を示し、科学的はもとより、動物福祉の観点から、適正な実験の実施に関する審議を行う。
大安研セミナー運営委員会	食品安全課長	10名	調査研究の推進及び試験検査等の技術と水準の向上をはかるために開催される所内研究発表会を機能的かつ円滑に行う。
大安研ニュース編集委員会	生活環境課長	9名	広報誌・メールマガジンに掲載する記事内容について検討のうえ、紙面の発行、HP への掲載等による情報発信を行う。
研究年報編集委員会	疫学解析課長	9名	年1回発行される研究報告書の原稿作成に伴う業務を行う。
病原体等取扱安全管理運営委員会	病原体等取扱主任者 (微生物部長)	9名	取扱う病原体等の安全管理について定め、病原体等に起因して発生する曝露及び感染症法に基づく事故の未然防止に関する審議を行う。
ECD 運営委員会	生活環境課長	4名	ECD の使用管理に関する事項を定め、放射線障害の防止と安全を確保に関する審議を行う。
目的積立金活用選定会議	総務部長	7名	設立団体の長の承認を受けた目的積立金を効果的かつ効率的に活用するため、活用内容の選定に関し、その必要性や妥当性を審議する。
コンプライアンス推進委員会	理事長	7名	コンプライアンスの推進、公益通報の処理及びその他必要な事項に関することについて、取組の検討、審議する。
情報セキュリティ委員会	理事長	19名	情報セキュリティを確保するために遵守すべき基本的事項を定める。

* 委員長・議長を含む人数

課別事業内容等

企 画 部

研 究 企 画 課
信 頼 性 保 証 室

研究企画課

研究企画課は、中期計画・年度計画関連業務、検査・研究管理業務、所内研修の企画、広報活動、報道対応、職員表彰、府内外の関連機関との連絡調整、学術情報室の運営を担当している。このうち検査・研究管理業務においては、検査実施状況の集計と府・国への報告を行った。また、各種委員会を開催した。

1) 中期計画・年度計画関連業務

令和6年度実績を報告書としてとりまとめた。また、令和7年度計画の進捗管理を実施するとともに、令和8年度計画を作成した。

第3期（令和9年度～令和13年度）に向け、中期計画策定会議を2回開催した。

第1回開催日：令和7年7月8日

第2回開催日：令和7年12月2日

2) 検査・研究管理業務

調査研究業務の実施にあたって遵守すべき医学研究等倫理、組換え遺伝子実験、利益相反管理、病原体等安全管理等の規程に関する各委員会を適宜開催し、関連業務の適切な運営管理を行った。

(1) 調査研究審査委員会

各課での研究の取組みの柱となる通常研究課題、個別の公募研究、受託研究、共同研究について、行政の要請や社会的な課題への対応と還元の観点から、調査研究審査委員会において審査した。

(2) 利益相反管理委員会

厚生労働科学研究、受託研究及び共同研究において、当該研究を担当する研究員の利益相反を審査した。

(3) 調査研究評価委員会

微生物や衛生化学に関する外部の有識者・専門家（計6名）からなる調査研究評価委員会を設置し、当所における調査研究の客観的な評価を行った。

開催日時：令和7年12月23日

評価対象：公衆衛生部1課題、微生物部1課題、衛生化学部3課題（計5課題）

各選択課題の要旨及び口頭発表をもとに、研究の必要性、内容、成果及び総合評価の各項目について評価を受けた。評価対象となった課題についての総合評価は、5

段階評価（1：再考すべき 2：改善を要する 3：標準的である 4：優れている 5：非常に優れている）で2.6～4.2（平均3.66）であり、その結果をホームページで公表した。指摘事項については、個別に対応を検討し、評価委員に回答した。

(4) 倫理審査委員会

当所において行われる研究が、関連する倫理指針の趣旨に沿って実施されることを目的とし、自然科学の有識者、倫理学あるいは社会科学面の有識者、一般市民の立場の者からなる倫理審査委員会を設置し、倫理審査委員会を令和8年2月12日に開催した（迅速審査：計11課題）

3) 重点研究課題の推進

社会的なニーズや住民の関心が高い課題など、地方衛生研究所として重点的に実施すべき喫緊の研究課題として、「侵襲性黄色ブドウ球菌感染症における分離株のロイコシジン保有状況と病原性解析」を令和7年度重点研究として調査研究審査委員会で選出した。

4) 所内研修の企画

当所職員等を対象に、研究機関として礎となる、研究倫理に関する研修や、感染症法に係る研修等を実施した。

5) 報道連絡会の開催

報道機関に対して連絡会を開催し、大阪府の感染症情報や話題の感染症等について解説した。

6) 職員表彰の実施

職員の勤労意欲の高揚を目的に、優れた研究の立案・遂行、革新的な検査手法の開発、業務改善等、法人の社会的な評価に貢献した職員に対し、表彰を行った。

7) 委員会

大阪府救急医療対策審議会専門委員（2回）（小島）

令和7年度 食品安全委員会器具・容器包装専門調査会
専門委員・参考人（内閣府）（尾崎）

令和7年度 食品衛生基準審議会器具・容器包装部会 参
考人（消費者庁）（尾崎）

令和7年度 日本食品化学学会 監事（日本食品化学学会）
（尾崎）

令和7年度 食品衛生学雑誌 編集委員（日本食品衛生学
会）（尾崎）

令和7年度 日本薬学会 環境・衛生部会 容器包装試験法
専門委員（尾崎）

8) その他

R7.10.23 東成区医師会主催第42回健康展に参加
握力測定及び立ち上がりテスト（主担：疫学解析研究課）

信 頼 性 保 証 室

信頼性保証室は、法に基づく業務管理が求められる各部門の試験検査に対し、独立した部門として信頼性保証を担っている。内部監査（内部点検と同義）により、業務が適正に遂行されていることを検証するとともに、内部精度管理の記録を点検して、試験検査の信頼性が確保されていることを確認した。また、厚生労働省、環境省、（一財）食品薬品安全センター等が実施する外部精度管理調査に参加し、研究所として検査の信頼性の確保に取り組んだ。

1) 業務管理体制の検証

食品衛生検査等業務および病原体等検査業務については、業務管理運営委員会を開催し、医薬品試験検査業務、水道水質検査業務および計量証明事業については、マネジメントレビューにより、試験検査の業務管理体制の適切性および有効性を確認した。

2) 内部監査

食品衛生検査等業務は、検査区分ごとに特定原材料検査（食品安全課）、残留農薬検査（食品化学課）、クロストリジウム属菌検査（細菌課）およびノロウイルス・A型肝炎ウイルス検査（ウイルス課）を対象として、実験室等への立入調査を実施し、試験検査業務に関する点検を行った。病原体等検査業務については、検査区分ごとに結核菌検査（細菌課）および季節性インフルエンザウイルス検査（ウイルス課）について実験室等への立入調査を実施し、試験検査業務に関する点検を行った。水道水質検査業務は、内部監査チームを編成し、検査部門および信頼性確保部門の業務記録の監査を実施した。医薬品試験検査業務では、自己点検およびマネジメントレビューの結果を確認した。計量証明事業では、指定地域特定施設等放流水の全窒素・全りん検査を対象として、実験室等への立入調査を実施し、試験検査業務に関する点検を行った。必要に応じて試験検査部門に文書で是正処置を求め、講じられた是正処置を確認した。

3) 精度管理

各試験検査部門において、定められた手順にしたがって内部精度管理を実施し、検査区分責任者等が検査員の技能評価と検査等の精度の評価を行った。その記録を信頼性確保部門でとりまとめて点検し、検査項目ごとに設

定した精度が確保されていることを確認した。また、表 2.1 に示した外部精度管理調査に参加し、結果が公表された項目については、評価の確認を行った。全体的に良好な結果であった。一部の調査項目について、統計学的に棄却される異常値には該当しないが、「満足」の評価基準となる目標範囲内に収束しなかったものがあつた。これらの調査項目については、試験検査部門に文書で原因究明と改善を求め、講じられた措置を確認した。

4) 研修

信頼性確保業務への理解を深め、検査の信頼性の向上を図るため、試験検査部門の職員を対象に「検査業務における信頼性確保研修」を開催した。さらに、試験検査に関する知識・技能の習得のため、職員 8 名を技術研修等に派遣した。

5) 委員会等

R7.7.16 大阪府保健所生活衛生室検査課業務管理運営委員会（阿久津）

表 2.1 令和7年度 外部精度管理調査参加項目

試験検査の分類	試験項目	種別	対象媒体	結果	実施機関
食品衛生検査等 (理化学的検査)	重金属検査 (カドミウム)	定量	玄米粉	良好	
	食品添加物検査 (酸性タール色素中の許可色素)	定性	シロップ	良好	
	残留農薬検査 (6種農薬中の3種)	定性・定量	にんじんペースト	概ね良好	
	残留動物用医薬品検査 (スルファジミジン)	定量	豚肉 (もも) ペースト	良好	
食品衛生検査等 (微生物学的検査)	黄色ブドウ球菌検査	定性・定量	マッシュポテト	良好	※ 1
	サルモネラ属菌検査	定性	液卵	良好	
	大腸菌群検査	定性	ハンバーグ	良好	
食品表示に係る検査 (特定原材料検査)	特定原材料検査 (卵)	定量	ベビーフード	良好	
食品表示に係る検査 (栄養成分検査)	栄養成分検査 (灰分)	定量	プロテインバー	良好	
水道水質検査 (理化学的検査)	無機項目 (塩化物イオン)	定量	水	概ね良好	※ 2
	有機項目 (シス-1,2-ジクロロエチレン、トランス-1,2-ジクロロエチレン)	定量	水	良好	
病原体等検査	腸管出血性大腸菌の遺伝子検査	定性	腸管出血性大腸菌 DNA	概ね良好	
	麻疹・風疹ウイルスの遺伝子解析	定性	麻疹・風疹ウイルス RNA	良好	※ 3
	SARS-CoV-2 の次世代シーケンシングによるゲノム解析	定性	SARS-CoV-2 ウイルス RNA	概ね良好	
	レジオネラ属菌検査	定性・定量	水溶性ディスク	良好	※ 4
	結核菌遺伝子型別検査 (VNTR)	定性	結核菌 DNA	良好	※ 5
医薬品試験	エナラプリルマレイン酸塩錠の定量・純度試験	定性・定量	錠剤	集計中	※ 3

※ 1：(一財) 食品薬品安全センター 秦野研究所

※ 2：環境省

※ 3：厚生労働省

※ 4：英国健康安全保障庁 (UKHSA)、厚生労働科学研究費研究班

※ 5：(公財) 結核予防会 結核研究所、厚生労働科学研究費研究班：(一財) 食品薬品安全センター 秦野研究所

公衆衛生部

健康危機管理課
疫学解析研究課

健康危機管理課

健康危機管理課は、実地疫学調査、公衆衛生情報の収集及び提供、公衆衛生関係者の教育及び訓練に関すること、大阪府感染症情報センターの管理・運営を担当している。また、今年度は大阪大学感染症総合教育研究拠点との2者間で包括連携協定を締結し、大阪府、大阪市、大阪公立大学及び大阪大学及との5者間で「感染症危機事象に備えた連携協力に関する協定」を締結した。

1. 健康危機対応

1) 健康危機事象への対応

(1) 疫学調査チーム（O-FEIT: Osaka-Field Epidemiologic Investigation Team）の派遣

大阪市からの要請により、大阪市保健所が実施する薬剤耐性菌事例2件の疫学調査支援活動を行った。O-FEITが微生物部（細菌課）と連携して管轄保健所の相談対応や疫学調査支援活動を行った。

堺市からの要請により、堺市保健所が実施する急性呼吸器感染症集積事例及び消化器症状集積事例の疫学調査支援活動を微生物部と連携し行った。

(2) その他の感染症への対応

大阪府内の保健所からの相談事例（麻しん、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、レジオネラ症、結核）について微生物部と連携して疫学情報を集約し、迅速に関係機関と対応した。

(3) 2025年日本国際博覧会への対応

令和7年1月より設置した「大阪・関西万博感染症情報解析センター」において、大阪府・市担当者、大阪府内全保健所、医療機関、2025年日本国際博覧会協会、国立感染症研究所と連携して感染症強化サーベイランスを11月末まで実施し、万博関係者や万博来場者に影響を与える健康危機事象の早期発見・早期対応支援に取り組んだ。

(4) 情報発信

大阪府感染症情報センターのホームページを通じて、健康危機事象に関する注意喚起や「大阪・関西万博感染症情報解析センター」の記事を適時掲載した。大阪府内で発生した麻しん症例に関する情報を集約し、関係機関と共有した。

(5) 疫学研修会等

大阪府内保健所職員などの感染症業務に携わる職員に疫学調査など現場対応能力の向上を図るため、O-FEITによる疫学研修会を開催した。令和7年度は腸管出血性大腸菌感染症をテーマとした研修会を行った。その他、大阪府、大阪市、大阪府内保健所が実施する研修の共催や講師等の活動等を行った。

R8年度実施予定の大阪府内感染管理認定看護師研修に向け、タイ国の関係機関も含めた事前調整を行なった。

2. 講演、委員会、研修等

1) 委員会等

大阪市感染症発生动向調査解析評価検討会（柿本）

大阪市結核解析評価検討会（西田、北島）

大阪感染症情報解析委員会（西田）

吹田市保健所管内院内感染対策連絡会議（皐月、濱口）

2) 研修等の受講

R7.7.18 大阪・関西万博感染症解析センターにおける関係機関との連携に基づくサーベイランスに関する Intra-action review(IAR)（国立感染症研究所）

R7.11.28 令和7年度FETPアルムナイリフレッシュメント研修（国立感染症研究所）

R7.12.1-R8.2.20 全国疫学情報ネットワーク構築会議（東京都健康安全研究センター）

R8.1.19-1.30 感染症サーベイランスオフィサープログラム（国立感染症研究所）

3. 大阪府感染症情報センター

大阪府感染症情報センターは、大阪府内を統括する基

幹地方感染症情報センターとして当所に設置され、厚生労働省を中心とする全国ネットワークで運用される感染症発生動向調査事業を実施している。当センターは府内関係機関と連携し、以下の業務を担当した。

- ・患者情報・発生情報のチェック・集計
- ・大阪感染症情報解析委員会への解析資料の提供
- ・解析結果の還元と週報・月報の作成とホームページへの掲載・公開
- ・感染症発生動向調査事業報告書 第43報 2024年版の発行配布とホームページへの掲載

疫学解析研究課

疫学解析研究課は、蓄積されてきた検査データや、それに付随する疫学情報を活かし、さらに今後必要な情報提供を得て多様なリスク要因を解析し、対応策を探索している。必要に応じ、大阪府・大阪市または府内市町村や健康保険者団体等とともに試行研究や研修会等を実施し、その成果を行政部局に助言する。

大阪府より生活習慣病に関する予防研究業務を受託しており、健診や医療費等のデータの分析、それに基づく市町村等の取り組みや課題等を把握し、関係機関と連携しながら、データを活用した専門的技術支援の実施、モデル地区のモニタリングを基にした研究や府民の健康づくりを支援する機能等の役割を果たしている。

1. 循環器疾患予防研究受託業務

1) 健診・保健指導・医療費等データ分析

大阪府を介して提供される匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）の特定健診、特定保健指導及びレセプトデータを用い、透析リスク及び大腿骨頸部骨折リスクを解明するための追跡研究を実施するのに必要な統計解析プログラムの作成に取り掛かった。

2) 行動変容プログラムの推進

- 新たな汎用性の高い行動変容プログラム（第二期）の開発、普及を目的として、市町村の保健事業等の取り組み状況の実態調査を実施し、調査結果の取りまとめと内容を報告した。また、開発したプログラム案を市町村や関係機関へ提示した。
- 第二期プログラムのテーマである「骨粗鬆症対策」、「ロコモ予防」について、講演とグループワークを実施し、保健事業に関わる市町村担当者への支援を実施した。また、同テーマについて、大阪府内2市町においてプログラムのモデル実施を行った。

3) 循環器疾患と危険因子のモニタリング及び研究

- 八尾市における住民の健康増進を図るとともに健康づくり事業の発展と充実に寄与することを目的に「健康づくり事業の推進に関する協定書」を八尾市と大阪健康安全基盤研究所で締結を継続した。
- 長崎大学との共同研究にて、長崎県五島市及び、長崎県佐々町で実施している動脈硬化検診データを用いた循環器疾患リスク因子に関する検討を実施した。

- 大阪府在住の成人を対象に、循環器疾患リスク因子に関する Web 調査をおこない、回答データの解析を実施した。

4) 府民の健康づくりを支援するシンクタンク機能の役割

- 大阪府の施策、保健事業に関連する各種会議等への対応として、「大阪府ヘルスアップ支援推進会議」、「大阪府ヘルスアップ支援事業」、「食育推進ネットワーク会議」「地域・職域連携推進会議」等に出席した。
- 第4次大阪府健康増進計画に係る指標として、大阪府内の全市町村別に健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の算定を実施した。
- 1)～4)の事業に関連し、事業説明会、研修会を開催した。

2. 調査研究

1) 呼吸器感染症に関する疫学解析研究

(1) RS ウイルス感染症に関する疫学解析研究

RS ウイルス感染症発生動向情報を用いてコロナ禍以降の流行開始基準値の評価、および小児科医療機関における流行開始基準値の利用と検査状況のアンケート調査を行った。

(2) 新型コロナウイルス感染症に関する疫学解析研究

新型コロナウイルス感染症の流行動態を把握し、大阪府における実効再生産数を解析しモニターした。

2) 疾病発症因子に関連する疫学解析研究

(1) 健康と生活習慣に関する Web 調査

大阪府民を対象とした神経発達症、生活習慣、および生活習慣病に関して Web 調査をおこなった。回答データは解析し、結果を学会および国際学会誌で発表した。

(2) 精神疾患と生活習慣病に関する発症動向についての解析

レセプト情報・特定健診等情報データベース (National Database:NDB) を解析し、結果を論文にまとめ国際学術誌に投稿中。

(3) 身長低下に影響を与える因子の同定

昨年度に引き続き身長低下リスク因子の検討を実施、新たに血清遊離サイロキシン (T4) 値が低い者では、潜在性甲状腺機能低下症は身長低下リスクになるが、高い者ではリスクにならないことが判明した。

(4) 長崎大学の動脈硬化検診データを用いた研究

EB ウイルスの早期抗原抗体価は、新生血管を作りにくい遺伝的特徴 (血管内皮成長因子 [VEGF] 産生能力の低い) を有する者においてのみ、動脈硬化と正の相関を有することが判明した。また甲状腺嚢胞を有さない者において、朝食欠食は潜在性甲状腺機能低下症と有意な正の相関を有することが判明した。我々の先行研究において潜在的な甲状腺障害があると甲状腺嚢胞は消失すると考えられることから、朝食欠食は甲状腺に負担をかけると考えられた。また一般に悪玉と考えられている LDL コレステロールが、心臓血管病リスクを下げる傾向を示すことを LDL パラドックスと言うが、LDL パラドックスの要因として造血幹細胞 (CD34 陽性細胞) が重要な役割を担っていることが示唆された。

(5) 大阪住民を対象に実施した Web 調査データを用いた研究

自閉スペクトラム症 (ASD) は、有意にアルコール耐性が低い身体的特徴であるアルコールフラッシュ (少量の飲酒で顔などが赤くなる) を有する傾向を有し、飲酒しない傾向にあることが判明した。また ASD は高率に睡眠障害を合併することで知られるが、満足な睡眠を確保している ASD の者においては、有意に危険な飲酒 (迎え酒) をするリスクが高いことが判明した。従って、ASD を有する者は、睡眠確保のために飲酒行動に問題が生じる傾向があると考えられた。

ASD を有さない者において一人暮らしは、社会との

繋がりが大切であると考えられる傾向があるが、ASD を有する者においては、一人暮らしは有意に社会との繋がりが大切であると考えない傾向があることが判明した。ASD を有する者も、有さない者も共に生活満足度スケールと一人暮らしの間には有意な負の関係を認めた。従って、ASD を有する者においても一人暮らしにおける生活の質 (QOL) を保つには社会との繋がりは重要と思われるが、その繋がりを形成するには困難が生じていると考えられた。

3. 講演、委員会、研修等

1) 講演

R8.1.19 令和7年度 大阪府国保ヘルスアップ支援事業
「特定健診未受診者対策支援事業」報告・検討会議 基調講演 (本田)

2) 委員会、連絡会等

大阪感染症情報解析委員会 (三山)

大阪府国民健康保険団体連合会保険事業支援・評価委員会 (4回) (清水、本田)

大阪府国民健康保険団体連合会保険事業支援・評価委員会ワーキングチームによる検討会 (清水、本田)

大阪府食育推進ネットワーク会議 (清水)

微生物部

細菌課
ウイルス課

細菌課

細菌課は、大阪府域及び府域で発生する腸管系感染症（コレラ、チフス、パラチフス、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、ボツリヌス症等）や呼吸器系感染症（結核、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、レジオネラ症、肺炎球菌感染症、細菌性髄膜炎等）について、その感染経路の解明に活用するために、細菌学的、免疫学的及び遺伝学的特性の解析を実施している。さらに、薬剤耐性菌の行政検査では、大阪府域及び府域で発生した薬剤耐性菌感染症の原因菌株の同定検査を実施し、その流行状況の把握に努めるとともに、院内感染疑い事例に対しても適宜対応している。

大阪府域及び府域で流通している多くの種類の市販食品について、大阪府健康局、大阪府健康医療部、大阪府保健所及び中核市保健所の依頼により食品衛生法施行令で定めるところのGLP対応で細菌等の検査を実施している。また、製造所、調理施設において扱う食材及び食品についても、腸管出血性大腸菌、サルモネラ、腸炎ジブリオ、カンピロバクター、衛生指標菌等の検査を実施し、食中毒予防や食品衛生に役立てている。食中毒、集団下痢症等の発生時において、患者材料（便、吐物）、原因食品、原因施設（ふきとり）等から原因病因物質の検出を行うとともに、汚染経路の解明を実施している。また、苦情食品、有症苦情等についてもその原因について検査している。また、行政と協力して市民対応の現場で生じる「課題」を調査・研究として実施している。

1. 試験検査

1) 腸管系感染症

令和7年1月から令和7年12月に医療機関及び保健所から発生届が出された3類感染症患者から分離された原因菌株のうち当課に搬入された195株（腸管出血性大腸菌（EHEC）190株、赤痢菌4株、チフス菌1株）について確認検査、血清型別、遺伝子型別等を実施した。EHECの190株のうち167株についてはMLVA法で遺伝子型別を実施（MLVA法による遺伝子型別は、O157、O26及びO111については当課で実施、その他は国立感染症研究所で実施）し、その解析情報を行政担当部局（大阪府感染症対策課、大阪市感染症対策課、大阪府食の安全推進課、大阪市健康局生活衛生課、保健所等）へ提供した。その詳細な内訳及び結果（血清型、毒素型、遺伝子型数）は表3.1に示した。赤痢菌は、2株が*Shigella sonnei*、1株が*S. flexneri* variant Y、1株が赤痢菌（血清型別不能）と同定された。また、コレラ疑い患者から分離された菌株の同定試験を実施し、コレラ毒素非産生の*Vibrio cholerae*と同定した。3類感染症患者の接触者検便検査あるいは陰性確認検査において、EHEC 88株（O26 17株、O157 70株、O165 1株）、赤痢菌1株を分離・同定した。腸管出血性大腸菌感染症疑い患者血清1検体について、血清中のLPS抗体価

を測定した。

5類定点疾患の病原体サーベイランス（令和7年1月から令和7年12月）で実施した感染性胃腸炎検査では、患者から分離されたサルモネラ菌5株について同定検査（血清型別）を実施した（*Salmonella* Braenderup 1株、*S. Litchfield* 1株、*S. Stanley* 1株、*S. Thompson* 2株）。

2) 結核及び非結核性抗酸菌感染症

令和7年4月から令和8年3月31日までに薬剤感受性試験依頼、遺伝子型別依頼、菌株保存依頼で搬入された結核菌株数は912株（大阪市396株、大阪市を除く大阪府域522）であった。薬剤感受性試験依頼は39件あり、そのうち多剤耐性が2株、INH、PZA耐性、INH耐性、RFP耐性、SM耐性が各1株であった。抗酸菌同定検査依頼は6件あり、LAMP法により3件は*Mycobacterium tuberculosis*、1件は*M. intracellulare*と同定され、*M. tuberculosis*と*M. avium*いずれも陽性が1件、*M. tuberculosis*、*M. avium*、*M. intracellulare*いずれも陰性が1件であった。BCG菌と結核菌の鑑別依頼は3件あり、2件はBCG株、1件は*M. tuberculosis*と鑑別された。VNTR遺伝子型別検査依頼は220件（大阪市83株、大阪市を除く大阪府域137株）あった。そのうち集団感染疑い事例由来株は103株（大阪市28株、大阪市を除く大阪府域75株）、外国人由来株は52株（大

表 3.1 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況と遺伝子型別結果 (R7.1 ~ R7.12)

血清型	毒素型	発生状況			遺伝子型数
		事例数	感染者数	菌株数	MLVA型数
O157:H7	1+2	34	46	46	28
O157:H7	2	50	62	62	38
O157:HNM	1+2	17	24	24	14
O157:HNM	1	1	1	1	1
O157:HNM	2	1	1	1	1
O3:H12	1	1	1	1	
O23:H45	1+2	1	1	1	
O26:H11	1	6	16	16	6
O26:HNM	2	1	1	3	1
O28ac:H25	2	1	1	1	
O48:H21	1+2	1	1	1	
O76:H19	1	1	1	2	
O91:H14	1	1	1	1	1
O91:HNM	1	1	1	1	1
O98:HNM	1	1	1	1	
O103:H2	1	10	11	11	8
O108:H25	2	1	1	1	
O111:HNM	1	1	1	1	1
O118:H16	1	1	1	1	
O146:H21	1+2	1	1	1	
O146:H21	2	1	1	1	
O146:HNM	1+2	1	1	1	
O165:HNM	2	1	1	1	1
O166:H15	2	1	1	2	
O168:H8	2	1	1	1	
O174:H2	1+2	1	1	1	
O174:H21	2	1	1	1	
O174:HNM	1+2	1	1	1	
O182:HNM	1	1	1	1	
O186:H2	2	1	1	1	
OgN8:HNM	2	1	1	1	
OUT:H14	1	1	1	1	1*
合計		144	186	190	102

*O91の抗原遺伝子が検出されたため、O91に準じてMLVAを実施した。

阪市44株、大阪市を除く大阪府域8株)、その他は地域分子疫学対象株であった(VNTR、薬剤感受性については2025年以前の菌株に対する依頼もあるので搬入菌株数と検査依頼菌株数には齟齬が出る)。

3) その他の呼吸器系感染症

5類定点疾患の病原体サーベイランスでは、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者由来株24株の血清型別を実施した。また、近畿地区のレファレンスセンターとして地区内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)症例分離株または重症症例分離株の収集に努め、確保できた定点医療機関以外から収集したレンサ球菌感染症患者分離株173株を合わせた計197菌株(A群131株、B群17株、C群1株、G群47株、型別不能1株)の解析を実施した(令和7年1月から令和7年12月)。なお、これらレンサ球菌の血清型別検査の成績については、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者由来株とSTSS患者由来株に分けて表3.2に示した。

医療機関から発生届が出されたレジオネラ症患者由来の臨床検体の検査(令和7年1月から令和7年12月)では、33検体中6検体からレジオネラを分離した。また、社会福祉施設14施設及び医療施設1施設で採取された浴槽水等44検体について検査を行ったところ、4施設5検体からレジオネラが分離された。

流行予測調査(令和7年4月から令和8年3月)では、府内で発生届が出された侵襲性肺炎球菌感染症及び侵襲性インフルエンザ菌感染症の患者由来株を収集・解析し、流行株の把握に努めた。

4) 薬剤耐性菌感染症

薬剤耐性菌の検査(令和7年1月から令和7年12月)では、保健所及び医療機関から検査を依頼された薬剤耐性菌感染症や院内感染疑い事例に由来する薬剤耐性菌

表 3.2 レンサ球菌血清型検査成績 (R7.1 ~ R7.12)

	検査菌株数	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群) 血清型 (T型)												A群 ^{*2}	B群	C群	G群	UT ^{*3}	
		1	3	4	6	11	12	13	25	28	B3264	Imp.19	UT						小計
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者分離株	24	5	3	12	-	-	-	-	-	-	3	1	-	24	-	-	-	-	
STSS患者分離株 ^{*1}	173	14	5	9	4	4	5	8	1	2	9	-	45	106	1	17	1	47	1
合計	197													130	1	17	1	47	1

*1: 届出に満たない重症症例を含む

*2: 菌種は *S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*

*3: 菌種は *S. constellatus* subsp. *constellatus*

表 3.3 食品検査の業務実績 (R7.4~R8.3)

	受付総数			収去			依頼 事業所	試験 件数	微生物学的検査																										
	保健所	行政機関	30	93	30	24			1	46	EHEC						大腸菌	大腸菌群	菌数	腸炎ブドウ球菌	乳酸菌	腸炎ブドウ球菌	サルモネラ	カンピロバクター	クロストリジウム属菌	リステリア	発育し得る微生物	腸球菌	緑膿菌	腸内細菌科菌群	サカザキ クロノバクテリ	低温細菌	セレウス菌群	ナナホシクドア	
											0	1	1	1	0	1																			0
魚介類	161	93	30	38	260	16	0/16	0/17	0/17	0/12	0/12	0/12	0/12	0/1	1/126	0/4	0/4	0/4	0/4	0/7														0/6	
無加熱摂取冷凍食品	25	24	1	1	46	18	0/18						0/3																						
冷凍直前加熱 加熱後摂取冷凍食品	17	15	2	2	45	17	0/17						0/11																						
冷凍直前未加熱 加熱後摂取冷凍食品	67	54	13	13	138	55	0/55						0/16																						
生食用冷凍魚介類	0				0																														
魚介類加工品	139	57	31	31	213	16	0/44	0/7	0/18	0/2	0/2	0/2	0/11	0/39	0/18	0/16	0/16	0/16	0/2																
肉卵類及びその加工品	965	444	352	169	1984	50	1/21	1/94	0/312	0/312	0/26	0/26	0/90			60/376	30/285	0/34	0/19																
乳製品	145	84	34	27	316	40	0/59	0/25	0/25	0/12	0/12	0/12	0/19			0/25			0/25																
乳類加工品	6	4	1	1	12	1	0/6						0/5																						
アイスクリーム類・氷菓	84	36	36	12	150	66	0/66									0/18																			
牛乳	27	19	2	6	54	25	0/25																												
穀類及びその加工品	50	3	31	16	130	35	1/15	0/21	0/5	0/5	0/5	0/5	0/34			0/5	0/5	0/5																	
野菜類・果物 及びその加工品	445	169	214	62	840	32	0/4	1/62	0/151	0/151	0/1	0/1	1/24	0/34	0/34	0/112	0/111	0/1	0/1																0/4
菓子類	114	93	21	21	245	63	7/53	0/13	0/2	0/2	0/2	0/2	0/55			0/47																			
清涼飲料水	53	27	18	8	77	0/53																				0/12	0/12								
氷雪	6	6	6	6	12	6	0/6																												
水	3	3	3	3	6	3	0/3																												
かん詰・びん詰食品	0				0																														
その他の食品	140	42	77	21	223	1	0/1	0/39	0/39	0/1	0/1	0/1	0/1			0/39	0/11	0/1	0/1																
器具及び容器包装	0				0																														
その他	182	83	79	20	418	105	0/75	0/30	0/13	0/13	0/13	0/105				0/3	0/3	0/29	0/29																
総数	2629	1061	1120	448	5169	549	9/466	2/299	0/582	0/582	0/56	1/362	0/24	1/199	60/647	30/462	0/74	0/69	0/54	0/69	0/12	0/12	0/12	0/12	0/12	0/12	0/12	0/13	0/2	0/2	0/4	0/6	0/6		

112株(内訳は、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌94株、バンコマイシン耐性腸球菌15株、その他3株)について同定検査、薬剤感受性検査及び薬剤耐性遺伝子の解析、また必要に応じて遺伝子型別によるマッチングをそれぞれ実施し、流行状況の把握や院内感染疑い事例の解明に努めた。

5) 食品の収去検査

大阪府、大阪市及び中核市の年度監視計画に基づき検査を行った。その内訳は食品製造業、販売店などから収去された食品の細菌学的検査等である。今年度は2,629検体、5,169項目の検査を行った。その検査結果を表3.3に示した。規格基準のある食品はいずれも成分規格適合であった。一方、汚染実態調査では腸管出血性大腸菌は検出されなかったが、サルモネラ属菌は647検体中60検体、カンピロバクターは462検体中30検体が陽性となった。腸炎ビブリオについては加熱用1検体が陽性となった。

6) 食中毒事例等の原因調査

令和7年1月から令和7年12月に大阪府域及び大阪府域、他府県で発生した食中毒、有症苦情等に関連して保健所から当課へ検体が搬入された事例は147事例であった。これらに関連した検体数は、患者及び関係者の便が899検体、吐物が1検体、食品が132検体、拭き取りが77検体、菌株が2検体、異物が1検体の計1,112

検体で、依頼項目数として総計9,234項目(ウイルス課で実施したノロウイルス検査等は含まない)の検査を実施した。147事例のうち、72事例において食中毒病因物質等が検出された(菌株のMLVA型別は含まない)。その検査結果の内訳を表3.4に示した。令和7年は、カンピロバクターによる食中毒事例に加え、4月に卵の花を原因とするブドウ球菌による事例が1件、5月に弁当を原因とするセレウス菌による事例が1件、6月にラーメンを原因とするブドウ球菌による事例が1件、8月にヒラメ刺身を原因とするナナホシクドアによる事例が1件と仕出し弁当が原因と疑われたウエルシュ菌による事例が1件、10月に弁当が原因と疑われた病原大腸菌による事例が1件、7月、8月、10月にサルモネラによる事例がそれぞれ1件ずつ発生した。このうち2件が*Salmonella* Typhimurium 単相性変異株によるものであった。6月に苦情食品としてアンチョビフィレ油漬けのポツリヌス菌検査を実施し、陰性であった。

7) 貸おしぼりの衛生基準試験

大阪市健康局生活衛生課からの依頼により、10月と11月に市内12施設を対象として計60検体の貸おしぼりについて衛生基準試験を行った。その結果、3施設において衛生基準に不適合(細菌数)と判定された。令和8年2月に当該3施設について再検査を実施した結果、細菌数はすべて衛生基準に適合となった。

表 3.4 食中毒・有症苦情事例の検査結果

菌種	検査総数	分離株数
黄色ブドウ球菌	938	49
セレウス菌	919	8
サルモネラ	949	13
EHEC・ETEC	897	1
腸炎ビブリオ	897	0
カンピロバクター	894	48
ウエルシュ菌	979	26
チフス菌・パラチフスA菌	894	0
赤痢菌	894	0
コレラ菌	894	0
その他	79	20

2. 調査研究

1) 腸管感染症に関する研究

(1) 食中毒に関する研究

- ・耐酸性リステリア・モノサイトゲネス株について、培養細胞内での病原因子及びストレス応答因子の遺伝子発現量等を比較した。
- ・粘液胞子虫性食中毒の検査に使用するリアルタイムPCR法による検出系を検討し、イワタクドアとムツボシクドアの検出系を確立した。
- ・下水について食中毒起因性ウエルシュ菌とディフィシル菌の経時的な動態を追跡した。
- ・ウエルシュ菌食中毒事例について分子疫学的解析を行い、原因食品の推定を行った。
- ・市販鶏肉及び食中毒患者便から食中毒起因性

Staphylococcus argenteus の分離を行った。

- ・鶏肉由来サルモネラ、食品及びヒト由来腸管出血性大腸菌について薬剤感受性試験を実施した。
- ・ヒト、食品及びウシ由来カンピロバクターについて薬剤感受性試験、改良 Penner-PCR 型別、mP-BIT 法等を実施した。デリバリーサービスを利用し鶏料理 60 件についてカンピロバクターの検出を試みた。
- ・*Escherichia albertii* を含む下痢原性大腸菌の遺伝子検出法を検討した。全ゲノム配列解析を用いて、*E. albertii* の亜テレル酸塩耐性メカニズムを明らかにした。
- ・食中毒事例由来セレウス菌保存株を使用してパントテン酸合成酵素遺伝子 (*panC*) の塩基配列に基づく分類を実施した。今年度に分離した食中毒事例由来セレウス菌株について全ゲノム配列を解読し、*panC* の塩基配列に基づく分類型及び ST 型を取得した。
- ・食肉由来黄色ブドウ球菌 30 株について、新規メチシリン耐性遺伝子 (*mecC*) を検索した。
- ・冷凍果実製造施設で使用される原材料と冷凍果実製品について衛生指標菌及びサルモネラ属菌、リステリアの検査を、施設ふきとり水について衛生指標菌及びリステリアの検査を実施した (大阪市特別調査)。
- ・ブドウ球菌食中毒事例由来保存株について、全ゲノム配列を解読した。

(2) 細菌性腸管感染症に関する研究

- ・腸管出血性大腸菌分離株について MLVA 法による遺伝子型別と MLVA 法の精度管理を実施した。
- ・市販血清で型別できない腸管出血性大腸菌株の血清型を精査し、*Shigella* 様の生化学性状を示す腸管出血性大腸菌 O26 のゲノム解析を実施した
- ・腸管出血性大腸菌の MLVA 法で PCR 増幅効率が低い傾向にある遺伝子座 O157-37 について、プライマーを再設計して評価した。
- ・*Salmonella* Braenderup について、食中毒事例由来株と散発下痢症患者あるいは健康保菌者由来株を使用し、PFGE 解析及び SNPs 解析を実施した。
- ・シカ肉及びイノシシ肉について、腸管出血性大腸菌、サルモネラ属菌、カンピロバクター、エルシニア・エンテロコリチカの検査を実施した (大阪市特別調査)。
- ・健康者由来糞便の増菌培養液から大腸菌の分離を試みるとともに、DNA を抽出し、16SrDNA 遺伝子を標的としたメタゲノム解析を実施した。

2) 呼吸器感染症に関する研究

(1) 細菌性呼吸器感染症に関する研究

- ・結核菌の薬剤感受性試験及び遺伝子解析 (VNTR 型別)、全ゲノム SNPs 解析を実施した。
- ・侵襲性溶血性レンサ球菌感染症原因菌について、動物モデル等を用いて病原性解析を実施した。
- ・大阪府域で分離された百日咳菌 (マクロライド耐性株を含む) の薬剤感受性試験及び全ゲノム配列解析を実施した。
- ・臨床検体中の夾雑細菌及び夾雑真菌の菌叢を NGS データ解析で調べ、レジオネラ菌の選択増菌法を試行するとともに、レジオネラ属菌と培養細胞を共培養して細胞傷害性を比較した。

(2) 薬剤耐性菌感染症に関する研究

- ・大阪府域で分離されたバンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) について PFGE を実施し、流行株の解析を行った。
- ・大阪府内で流通する鶏肉及び大阪府内で採取した下水の VRE 汚染実態調査を実施した。
- ・大阪府域・市域で分離された薬剤耐性菌について性状解析及び全ゲノム配列解析を実施した。また、新規抗菌薬の感受性スクリーニング試験及び耐性遺伝子の検索、組換え大腸菌を用いた薬剤耐性付与試験を実施した。
- ・細菌のエステラーゼ活性を応用した薬剤感受性試験を評価した。また、全国の複数医療機関から解析依頼された侵襲性黄色ブドウ球菌感染症由来株について、全ゲノム配列解析を実施した。

3) 衛生動物を介する感染症に関する研究

(1) 動物由来感染症に関する研究

- ・薬剤耐性大腸菌分離株について、薬剤感受性試験及び全ゲノム解析を実施した。
- ・猫由来 *Bartonella henselae* の全ゲノム配列解析を実施した。
- ・大阪市内の野外猫頭数調査を実施した (大阪市特別調査)。

3. 講演、委員会、研修等

1) 講演等

- R7.10.14 健康安全委員会講演会（大阪教育大学附属天王寺中学校PTA）食中毒の基礎知識～このようにして食中毒は起こります～（中村）
- R7.11.27 2025年度第2回講演会（NPO法人食の安全と微生物検査）Ready-to-eat食品製造施設におけるリステリア汚染状況とその制御について（中村）
- R7.11.28 第57回日本食品微生物学会学術セミナー（日本食品微生物学会）鶏から？水から？カンピロバクター食中毒の特徴と対策（中村）

2) 委員会等

- 四條畷、泉佐野、八尾市、吹田市、各保健所結核コホート検討会議（計16回）（田丸、山本）
- 大阪感染症情報解析委員会（神吉、中村、田丸、河原、梅田、原田、山口、坂田、余野木、山本、梅川、平井、高橋、安楽）
- 大阪市衛生検査所精度管理専門委員（梅田）
- 大阪市結核分子疫学検討会（3回）（山本、田丸）
- 大阪市結核解析評価検討会（5回）（山本、田丸）
- 大阪市感染症発生動向調査解析評価検討会（5回）（田丸、中村）
- 大阪府衛生検査所精度管理審議会（2回）（河原）内閣府食品安全委員会薬剤耐性菌に関するワーキンググループ専門委員（4回）（中村）
- 食品からの微生物標準試験法検討委員会（国立医薬品衛生研究所）（3回）（河合）
- 令和7年度大阪府食の安全安心推進協議会（梅田）

3) 研修等の受講

- R7.7.17-18 病原体等の包装・運搬講習会（大阪府）
- R7.11.26-28 令和7年度 薬剤耐性菌に関する研修 基本コース（国立感染症研究所）
- R7.12.10 令和7年度 薬剤耐性菌に関する研修 アップデートコース（国立感染症研究所）
- R8.2.18-19 希少感染症診断技術研修会（厚生労働省）
- R7.7.4 感染症担当者研修会（大阪府）
- R8.2.27 第15回HACCP導入に向けた迅速検査実習（迅速検査研究会）
- R8.3.13-14 第66回カビ基礎技術研修会（NPO法人カビ相談センター）

ウイルス課

ウイルス課は、大阪府・大阪市におけるウイルス感染症の病原体検出、府民・市民の免疫保有率の実態を把握するため、大阪府健康医療部医療・感染症対策課や大阪府の保健所、大阪市保健所感染症対策課と緊密に連携し、腸管感染症（ウイルス性下痢症・エンテロウイルス感染症）、呼吸器感染症、発しんを主徴とする感染症、HIV 感染症、HTLV-1 感染症やその他の性感染症、節足動物媒介・動物由来感染症について検査・調査を行っている。

国の感染症発生動向調査事業として、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）に基づく検査・調査では、大阪府、大阪市内の定点医療機関及びインフルエンザ定点（2025 年第 15 週より急性呼吸器感染症（ARI）定点）機関と協力し、定点把握感染症の病原体検出を行った。インフルエンザウイルスについて、薬剤耐性に影響を与える遺伝子変異の解析を行った。また、全数把握感染症について、2 類、4 類、5 類感染症についても病原体検出を行った。HIV と HTLV-1 の確認検査を実施するとともに、HIV 感染者の早期探知のため、大阪府や NPO、協力診療所と連携し HIV 検査の受検機会の提供を行った。節足動物媒介感染症については、大阪府保健所、大阪市保健所、中核市保健所と協力し、蚊を定期的に採取し、蚊の形態学的分類、蚊媒介ウイルス（デングウイルス、チクングニアウイルス、ウエストナイルウイルス、ジカウイルス、日本脳炎ウイルス）の検出を行い監視した。また、蚊の形態学的分類について、保健所職員を対象に研修を行った。

国の感染症流行予測調査事業として、予防接種法に基づく調査・検査では、定期ワクチン接種対象である麻しんウイルス、水痘ウイルス、ヒトパピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスを対象とした抗体保有調査を行い、また感染源調査では環境水からの新型コロナウイルスの検出を行った。

食品衛生法に基づくウイルス性食中毒の検査として、食中毒疑い事例においてノロウイルス検査を行った。

1. 試験検査

1) 腸管系ウイルス

(1) ウイルス性胃腸炎

①感染症発生動向調査事業

2025 年は、163 件の搬入があり、116 件から下痢症起因ウイルスが検出された（検出率 71.2%）。このうち 1 月から 3 月は 46 件の搬入があり、43 件から下痢症起因ウイルスが検出された。116 件の内訳は、ノロウイルス GI が 3 件、ノロウイルス GII が 48 件、A 群ロタウイルスが 43 件、サポウイルスが 16 件、アストロウイルスが 1 件、アデノウイルスが 4 件、ノロウイルス GII と A 群ロタウイルスの両方が検出された検体が 1 件であった。

ノロウイルス GI の遺伝子型は、GI.6[P11]、GI.1[P1]、GI. Genotype/P-type 未同定(GI.NT[PNT])が各 1 件であった。ノロウイルス GII の遺伝子型は、GII.4[P16] が 28 件、GII.17[P17] が 14 件、GII.6[P7] が 2 件、GII.7[P7] が 1 件、GII.NT[PNT] が 4 件であった。A 群ロタウイルスの VP7

遺伝子型は、G3 が 31 件、G8 が 12 件、G1 が 1 件であった。サポウイルスの遺伝子型は、GII.3 が 6 件、GI.1 が 4 件、GI.3、GIV.1 が各 2 件、GI.2、GII.5 が各 1 件であった。アストロウイルスの遺伝子型は、HAstV-4 であった。アデノウイルスの遺伝子型は、Ad41 が 3 件、Ad1 が 1 件であった。（主担：腸管グループ）

②集団胃腸炎事例

2025 年にヒト-ヒト感染により集団胃腸炎（患者 10 人以上）と推定された事例のうち、当所にて検査を実施した事例は 137 事例で、134 事例から下痢症起因ウイルスが検出された（このうち 1 月から 3 月は 81 事例の搬入があり、80 事例から検出された）。すべての事例についてノロウイルス検査を実施し、主たる原因と判断できなかった場合にはサポウイルス、A 群ロタウイルスおよびアストロウイルスの検査を実施した。アデノウイルスおよびヒトパレコウイルスについては保健所から依頼があった場合のみ実施した。検出された事例数はノロウイルス GI が 2 事例、ノロウイルス GII が 96 事例、サポウイルスが 17 事例、A 群ロタウイルスが 16

事例、アストロウイルスが2事例、アデノウイルスが3事例、ヒトパレコウイルスが2事例であった。異なるウイルスが検出された混合事例は4件あり、1月に2事例（ノロウイルスGII/A群ロタウイルス、ノロウイルスGI/アストロウイルス）、3月に1事例（A群ロタウイルス/アデノウイルス）、5月に1事例（サポウイルス/アデノウイルス）であった。また、2025年に大阪府管内の3保健所にてノロウイルスが91事例で検出された。遺伝子型はGII.17[P17]が最も多く64事例、次いでGII.4[P16]が18事例であった。その他GII.3[P12]、GII.6[P7]が各3事例、GII.7[P7]が1事例から検出された。（主担：腸管グループ）

(2) エンテロウイルス

2025年は、無菌性髄膜炎または髄膜炎検体からエコーウイルス18型、コクサッキーウイルスB5型、ヒトパレコウイルス5型が検出された。ヘルパンギーナ検体からはコクサッキーウイルスA4型、ライノウイルスAが検出された。手足口病検体からはエコーウイルス18型、コクサッキーウイルスA6型、コクサッキーウイルスA16型、ライノウイルスAが検出された。新生児発熱検体からはエコーウイルス18型が検出された。感染性胃腸炎検体からはコクサッキーウイルスA4型が検出された。

月別の検出数は、1月はコクサッキーウイルスA16型が1件、2月はコクサッキーウイルスA16型が1件、5月はエコーウイルス18型が1件、6月はエコーウイルス18型が2件、コクサッキーウイルスA4型が1件、ヒトパレコウイルス5型が1件、7月はコクサッキーウイルスA4型が3件、エコーウイルス18型が1件、ヒトパレコウイルス5型が1件、8月はコクサッキーウイルスA4型が1件、エコーウイルス18型が1件、11月はコクサッキーウイルスB5型が1件、12月はコクサッキーウイルスA6型が1件であった。全体では、エコーウイルス18型およびコクサッキーウイルスA4型が各5件で、最も多く検出された。（主担：腸管グループ）

(3) 肝炎

2025年は、4件についてA型肝炎の遺伝子検査を実施し、すべてからA型肝炎ウイルスが検出された。検出時期はいずれも8月から11月で、遺伝子型はすべてIAに分類された。E型肝炎は9件について遺伝子検査を実施し、そのうち7件からE型肝炎ウイルスが検出

された。遺伝子型の内訳は、2月にG4が1件、3月にG3が2件、5月にG3、G4が各1件、8月にG3が1件、11月にG3が1件であった。（主担：腸管グループ）

2) 食中毒

2025年に、保健所から当課に搬入された食中毒（疑い、有症苦情、他府県関連を含む）に関連したノロウイルス検査は132事例1035便検体で実施し、97事例からノロウイルスが検出された（このうち1月から3月は62事例の搬入があり、52事例から検出された）。3事例からノロウイルスGI、89事例からノロウイルスGII、5事例から複数の遺伝子型が検出された（表4.1）。単一の遺伝子型が検出された事例はGII.17[P17]が67事例、GII.4[P16]が11事例、GII.3[P12]、GII.6[P7]が各2事例、GI.1[P1]、GI.3[P10]、GI.6[P6]、GII.3[P25]、GII.4[P31]、GII.8[P8]、GII.13[P16]が各1事例であった。複数の遺伝子型が検出された事例は5事例あり、GII.4[P16]およびGII.17[P17]が1事例、GII.4[P16]およびGI.17[P17]が1事例、GI.17[P17]が3事例であった。ノロウイルス陰性だった1事例についてはサポウイルスの検査を行い、サポウイルスGIVが検出された。その他に2事例について食品のノロウイルス検査、2事例についてふきとり検体のノロウイルス検査を実施したがいずれも陰性であった。（主担：腸管グループ）

3) 急性呼吸器感染症（インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、その他原因不明感染症等を含む）、流行性角結膜炎

2025年1～12月に急性呼吸器感染症等と診断された2097検体の検査を行い、1317検体（62.8%）でA型インフルエンザウイルス（H1pdm09亜型／H3亜型）、B型インフルエンザウイルス（ビクトリア系統／山形系統）、SARS-CoV-2、RSウイルスA型／B型、ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス、ヒトパラインフルエンザウイルス1～4型、ライノ／エンテロウイルスのうちのいずれかのウイルスが陽性となった。最も多かったのはライノ／エンテロウイルスで425検体、続いてA型インフルエンザウイルスが288検体（うちH1pdm09亜型は58検体、H3亜型は210検体）、ヒトパラインフルエンザウイルス3型が150検体、SARS-CoV-2が

表 4.1 (1) ノロウイルスが検出された食中毒疑い事例（遺伝子型別のみの依頼を含む）

No.	保健所	検査開始日	発生施設	検体数	検出ウイルス
1	大阪市	2025/1/4	飲食店等	23	ノロウイルス GII
2	大阪市	2025/1/16	他府県等	1	ノロウイルス GI
3	大阪市、茨木、吹田市	2025/1/16	飲食店等	4	ノロウイルス GII
4	東大阪市、池田	2025/1/21	飲食店等	2	ノロウイルス GII
5	大阪市、岸和田	2025/1/22	飲食店等	5	ノロウイルス GII
6	富田林	2025/1/29	他府県等	4	ノロウイルス GII
7	四條畷	2025/1/30	他府県等	1	ノロウイルス GII
8	守口、寝屋川市	2025/2/5	飲食店等	5	ノロウイルス GI+GII
9	藤井寺	2025/2/5	飲食店等	4	ノロウイルス GII
10	大阪市、富田林	2025/2/7	飲食店等	29	ノロウイルス GII
11	大阪市、吹田市	2025/2/7	他府県等	4	ノロウイルス GII
12	富田林、藤井寺、吹田市、大阪市、四條畷	2025/2/13	飲食店等	65	ノロウイルス GII
13	八尾市	2025/2/15	飲食店等	13	ノロウイルス GII
14	池田	2025/2/15	飲食店等	1	ノロウイルス GII
15	富田林	2025/2/15	他府県等	1	ノロウイルス GII
16	和泉	2025/2/17	飲食店等	5	ノロウイルス GII
17	茨木	2025/2/18	施設等	10	ノロウイルス GII
18	大阪市	2025/2/19	飲食店等	5	ノロウイルス GI+GII
19	吹田市、岸和田	2025/2/19	他府県等	5	ノロウイルス GII
20	大阪市	2025/2/20	飲食店等	14	ノロウイルス GII
21	大阪市	2025/2/20	飲食店等	5	ノロウイルス GII
22	大阪市	2025/2/20	飲食店等	1	ノロウイルス GII
23	大阪市	2025/2/20	飲食店等	5	ノロウイルス GII
24	大阪市、富田林	2025/2/21	飲食店等	6	ノロウイルス GII
25	大阪市	2025/2/21	飲食店等	4	ノロウイルス GI+GII
26	大阪市、吹田市	2025/2/22	他府県等	3	ノロウイルス GII
27	藤井寺、大阪市、富田林	2025/2/24	飲食店等	9	ノロウイルス GII
28	四條畷	2025/2/26	飲食店等	11	ノロウイルス GII
29	藤井寺	2025/2/27	飲食店等	3	ノロウイルス GII
30	大阪市	2025/2/27	他府県等	2	ノロウイルス GII
31	富田林	2025/2/28	飲食店等	2	ノロウイルス GII
32	大阪市	2025/3/1	飲食店等	6	ノロウイルス GII
33	大阪市、富田林、和泉	2025/3/2	飲食店等	35	ノロウイルス GII
34	泉佐野	2025/3/2	施設等	20	ノロウイルス GII
35	大阪市、岸和田	2025/3/2	飲食店等	13	ノロウイルス GII
36	大阪市	2025/3/3	他府県等	1	ノロウイルス GII
37	東大阪市	2025/3/6	飲食店等	2	ノロウイルス GII
38	大阪市	2025/3/6	他府県等	1	ノロウイルス GII
39	枚方市	2025/3/7	飲食店等	4	ノロウイルス GII
40	藤井寺	2025/3/10	学校等	2	ノロウイルス GII
41	岸和田、泉佐野	2025/3/13	他府県等	6	ノロウイルス GII
42	富田林	2025/3/13	飲食店等	10	ノロウイルス GII
43	吹田市	2025/3/18	施設等	16	ノロウイルス GII
44	寝屋川市、藤井寺、和泉	2025/3/18	飲食店等	11	ノロウイルス GII
45	池田	2025/3/19	他府県等	1	ノロウイルス GII
46	大阪市	2025/3/20	他府県等	1	ノロウイルス GII
47	大阪市	2025/3/21	飲食店等	10	ノロウイルス GII
48	八尾市	2025/3/26	飲食店等	7	ノロウイルス GII
49	高槻市、茨木	2025/3/27	飲食店等	7	ノロウイルス GII
50	大阪市	2025/3/29	飲食店等	2	ノロウイルス GII
51	八尾市	2025/3/29	他府県等	1	ノロウイルス GII
52	四條畷	2025/3/29	施設等	13	ノロウイルス GII
53	大阪市	2025/3/31	学校等	15	ノロウイルス GII
54	大阪市	2025/4/3	飲食店等	7	ノロウイルス GII
55	富田林、和泉、藤井寺	2025/4/3	飲食店等	17	ノロウイルス GII
56	大阪市	2025/4/5	飲食店等	18	ノロウイルス GII
57	大阪市	2025/4/8	飲食店等	3	ノロウイルス GII
58	大阪市	2025/4/9	他府県等	1	ノロウイルス GII

表 4.1 (2) ノロウイルスが検出された食中毒疑い事例（遺伝子型別のみの依頼を含む）

No.	保健所	検査開始日	発生施設	検体数	検出ウイルス
59	大阪市	2025/4/10	飲食店等	13	ノロウイルス GII
60	大阪市、八尾市	2025/4/15	他府県等	2	ノロウイルス GII
61	大阪市	2025/4/15	飲食店等	9	ノロウイルス GII
62	大阪市	2025/4/18	飲食店等	2	ノロウイルス GII
63	大阪市、茨木、吹田市	2025/4/18	飲食店等	11	ノロウイルス GII
64	茨木	2025/4/19	他府県等	2	ノロウイルス GI+GII
65	岸和田	2025/4/22	施設等	17	ノロウイルス GII
66	岸和田	2025/4/24	施設等	29	ノロウイルス GII
67	泉佐野	2025/4/25	飲食店等	5	ノロウイルス GII
68	大阪市	2025/4/27	飲食店等	5	ノロウイルス GII
69	大阪市、藤井寺	2025/4/27	他府県等	3	ノロウイルス GII
70	大阪市	2025/4/30	他府県等	1	ノロウイルス GII
71	吹田市	2025/5/1	飲食店等	5	ノロウイルス GII
72	守口、茨木	2025/5/15	飲食店等	5	ノロウイルス GII
73	和泉	2025/5/15	他府県等	1	ノロウイルス GII
74	大阪市、吹田市、藤井寺、茨木	2025/5/16	飲食店等	32	ノロウイルス GII
75	大阪市	2025/5/17	他府県等	2	ノロウイルス GII
76	和泉	2025/5/17	飲食店等	2	ノロウイルス GII
77	富田林	2025/5/27	施設等	29	ノロウイルス GII
78	泉佐野	2025/6/3	飲食店等	30	ノロウイルス GII
79	大阪市、茨木、守口	2025/6/12	飲食店等	17	ノロウイルス GII
80	大阪市	2025/6/18	飲食店等	13	ノロウイルス GI
81	池田、吹田市、大阪市	2025/6/28	他府県等	3	ノロウイルス GII
82	吹田市	2025/7/3	他府県等	1	ノロウイルス GI
83	泉佐野、岸和田	2025/8/2	飲食店等	11	ノロウイルス GII
84	大阪市	2025/9/2	飲食店等	3	ノロウイルス GII
85	大阪市	2025/9/9	他府県等	1	ノロウイルス GII
86	岸和田	2025/10/1	他府県等	3	ノロウイルス GII
87	和泉	2025/10/15	他府県等	1	ノロウイルス GII
88	富田林	2025/10/25	飲食店等	3	ノロウイルス GII
89	岸和田	2025/10/31	飲食店等	2	ノロウイルス GII
90	富田林	2025/11/15	施設等	60	ノロウイルス GII
91	大阪市	2025/11/18	飲食店等	6	ノロウイルス GII
92	和泉、大阪市	2025/12/5	他府県等	2	ノロウイルス GII
93	吹田市、茨木	2025/12/11	飲食店等	4	ノロウイルス GII
94	大阪市、富田林、藤井寺	2025/12/16	飲食店等	6	ノロウイルス GII
95	寝屋川市、大阪市、東大阪市、池田、茨木、吹田市、枚方市、豊中市、守口、四條畷、岸和田、和泉、富田林、藤井寺	2025/12/16	飲食店等	45	ノロウイルス GII
96	大阪市	2025/12/18	他府県等	1	ノロウイルス GII
97	大阪市	2025/12/22	他府県等	1	ノロウイルス GII

125 検体、RS ウイルス B 型が 109 検体、RS ウイルス A 型が 65 検体、アデノウイルスが 63 検体であった。また、得られたインフルエンザウイルス分離株の一部について薬剤耐性に関連する遺伝子変異を検出しているが、現在までに変異株は見つかっていない。（主担：呼吸器グループ）

4) エイズ、性感染症

(1) HIV 感染確認検査

2025 年に HIV 感染確認検査を行った検体は 160 件であり、昨年 2024 年と比較して 7 件（4.2%）減少した。

そのうち、HIV-1 陽性と確認されたものは 74 件であり（HIV-2 陽性は 0 件）、昨年の陽性数 55 件と比較すると、19 件（34.5%）の増加となった。陽性例を依頼元で分類すると、政令市・中核市を含む府内保健所が 19 件（6 件増）、大阪予防啓発相談支援センター（chotCAST）が 35 件（16 件増）でありその内訳は火曜夜間通常検査が 3 件（2 件増）、同木曜夜間即日検査が 10 件（3 件増）、同土曜即日検査が 12 件（6 件増）、同日曜即日検査が 10 件（5 件増）、大阪府内の医療機関からのものが 19 件（1 件増）と、自発検査の陽性件数と医療機関で診断される陽性件数はともに増加した。府外の医療機関から

の依頼における陽性例は1件（1件増）であった。74件の陽性例の内訳は、日本国籍男性が36件、外国籍が19件（男性18件、女性1件）、国籍不明が19件（男性18件、不明1件）であった。本年度、抗体価が低く、HIV-1/2抗体確認検査試薬（Geenius）で判定保留または陰性となり、リアルタイムRT-PCR法（核酸増幅検査：NAT）によって感染が確認された感染初期例と思われる陽性件数は7件（4件増）であった。（2025年1～3月のHIV感染確認検査検体は31件、そのうちHIV-1陽性と確認されたものは16件であった。陽性例を依頼元で分類すると、政令市・中核市を含む府内保健所が4件、chotCASTが9件（火曜夜間通常検査1件、木曜夜間即日検査1件、土曜即日検査4件、日曜即日検査が3件）であった。大阪府内の医療機関のものが3件であった。16件の陽性者の内訳は、日本国籍男性が7件、外国籍男性が4件、国籍不明男性が5件であった。また感染初期例と思われる検体はなかった。）（主担：STI・発しんグループ）

(2) HTLV感染確認検査

国のHTLV-1総合対策に沿って大阪府内の自治体が保健所において実施するHTLV-1抗体検査で陽性になった検体について、依頼を受けHTLV抗体の確認検査（HTLV-1、HTLV-2の型別を含む）を実施している。2025年は大阪府の保健所から依頼された1件についてHTLV確認検査を行ったところ、HTLV-1抗体陽性であった。（2025年1～3月の検査依頼はなかった。）（主担：STI・発しんグループ）

(3) MSM向けHIV/STI検査相談事業

当研究所が協力し、大阪府の事業として府内の診療所10ヶ所とCBO（community-based organization: 地域社会に根ざした組織）の協力を得て実施しているゲイ・バイセクシャル男性向けHIV/STI検査事業（2025年9月1日～11月30日まで実施）において、264名が受検し、治療中のHIV陽性者をのぞいた新規のHIV-1陽性者は1名（0.38%）であった。（主担：STI・発しんグループ）

(4) エムポックス

2025年にエムポックス疑い15症例を検査したところ、そのうち2症例がエムポックス陽性であった。（2025年1～3月の検査症例数は2症例で、そのうち陽性はなかった。）（主担：STI・発しんグループ）

5) 麻しん、風しん

2025年1週から52週までの期間に検査を実施した麻しんおよび風しん疑い症例298例のうち、19例から麻しんウイルスが検出された。内訳は、遺伝子型B3が15例、D8が3例、遺伝子型A（ワクチン株）が1例であった。風しんウイルスは、すべての症例で核酸検査陰性であった。野生株麻しんウイルスが検出された18例のうち、11例に海外渡航歴が認められ、4例に国内の麻しん患者との接触歴が確認された。残る3例では、海外渡航歴および麻しん患者との接触歴はいずれも確認されなかった。海外渡航先はベトナムが8例と最も多く、その他はインドネシア、シンガポール、バングラデシュであった。本年の府内における麻しん症例は、主にベトナム由来と考えられる遺伝子型B3麻しんウイルスの輸入関連事例による散発的な発生にとどまった。今後も麻しん排除状態を維持するためには、輸入症例の早期探知および感染拡大防止に加え、遺伝子型解析を含む継続的な分子疫学解析が重要であると考えられた。（主担：STI・発しんグループ）

6) 突発性発しん、水痘、伝染性紅斑

2025年1週から52週までの期間に検査を実施した突発性発しん疑い2症例のうち、2症例からヒトヘルペスウイルス6型が検出された。突発性発しんは主に乳幼児に発症する代表的な発しん性疾患であり、本結果は臨床診断をウイルス学的に裏付けるものであった。水痘疑い症例5症例のうち、4症例で水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）が検出され、臨床診断と検査結果は概ね一致していた。VZV陽性となった4症例はいずれも水痘ワクチン接種歴を有しており、そのうち1症例では発症11日前にワクチン接種歴が確認されたことから、ワクチン株による発症の可能性も考えられた。伝染性紅斑疑い症例4例のうち、2症例からパルボウイルスB19（B19V）が検出された。この結果から、当該時期に地域内でB19V感染が発生していたことがウイルス学的に確認された。B19V感染は周期的な流行を示すことが知られており、今後も発生動向を継続的に監視していくことが重要であると考えられた。（主担：STI・発しんグループ）

7) 節足動物媒介性ウイルス、リケッチア、マラリア

2025年1月～12月に蚊媒介性感染症（デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、マラリア）やダ

二媒介感染症（SFTS、つつが虫病、日本紅斑熱、Q熱）が疑われた64例（122検体）を検査し、デングウイルスが11例（1型3例、2型5例、3型3例）、熱帯熱マラリア原虫が1例、SFTSウイルスが1例、日本紅斑熱リケッチアが16例（遺伝子検査陽性15例、抗体検査陽性1例）検出された。（主担：医動物グループ）

2. 調査研究

1) 腸管感染症に関する研究

(1) 下痢症ウイルスの分子疫学解析と流行に関する研究

大阪における長期サーベイランスではノロウイルスについて dual typing を実施し、全年齢層を網羅する疫学情報の集積を継続している。感染症発生動向調査事業、食中毒疑い事例、集団胃腸炎のデータを詳細に解析し、保育園等の小児の検体からは GII.4[P16] および GII.17[P17]、介護老人保健施設等の高齢者の検体からは GII.17[P17] が主として検出された。また、2024年4～2025年3月の集団胃腸炎から検出されたA群ロタウイルスについて、全分節の遺伝子型解析を試みた。その結果、DS-1-like G3P[8] の検出が最も多く、その他に Wa-like G3P[8]、DS-1-like G8P[8]、Wa-like G9P[8] が検出された。検出事例数のピークは2025年3月であった。

エンテロウイルスについては、RD-A細胞を用いてR6年に検出されたエコーウイルス18型のウイルス分離を試み、分離されたウイルス株計4株のVP1領域全長の分子疫学解析を行った。その結果、株間の塩基配列類似性は非常に高く、系統樹解析によりいずれの株も近年アジアで流行しているエコーウイルス18型と同じクラスターに分類された。（主担：腸管グループ）

2) 呼吸器感染症に関する研究

(1) ウイルス性呼吸器感染症に関する研究

インフルエンザウイルスについては、2024/2025シーズンはAH1pdm09亜型が主流株、2025/2026シーズンは前半となる2025年末まではAH3亜型が主流株となっている。各シーズンでインフルエンザ患者検体から分離されたウイルスのHA遺伝子全長を用いた系統樹解析の結果、AH1pdm09亜型では、ほとんどが前シーズンの分離株が属するクレードからさらに共通のアミノ

酸変異を伴ったサブクレードに属した。AH3亜型については、欧州で流行が拡大し話題となっていた「サブクレードK」に属するウイルスが、2024/2025シーズン終盤の2025年8月採取検体から大阪では初めて分離され、それ以降、多くの株が属するサブクレードとなっている。また、インフルエンザウイルスの検出が陰性だった上気道由来検体13検体からその他の呼吸器感染症起因ウイルスの検出を試みたところ、3検体からウイルスが検出された。2検体はライノウイルスが検出され、BLASTを用いた型別の結果、それぞれC12型、B6型であった。1検体からはヒトメタニューモウイルスが検出された。（主担：森川）

下水サーベイランスとの相関を見るため、インフルエンザウイルスの流行状況との比較を行った。下水からの検出値と府内での流行状況はよく相関することが示された。（大阪大学CiDERとの共同研究）（主担：左近、森川）

RSウイルスについては、2020年3月～2025年3月に大阪府下で検出されたA型33株、B型26株を対象とし、国内外の既報株を含めてG遺伝子及びF遺伝子領域の分子系統樹解析を行った。系統分類の結果、A型、B型ともに近年国内外で検出されている株と近縁であった。（主担：小山、廣井）

アデノウイルスについては、2025年に咽頭結膜熱検体、流行性角結膜炎の検体から検出された2型2株、3型1株、14型1株、54型4株、56型1株のヘキソン遺伝子可変領域の塩基配列を解析したが、特徴的な変異は認められなかった。（主担：平井）

新型コロナウイルスについては、VeroE6 TMRSS2細胞を用いてウイルス株の分離を試み、オミクロンNB.1.8.1を分離した。被験者の血清を用いてNB.1.8.1に対する中和抗体価を測定した結果、BA.5系統に対する中和抗体価と比較して、幾何平均抗体価は有意に低いことが確認された。（主担：廣井）

(2) 発しん性ウイルス感染症に関する研究

2024年1週から52週にかけて大阪府内で検出された麻しんウイルス11例（府内で検出された10例および堺市衛生研究所から配列情報の提供を受けた1例）について、Nucleoprotein 450塩基領域に加えて、Noncoding region between the matrix and fusion genes (M/F-NCR) 領域を用いた系統樹解析を行った。麻しん患者の疫学情報と分子疫学情報を統合して解析し、患者間の疫学リンクの推定を行った。また、麻しんウイルス

の全ゲノム解析を実施し、アンプリコンシーケンスにより分離ウイルス 17 株の配列を決定した。今後は、麻しん分子疫学への全ゲノム配列の導入を検討するとともに、同一患者内におけるウイルスゲノムの多様性および感染伝播に伴う変異頻度について検討する予定である。(主担：倉田、上林)

先天性風しん症候群症例から分離された風しんウイルス 2 株を対象に、全長ゲノム配列の解析を実施した。先天性風しん症候群ではウイルスが長期間体内に持続感染することが知られていることから、今後は解析対象株数の拡充および解析手法の検討を進め、持続感染過程におけるウイルスの遺伝的変異の蓄積や分子進化について評価を行う予定である。(主担：上林、倉田)

3) HIV およびその他の性感染症に関する研究

(1) HIV 感染症に関する研究

2025 年 1 月から 12 月までの HIV 確認検査陽性検体 74 例のうち、未治療 HIV 感染例について薬剤耐性遺伝子検査を実施したところ、解析が可能であった 17 例のうち 5 例から薬剤耐性アミノ酸変異が検出された。また 17 例について HIV-1 の *pol* 領域の塩基配列よりサブタイプ型別を行った結果、10 例 (58.8%) がサブタイプ B であり、B 以外のサブタイプは (non-B サブタイプ) は 7 例 (CRF01_AE が 3 例、O1B が 2 例、BC が 2 例) であった。性感染症関連の 2 診療所を定点とした HIV 疫学調査において、検査を実施した 89 例中、HIV-1 陽性例が 2 例検出された (陽性率 1.28%)。 (うち 2025 年 1 月から 3 月までの数値は、HIV 確認検査陽性検体 16 例中、解析可能であった 8 例のうち、3 例から薬剤耐性アミノ酸変異が検出された。サブタイプ型別の結果、5 例 (62.5%) がサブタイプ B であり、B 以外のサブタイプは 3 例 (CRF01_AE が 1 例、O1B が 1 例、BC が 1 例) であった。(主担：阪野、浜、川畑)

(2) HIV 感染症以外の性感染症に関する研究

HIV スクリーニング検査実施時に HBs 抗原検査を実施していなかった HIV 確認検査陽性検体 28 例と、性感染症関連の 2 診療所を定点とした HIV 疫学調査において得られた HIV 感染についてリスクの高い性行動を取る人の血清 89 検体について、B 型肝炎ウイルスの抗原 (HBs 抗原) の検査を実施したところ、2 例が陽性であった。医療機関からの依頼により梅毒トレポネーマ遺伝子の核酸増幅検査を 47 例実施したところ、23 例が陽性

であった。企業との共同研究により昨年度発売された、マイクロ流路チップを利用したリアルタイム PCR 装置用の梅毒トレポネーマ遺伝子検出試薬について、液体で -20℃ 保存であったものを固相化し 4℃ 保存可能なよう改良した。企業からの受託研究で、梅毒トレポネーマ遺伝子と単純ヘルペスウイルス (HSV) 遺伝子のマルチプレックスリアルタイム PCR 試薬の検討を行った。治療中の HIV 陽性者を含む、HIV 確認検査陽性例 79 例について HTLV-1 抗体検査を実施したところ、全て陰性であった。本年実施された MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーンの保存検体 263 検体を用い HTLV-1 抗体の保有状況を調査したところ、1 名の抗体陽性者を検出した。大阪府内の診療所と国立感染症研究所と共同で実施している淋菌の薬剤感受性サーベイランスにおいて、2025 年 1 月から 12 月までの間に分離された菌株 73 株 (うち 1 月から 3 月までは 25 株) についてセフトリアキソン高度耐性株が含まれないことを確認した。エムボックスウイルスの病原性の解明を目的とした基礎検討を進めた。また、エムボックスウイルスの検査試薬の評価を行うため、iCROWN 事業から臨床検体の提供を受けた。単純ヘルペスウイルスの型別・定量検査を実施するため、弊所で分離した HSV 株を利用し、HSV-1/2 のマルチプレックスリアルタイム PCR 検査法を立ち上げた。(主担：川畑、阪野、浜)

4) 衛生動物を介する感染症に関する研究

(1) 2025 年の蚊媒介感染症のサーベイランスについては、大阪・関西万博会場 2 地点を含む府内 44 地点 (大阪市・中核市依頼検査分を含む) で捕獲された蚊 (595 プール、6319 頭) に対してウエストナイルウイルス、オルソフラビウイルス属ウイルス、デングウイルス、チクングニアウイルスの遺伝子検査を行った。その結果、上記のウイルスはすべて検出されなかった。2025 年のウエストナイル熱に関する死亡鳥類調査事業については、死亡野鳥 (カラス 3 頭、ハト 1 頭) を遺伝子検査し、全てウエストナイルウイルス陰性であった。また、令和 7 年度蚊媒介感染症対策訓練 (実地訓練：大阪城公園、机上訓練：大安研) において、シナリオ作成、実地研修、講師として協力した。(主担：医動物グループ)

大阪市特別調査として、蚊類のオビトラップ (産卵トラップ) による幼虫 (ボウフラ) の密度調査を 8 か所で実施し、3 種 4256 頭を同定した。成虫の少ない地点

でも多く幼虫が発生しており、成虫、幼虫両方の調査が必要であることが示された。オビトラップにイチョウ落葉を用いるとヒトスジシマカが多く捕獲され、ウメ落葉ではアカイエカとトラフカクイカが多くなった。植生が蚊の発生に影響を与える可能性が示唆された。今後も蚊幼虫の生息密度を把握し、ウエストナイル熱やデング熱の潜在媒介蚊の動向を明らかにすることが重要であると考えられる。(主担：山崎)

大阪府環境衛生監視員、大阪市生活衛生課職員に対し、蚊・ダニ媒介感染症の研修とそ族昆虫に関する研修を実施した。担当職員の同定能力ならびに対住民指導能力の向上をはかることは、公的機関として重要な任務と考えられた。(主担：医動物グループ)

大阪市保健センターからの害虫相談、食品や家屋の害虫の同定とアドバイスを今年度は10件実施した。害虫の相談件数は減少傾向である。(主担：山崎)

(2) 動物由来感染症に関する研究

2025年度大阪府動物由来感染症サーベイランスとして、府内で捕獲されたアライグマの日本紅斑熱とSFTSの抗体調査を実施した結果、日本紅斑熱について33頭/50頭(陽性率66.0%)、SFTSについて16頭/50頭(陽性率32.0%)が抗体を保有していた。2025年度に大阪府動物管理愛護センターより搬入されたイヌ1頭に対して狂犬病ウイルスの遺伝子検査を実施した結果、陰性であった。(主担：医動物グループ)

野生動物における日本紅斑熱やSFTSの抗体調査を実施したところ、2025年度日本紅斑熱は70頭/106頭(陽性率66.0%)、SFTS30頭/93頭(陽性率32.2%)が抗体を保有していた(大阪府動物由来感染症サーベイランスの調査結果を含む)。また、大阪北部で捕獲されたシカにおいて、日本紅斑熱は61頭/77頭(陽性率79%)、SFTS1/75頭(陽性率1.3%)が抗体を保有していた。府内での日本紅斑熱やSFTSの浸淫地域が拡大している可能性が示唆されたが、SFTSではまだ大阪北部での浸淫状況は低いと考えられた。またSFTSが疑われた伴侶動物28頭について遺伝子検査を実施したところ、ネコ5頭(陽性率18%)が陽性となり、大阪府内でも陽性症例が2例確認され、今後も注意が必要と考えられた。(主担：青山、池森)

(4) 寄生虫等の分類、同定、検査法に関する研究

臨床、動物等に由来する寄生虫と食品等に認める寄生虫または寄生虫様の異物について、その同定法の技術向

上に努めた。形態的に識別困難な原虫類・蚊・マダニ類・魚介類由来の粘液胞子虫について、マルチプレックスPCR法・リアルタイムPCR法等の有効性を検討した。その結果、検体によっては、非特異的に増幅する等の不具合が生じ、検査法の改良が必要と考えられた。

2025年1～12月にかけて大阪府に流通する魚介類38種類368尾を調査した結果、サンマ等からアニサキスが51虫体、異物苦情となりうる吸虫や条虫等が確認された(主担：馬場)。

5) 先進的サーベイランス

国際的マスギャザリングである万博開催の感染症対策に資することを目的に万博会場のある夢洲地区からの下水(以下、会場下水)およびその処理場流入下水について下水サーベイランスを実施した。会場下水は毎土曜日11時から15時、処理場流入水は水曜15時を基本として1L採水し、会場下水は2025年1月から10月までに41検体、処理場下水は同期間に44検体となった。40mLの遠心沈渣から核酸を抽出し、病原体のスクリーニング検査としてdigital droplet PCR(ddPCR)を用いたマルチ検出を行った。RNAウイルスについてはRT-PCR(PreAmp)したのち、ddPCRに供した。またポリオウイルスについては会場下水について隔週、処理場下水ではddPCRで1コピー以上の反応があった場合にRD-A細胞、L20B細胞での培養を試みた。対象病原体はSARS-CoV-2、インフルエンザウイルスA・B、RSウイルスA・B、麻疹ウイルス、風しんウイルス、SFTSウイルス、アルボウイルス(デングウイルス、ジカウイルス、チクングニアウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)、MERS-CoV、ノロウイルスGI・GII、ポリオウイルス、Mpoxウイルス、A型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルス、侵襲性髄膜炎菌、ペスト菌(*Yersinia pestis*)、赤痢菌(*Shigella* spp)、コレラ菌(*Vibrio cholerae*)とした。これら対象病原体のうち、アルボウイルス、麻疹ウイルス、MERS-CoVが検出された場合は連携機関である大阪大学微生物病研究所においても同一ロット下水から検出され、かつ全長に近い配列が決定できた場合のみ関係機関へ連絡する体制とした。輸入感染症の病原体であるウイルス、細菌について関係機関への報告基準を満たす検出を認めなかった。細胞培養からはレオウイルス、エコーウイルス3、7、11が分離されたがポリオウイルスは検出されなかった。(主担：左近、河原、若林、濱口)

3. 講演、委員会、研修等

1) 講演等

- R7.5.7 GLOWACON Regional Conference | Latin America & the Caribbean Wastewater surveillance (WWS) in Osaka and demonstration research at the Osaka Kansai EXPO (左近)
- R7.7.1 令和7年度大阪府蚊媒介感染症対策訓練「蚊と蚊媒介感染症 その対策について」(青山)
- R7.7.17 衛生微生物技術協議会 第45回研究会「大阪における急性呼吸器感染症ウイルス検査への取り組みと課題」(改田)
- R7.8.6 第4回下水サーベイランス講演会「大阪・関西万博における下水サーベイランス」(左近)
- R7.9.20 GLOWACON at the EXPO Osaka 2025, Water, Health and competitiveness, PANEL SESSION : From circular economy thinking to ecofactory building The circularity of risk and hazards (左近)
- R7.9.24 GLOWACON at the EXPO Osaka 2025, Water, Health and competitiveness, PANEL SESSION: The islands of life initiative, The bigger picture in a smaller world (左近)
- R7.11.22 大阪公立大学・長崎大学 感染症合同シンポジウム「メトロポリタンヘルスのセンチネルとしての下水サーベイランスの有用性 流行性疾患・輸入感染症・新興感染症」(左近)
- R7.11.28 第37回下水道疫学研究会「大阪における下水サーベイランスの取り組み」(左近)
- R7.12.6 第39回日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム「大阪におけるHIV検査について」(浜)
- R8.2.27 一般社団法人大阪府ペストコントロール協会 創立60周年記念講演会「大阪府におけるトコジラミ被害拡大要因の解明を目指した研究」(佐々木)

2) 委員会等

- 大阪市感染症発生動向調査解析評価検討会(6回)(川畑)
- 内閣府食品衛生委員会 微生物・ウイルス専門調査会(3回)(左近)
- R7.8.28 大阪市感染症発生動向調査委員会(廣井)
- R7.9.12 大阪府アライグマ対策連絡協議会総会(オプ

ザーバー参加、池森、青山)

- R7.10.31 令和7年度大阪府感染症対策審議会 麻しん及び風しん対策部会(倉田)
- R7.12.25 茨木市環境保全対策専門指導委員会(左近)
- R8.1.6 令和7年度HIV及び性感染症対策推進会議(川畑)
- R8.1.21 令和7年度大阪府感染症対策審議会 エイズ対策及び医療連携推進部会(川畑)
- R8.3.18 令和7年度第2回大阪府感染症対策審議会 エイズ対策及び医療連携推進部会(川畑)
- R8.3.19 大阪府動物由来感染症対策連絡会議(青山)

3) 研修等の受講

- R7.5.14 令和7年度メンタルヘルスマネジメント実践研修会(大阪府庁)、大阪市
- R7.7.3-4 第21回実験動物管理者研修会、web開催
- R7.7.4 令和7年度第1回阪神地区感染症懇話会講演会(阪神地区感染症懇話会・大阪府)、大阪市
- R7.10.6-24 令和7年度ウイルス研修(国立感染症研究所村山庁舎)、東京都
- R7.11.22 小動物実技研修、滋賀県
- R7.12.18-19 令和7年度地方衛生研究所等職員セミナー(初任者向け:ウイルス分離)(山形県衛生研究所)、山形市
- R8.1.16 日本学術会議公開シンポジウム「One HealthからSFTS(重症熱性血小板減少症候)を深掘り」(日本学術会議) web開催
- R8.1.31 輸入感染症・動物由来感染症オンライン講習会(国立国際医療センター) web開催
- R8.2.13 厚生労働省実験動物管理者研修会 web開催
- R8.2.13 令和7年度地方衛生研究所全国協議会精度管理部会研修会(神奈川県衛生研究所) web開催
- R8.2.18-19 令和7年度希少感染症・重点感染症診断技術研修会(厚生労働省・国立感染症研究所) web開催
- R8.3.4 令和7年度食品内で発見される昆虫等に関する検査技術研修会(東京都健康安全研究センター他) web開催

衛生化學部

食 品 安 全 課

食 品 化 學 課

醫 藥 品 課

生 活 環 境 課

食 品 安 全 課

食品安全課は、大阪府健康医療部食の安全推進課および保健所、ならびに大阪市健康局健康推進部生活衛生課および保健所との協力のもと、令和7年度大阪府食品衛生監視指導計画ならびに大阪市食品衛生監視指導計画に従い、遺伝子組換え食品、アレルゲン、食品添加物、有害金属等の残留基準・使用基準、および器具・容器包装、玩具、栄養成分、食品添加物などの規格基準に基づく検査を行った。また、他の検査機関で違反疑いとなった検体の確認試験や、食中毒事例にも対応した。大阪府内の中核市や大阪市教育委員会からの依頼検査も実施した。業務管理基準（GLP）関連では、標準作業書の改定を行った（9件）。研究業務では、検査法の開発および評価などを行い、学術誌もしくは学会で発表した。また、厚生労働省の研究にも参画した。令和7年度に実施した検査業務での総検体数は1,064であった（表5.1）。検査の結果、規格違反が3検体で確認された。

1. 試験検査

1) 遺伝子組換え食品

安全性審査済み遺伝子組換えについては、分別生産流通管理検証の検査として大豆穀粒（3検体）について3品種（RRS、RRS2、LLS）の定量検査を実施した。いずれも遺伝子組換え大豆は検出限界（0.5%）未満であった。

安全性未審査の遺伝子組換え検査については、ばれいしょ（対象品種：F10、J3）21検体、トウモロコシ（対象品種：Bt10）14検体、コメ（対象品種：63Bt、NNBt、CpTI）21検体の加工品において定性検査を実施した。ばれいしょ加工品1検体で検知不能、その他はすべて陰性であった。

2) アレルゲン

食物アレルギーの原因となる原材料（小麦、そば、乳、卵、落花生、えび、かに）7品目の混入について検査した。小麦29検体、そば8検体、乳41検体、卵43検体、落花生28検体、えび、かにについては甲殻類として28検体、計177検体についてスクリーニング検査（ELISA法）を行った。落花生に対する検査では表示のない菓子1検体から基準値（10 μ g/g）を超える落花生タンパク質を検出し、落花生検出用プライマー対を用いた確認検査（PCR法）でも落花生を検知した。えび、かにに対する検査では魚介加工品1検体から基準値を超える甲殻類タンパク質を検出した。当該検体には代替表記として「魚肉すり身（魚介類）」の表示が確認された。その他の検体ではスクリーニング検査で基準値を超える

対象タンパク質は検出されなかった。

3) 食品添加物

以下の（1）～（7）について検査を行ったところ、着色料1検体に表示のないタール系色素が検出された。きなこ1検体から安息香酸、菓子類1検体からTBHQ、即席めん1検体についてBHAが検出された。その他については、表示通りであった。

（1）保存料（安息香酸など）

魚肉ねり製品など（194検体）を検査した。きなこ1検体から安息香酸を検出した。

（2）甘味料（サッカリンNaなど）

菓子類など（234検体）を検査した。

（3）着色料

菓子類など（154検体）を検査した。和生菓子1検体から表示のない黄色5号を検出した。

（4）発色剤

加熱食肉製品（42件）を検査した。

（5）漂白剤/酸化防止剤（二酸化硫黄）

果実酒など（50検体）を検査した。

（6）酸化防止剤（TBHQ・BHA・BHT）

菓子類など（220検体）を検査した。菓子類1検体からTBHQを検出した。即席めん1検体からBHAを検出した。

（7）食品添加物製剤（着色料製剤）

着色料製剤（2検体）の規格適合性を検査した（表5.2）。

4) 有害金属

表 5.1 行政検査業務実績

項目	検体数				試験検査の項目数								
	総数	行政検査		その他		総数	有害金属	食品添加物	容器・包装等規格	アレルギー	遺伝子組換え食品	栄養・機能性成分	その他の定性・定量
		良	不良	良	不良								
種類													
総数	1064	938	3	123		6011	105	4999	535	210	128	25	9
魚介類・加工品 (かん詰・びん詰を除く)	84	81		3		297	46	241		10			
肉卵類及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	61	50		11		114	6	106		2			
牛乳・乳製品・乳類加工品	14	14				45		20				25	
穀類及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	83	73	1	9		282	5	174		35	68		
野菜類果物及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	147	114	1	32		765	10	720		7	22		6
菓子類	247	225	1	21		2398	10	2269		86	33		
清涼飲料水・水・清酒・ 果実酒・氷雪	38	34		4		171	20	150		1			
かん詰びん詰食品	153	133		20		832		778		49	5		
添加物及びその製剤	2	2				10	8	2					
器具・容器包装、おもちゃ、洗剤	158	144		14		535			535				
特定保健用食品	77	68		9		562		539		20			3
その他の食品	100	86		14		894		876		16			2

表 5.2 食品添加物規格に関する試験

検体名	検体数	検査項目
着色料製剤（挽茶色）	1	食用黄色4号、食用黄色5号、食用青色1号、食用赤色2号確認試験、重金属、ヒ素、クロム、マンガン
着色料製剤（黄緑色）	1	食用黄色4号、食用青色1号確認試験、重金属、ヒ素、クロム、マンガン

(1) 二枚貝

総水銀について、二枚貝（アサリ：1検体、ハマグリ：1検体、ホタテ：1検体、イワガキ：1検体、シジミ：1検体）を検査した。いずれも暫定的規制値（0.4ppm）以下であった。

(2) 食肉

総水銀について、食肉（鶏：1検体、牛：2検体、豚：3検体）を検査した。いずれも定量下限（0.01ppm）未満であった。

(3) 玄米・精米

カドミウムおよびヒ素について、玄米2検体を検査

した。カドミウムはいずれも基準値（0.4ppm）以下であった。ヒ素は三酸化二ヒ素として0.37および0.23ppmであった。カドミウムについて、精米1検体を検査し、基準値（0.4ppm）以下であった。

(4) 清涼飲料水

清涼飲料水13検体中の重金属規格（鉛、ヒ素、スズ）の検査では、違反は認められなかった。

(5) 魚介類

魚介類36検体中の総水銀の検査を行ったところ、はまち1検体から総水銀0.47ppm、メチル水銀0.33ppmを検出した。

5) 有害物質

(1) フェオホルバイド

クロロフィルを含む健康食品(クロレラ加工品 1 検体)を検査した。フェオホルバイドは指導基準(既存フェオホルバイド量が 100mg/100g、または総フェオホルバイド量が 160mg/100g)未満であった。

(2) シアン化合物

生あんなど(3 検体)を検査した。いずれも不検出(検出下限: 0.5mg/kg)であった。

6) 器具・容器包装および玩具等

(1) 器具・容器包装

ポリプロピレン(PP)およびポリエチレン(PE)を主成分とする食品容器など 20 検体、ポリスチレン(PS)を主成分とする食品容器など 9 検体、ポリエチレンテレフタレート(PET)を主成分とする食品容器など 13 検体、メラミン樹脂を主成分とする食品容器など 1 検体、ゴム製品 1 検体、ガラス・陶磁器・ホウロウ引き製品 21 検体の規格検査を行った。紙皿や紙コップなど 18 検体について蛍光染料の検査を実施した。いずれも基準に適合していた。

(2) 玩具

折り紙 22 検体、それ以外の知育玩具、がらがら、粘土等の 21 検体について規格検査を行い、いずれも基準に適合していた。

(3) その他

合成洗剤 1 件について規格試験を行い、基準に適合していた。

7) 栄養成分

加工食品 4 検体について検査を実施した(表 5.3)。

8) 異物・苦情食品

大阪府健康医療部食の安全推進課や大阪市健康局健康推進部生活衛生課等から依頼される食品に関する苦情原因調査および基準値超過疑いなどに関する確認検査について実施した(表 5.4)。

9) 教育委員会から依頼される検査

大阪市教育委員会事務局総務部学校給食課の依頼に基づき、給食で使用される食品あるいは器具・容器に対して検査を行い、それらの品質向上ならびに安全確保において重要な役割を担っている。検査した食品の内訳を表 5.5 に示す。いずれも教育委員会が定める規格および食品衛生法の規格基準を満たしていた。

学校給食用ポリカーボネート製の器具・容器(飯椀 6 検体、三切り皿およびはし各 1 検体)について、ビスフェノール A(フェノールおよび p-t-ブチルフェノールを含む)の溶出量を食品擬似溶媒(水、4% 酢酸、20% エタノールおよびヘプタン)を用いて所定の条件下で検査した。いずれも規格基準に適合した。

表 5.3 栄養成分検査

検査項目		検体数
熱量		4
たんぱく質		4
脂質		4
炭水化物		4
食塩相当量		4
ミネラル	カルシウム	4
	鉄	1

表 5.4 食中毒、苦情の原因調査及び法令違反の疑い等に関する試験

分類	事例番号	検体	検査項目	結果
確認試験	1	食品抽出液	ソルビン酸	ソルビン酸が検出された
異物苦情対応	1	エイの棘(びきょく)様物質	異物の同定	エイの尾棘である可能性が高い
食中毒の原因調査	1	ふぐ白子のホイル焼きおよびふぐ皮の残品	ふぐ魚種鑑別	トラフグ属のトラフグもしくはカラスの可能性が最も高い
	2	魚切り身(残品)	魚種鑑別	アカハタ属のヤイトハタの可能性が最も高い

表 5.5 学校給食用食品に関する試験

検体名	検体数	検査項目
青果物・その加工品		
アプリコットジャム	1	タール色素
いちごジャム	2	ソルビン酸
じゃがいも、きゅうり、りんごなど	5	ヒ素、鉛
まっ茶大豆、グリーンピースなど	3	シアン化合物
魚介類・その加工品		
さごし、えび	4	総水銀
紅ごけ	1	ソルビン酸
肉類・その加工品		
ウインナー	1	タール色素
ベーコン、ハンバーグ	2	ソルビン酸
ベーコンなど	3	亜硝酸根
調味料		
中華スープの素、コチジャンなど	3	タール色素
ケチャップ	1	ソルビン酸
合計	26	検査総項目数：31

10) 中核市からの依頼検査

中核市等からの依頼検査を表 5.6 にまとめた。

11) 2025 大阪・関西万博に係る依頼検査

大阪市健康局の依頼に基づき、大阪・関西万博会場内で収去された食品等について、保存料 25 検体、甘味料 15 検体、着色料 20 検体、酸化防止剤 (TBHQ) 10 検体、アレルギー 30 検体 (小麦 10 検体、乳 10 検体、卵 10 検体)、器具・容器包装 (ガラス、陶磁器) 10 検体の検査を実施した。検査した食品の内訳を表 5.7 に示す。いずれも法令違反や不適合は認められなかった。

2. 調査研究

1) 器具・容器包装等に関する衛生学的研究

表 5.6 依頼による検査

依頼者	検査対象品	検査項目	検体数
高槻市保健所	加工食品	食品添加物 着色料、保存料、甘味料、指定外甘味料、漂白剤、酸化防止剤、発色剤	18
豊中市保健所	加工食品	食品添加物 着色料、保存料、甘味料、指定外甘味料、指定外酸化防止剤	14
	特定原材料	小麦、乳、卵	3
枚方市保健所	容器包装	蛍光染料	2
	加工食品	食品添加物 指定外酸化防止剤	2
	折り紙	重金属 重金属・ヒ素	1
八尾市保健所	容器包装	蛍光染料	2
	加工食品	食品添加物 着色料、保存料、甘味料、指定外甘味料、漂白剤、指定外酸化防止剤、発色剤	20
	特定原材料	そば、小麦、落花生、乳、卵、えび・かに	5
	清涼飲料水	重金属 鉛・ヒ素	1
	折り紙	重金属 重金属・ヒ素	1
寝屋川市保健所	容器包装	容器包装規格 規格 (ポリプロピレン)	1
	容器包装	蛍光染料	1
	加工食品	食品添加物 着色料、保存料、甘味料、指定外甘味料、漂白剤、指定外酸化防止剤、発色剤	20
	特定原材料	乳、卵	4
	清涼飲料水	重金属 鉛・ヒ素	1
吹田市保健所	容器包装	容器包装規格 規格 (ポリプロピレン、ポリスチレン、PET)	3
	容器包装	蛍光染料	1
	加工食品	食品添加物 着色料、保存料、甘味料、指定外甘味料、漂白剤、指定外酸化防止剤、発色剤	21
	特定原材料	卵	1
吹田市保健所	折り紙	重金属 重金属・ヒ素	1
	容器包装	蛍光染料	1

表 5.7 2025 大阪・関西万博検査業務実績

項目	検体数	試験検査の項目数			
		総数	食品添加物	容器・包装等規格	アレルギー
種類	65	475	425	20	30
魚介類・加工品 (かん詰・びん詰を除く)					
肉卵類及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)					
牛乳・乳製品・乳類加工品					
穀類及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	5	17	12		5
野菜類果物及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	2	25	24		1
菓子類	33	276	257		19
清涼飲料水・水・清酒・ 果実酒・氷雪	8	88	87		1
かん詰びん詰食品	3	36	36		
添加物及びその製剤					
器具・容器包装、おもちゃ、 洗浄剤	10	20		20	
その他の食品	4	13	9		4

非食品用途原料を化学的再生処理したペットボトルについて安全性確保のための研究を実施した。また、玩具等に含まれる有害元素及びハロゲン系難燃剤の実態調査、陶磁器製食器から溶出する有害元素の実態調査を実施した。また、溶出試験における試験溶液の調製操作に関する共同試験を実施した。(主担:尾崎、岸、水口)

マイクロプラスチックについて、大気浮遊粉じん及び食品に含まれるマイクロプラスチックの分析法の検討等を実施した。大気浮遊粉じんについては前処理法の検討及び呼吸器系到達部位の推定を行い、食品についてはミネラルウォーター中のマイクロプラスチック分析における課題を整理した。(主担:尾崎)

2) 食品に含まれる健康危害物質に関する衛生学的研究

(1) 食中毒(苦情)等の原因究明に関する研究

有毒きのこの迅速鑑別法の開発を行い、顕微鏡によるきのこの鑑定を進めるとともに、きのこについて情報提供を行った。また、毒きのこ成分の単離精製、合成を行

い、機器分析法を検討した。(主担:野村、山口瑞)

標準品を保有しない場合でも食中毒の原因推定が可能となる自然毒マスマスペクトルライブラリーを構築するために、植物性自然毒の標準品 10 種についてマスマスペクトルを取得した。(主担:村上、村野)

LC-MS/MS を用いたシガトキシン検出法を検討した結果、従来法である Na 付加体検出法に比べ、Li 付加体検出法を用いることにより、普遍的・高感度での分析が可能であることが、確認できた。(主担:仲谷、村野)

食品中の危害微生物のリアルタイム・オンサイト定量システムの開発に関して、今年度は培養困難な状態(VBNC)の細菌を検出するための検討を行った。(主担:徳永)

イムノセンサによる食品に含まれる健康危害物質(かび毒)の分析法の検討を行った。今年度は、かび毒ニバレノール(NIV)に対するモノクローナル抗体を調製し、抗体を用いて NIV に対するイムノセンサを 1 種類構築した。今後、当イムノセンサが小麦や大麦に含まれる NIV の測定に適した性能か評価を進める予定である。(主担:山崎)

(2) 食品に含まれる化学物質に関する研究

ヒ素、カドミウムおよび鉛を含有する試作食肉試料の均質性試験を行い、分析値の分散を確認した。(主担:油谷、村野、新矢)

無機水銀をフェニル誘導体化することで GC/MS で測定可能であることが分かった。カドミウム、鉛については、適切な誘導体化試薬および条件を検討中である。(主担:柿本幸、吉光)

PA 濃度が比較的高かった茶試料について、汚染源植物の推定を行ったところ、ある種のキク科植物に由来することが、強く示唆された。(主担:仲谷)

3) 食品の安全性、機能性および品質に関する研究

(1) アレルギーに関する研究

セロリアレルギー分析法を確立し、部位別の濃度差を確認した。ゆで卵では鶏卵アレルギーの分布挙動の微量変化を把握した。さらに、定性分析用アレルギータンパク質の情報リストを作成した。(主担:吉光、清田、松井、村野、山崎、大西)

(2) 食品の安全性、機能性、品質等に関する研究

食品添加物検査に係る分析法の検討および妥当性確認

を行った。甘味料分析法において、代表的な検査対象食品（菓子類・漬物類・魚介加工品・ジャム類・清涼飲料水）を用いて添加回収試験を実施し、妥当性ガイドラインの目標値を満たす評価結果を得た。各甘味料と食品によって回収率に差異が確認されたことから、甘味料の構造によって食品中の原材料等が影響を及ぼしていると推察された。亜硫酸分析法では、食品5種（かんぴょう、乾燥りんご、白ワイン、白花豆煮豆、スポーツ飲料）に対して、SO₂として基準値濃度相当を添加した回収試験の結果、妥当性ガイドラインの目標値を満たす評価結果を得た。本分析法は検査に適用可能と考えられ、SOPを改定した。（主担：村上、寺谷、柿本葉、徳永、大西、野村、藤原、山崎、村野、昌山）

栄養成分検査に係る分析法として、有機酸のイオン交換系固相カラムを用いた精製条件を検討した。アルカリ性の試料溶液と強陰イオン交換の固相の組み合わせで良好な回収率が得られた。固相カラム負荷時にアルカリ性としたことで、固相への保持が改善されたと考えられた（主担：柿本葉、山崎、寺谷、昌山）

チーズに使用される保存料であるプロピオン酸の分析法を検討した。LC/MSの移動相について1、2、5 mM酢酸緩衝液を検討したところ、1 mMで最も良好な感度を得られた。（主担：柿本幸、藤原）

3. 講演、委員会、研修等

1) 講演

R7. 11. 20 日本缶詰びん詰レトルト食品協会 第74回技術大会 逸見賞受賞者講演「食品用ラミネートフィルムに含まれる金属類の溶出」（岸）

2) 委員会等

2025年度 執行委員会代議員（AOAC INTERNATIONAL JAPAN SECTION）（村上）

令和7年度 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業「海洋環境の変化を踏まえた貝毒低減等安全性向上に係る技術開発、検証」の評価委員（仲谷）

令和7年度 令和7～8年度学会活性化委員会（日本食品衛生学会）（清田）

日本食品化学学会第31回総会・学術大会実行委員会（日本食品化学学会）（清田）

第122回日本食品衛生学会学術講演会実行委員会（日本食品衛生学会）（仲谷、山崎、清田）

3) 研修の受講

R7. 7.10-11 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校 トラフグ属魚類の種又は雑種判別方法についての技術研修

R8.2.17 令和7年度 地方衛生研究所全国協議会理化学部会 衛生理化学分野研修会

食品化学課

食品化学課は、大阪府健康医療部食の安全推進課、大阪市健康局健康推進部生活衛生課および各保健所との協力の下、食の安全安心の確保を目的として、令和7年度大阪府食品衛生監視指導計画ならびに令和7年度大阪市食品衛生監視指導計画に従い、残留農薬、PCB、有害性金属、動物用医薬品、カビ毒、貝毒、防かび剤、酸価・過酸化物質、放射性物質等の分析及び乳等の規格基準に基づく検査を行った。令和7年度は大阪・関西万博開催期間において、開催会場内で収去された食品の検査を実施した。また、大阪府内の中核市や市町の教育委員会からの依頼検査も実施した。さらに、ふぐ毒、パリトキシン様物質の食中毒事例にも対応した。

調査研究では、大阪府健康医療部食の安全推進課、大阪市健康局健康推進部生活衛生課および各保健所との連携を密にし、学会発表および学術論文の投稿を行った。また、本年度も厚生労働省の委託を受け「食品試料調製事業」を実施した。

本年度実施した検査業務の概要を表6.1に示す。令和7年度に実施した検査業務での総検体数は845であった。規格基準違反の不良食品件数は、そのうちの1件であった。

1. 試験検査

1) 残留農薬の検査

(1) 乳

牛乳等10検体について有機塩素系農薬類6項目を分析した結果、全て定量下限(0.005 ppm)未満であった。牛乳2検体について残留農薬50項目を分析した結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(2) 食肉

食肉18検体(牛肉3検体、豚肉15検体)について有機塩素系農薬類6項目を分析した結果、全て定量下限(0.005 ppm)未満であった。食肉6検体(牛肉2検体、豚肉3検体、鶏肉1検体)について残留農薬50項目を分析した結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(3) 魚介類

養殖魚介類14検体について残留農薬50項目を分析した結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(4) 国内産農産物

野菜、果実、穀類等78検体について、残留農薬の検査を行った。検査は5月、7月、10月、11月および12月に実施され、その検査項目は1検体につき250項目とした。農薬が検出された食品と検出値を表6.2に示した。(主担：農産物G)

(5) 輸入農産物

野菜、果実、穀類等111検体について、残留農薬の検査を行った。検査は、5月、6月、8月、12月、1月および2月に実施され、その検査項目は1検体につき52～250項目とした。農薬が検出された食品と検出値を表6.3に示した。(主担：農産物G)

2) PCBの検査

(1) 乳及び乳製品

牛乳等12検体についてPCBを分析した結果、全て定量下限(0.01 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(2) 鶏卵

鶏卵9検体についてPCBの分析を行った結果、全て定量下限(0.02 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(3) 食肉

食肉6検体(牛肉2検体、豚肉3検体、鶏肉1検体)についてPCBを分析した結果、全て定量下限(0.05 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(4) 魚介類

魚介類28検体についてPCBの分析を行った結果、サワラから0.07 ppmのPCBが検出された。その他27検体についてはいずれも定量下限(0.05 ppm)未満であった。全て暫定的規制値未満であった。(主担：畜水産物G)

(5) 調製粉乳・調製液状乳

調製粉乳3検体、調製液状乳2検体についてPCBを分析した結果、全て定量下限(0.1 ppm)未満であった。

表 6.1 行政検査業務実績

項目	検体数				試験検査の項目数								
	総数	行政検査		その他		総数	残留農薬	P C B	動物用医薬品	自然毒	食品添加物	放射性物質	その他の定性・定量
		良	不良	良	不良								
総数	845	674	1	170		71601	67765	65	3341	75	24	72	259
魚介類・加工品 (かん詰・びん詰を除く)	177	175		2		1851	750	23	942	12		6	118
肉卵類及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	172	121		51		2403	450	20	1931			2	
牛乳・乳製品・乳類加工品	131	105		26		829	190	22	468	2		20	127
穀類及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	37	18		19		3275	3250			23		2	
野菜類果物及びその加工品 (かん詰・びん詰を除く)	275	216	1	58		63161	63125				24	12	
菓子類													
清涼飲料水・水・清酒飲料・ 果実酒・氷雪	29	25		4		36				22		14	
かん詰びん詰食品	3	3				6						6	
添加物及びその製剤													
器具・容器包装、おもちゃ、 洗浄剤													
機能性食品													
その他	21	11		10		40				16		10	14

(主担：畜水産物 G)

3) 動物用医薬品の検査

(1) 乳

牛乳等 9 検体について合成抗菌剤 30 項目の分析を行った結果、全て定量下限 (0.01 ppm) 未満であった。牛乳等 18 検体についてテトラサイクリン系抗生物質 2 項目の分析を行った結果、全て定量下限 (オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの総和：0.02 ppm、ドキシサイクリン：0.01 ppm) 未満であった。牛乳等 8 検体についてホルモン剤 4 項目の分析を行った結果、全て定量下限 (クロステボル：0.01 ppm、ゼラノール：0.002 ppm、メチルプレドニゾロン：0.01 ppm、ヒドロコルチゾン：0.01 ppm) 未満であった。生乳 2 検体について動物用医薬品 22 項目の分析を行った結果、全て定量下限 (オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの総和：0.02 ppm、他：0.01 ppm) 未満であった。(主担：畜水産物 G)

(2) 鶏卵

鶏卵 9 検体について合成抗菌剤 30 項目と駆虫剤 3 項目の分析を行った結果、全て定量下限 (0.01 ppm) 未満であった。(主担：畜水産物 G)

(3) 食肉

食肉 36 検体(牛肉 4 検体、豚肉 14 検体、鶏肉 18 検体)について合成抗菌剤 30 項目の分析を行った結果、全て定量下限 (0.01 ppm) 未満であった。牛肉 10 検体についてホルモン剤 5 項目の分析を行った結果、全て定量下限 (クレンプテロール：0.0002 ppm、ゼラノール、酢酸トレンボロン：0.002 ppm、クロステボル、メチルプレドニゾロン：0.01 ppm) 未満であった。食肉 23 検体(牛肉 10 検体、豚肉 13 検体)について、駆虫剤 3 項目の分析を行った結果、全て定量下限 (0.01 ppm) 未満であった。食肉 6 検体(牛肉 2 検体、豚肉 3 検体、鶏肉 1 検体)動物用医薬品 22 項目の分析を行った結果、全て定量下限 (オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの総和：0.02 ppm、他：0.01 ppm) 未満であった。(主担：畜水産物 G)

表 6.2 国産農産物から検出された農薬

実施月	食品	産地	農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
5月収去	にら	高知県	クレソキシムメチル	3.91	25
			プロチオホス	0.18	2
	ねぎ	香川県	ジノテフラン	0.05	15
			チアメトキサム	0.01	2
			プロチオホス	0.13	2
ほうれんそう	岐阜県	シアゾファミド	0.03	25	
キャベツ	愛知県	ジノテフラン	0.02	2	
7月収去	こまつな	茨城県	フルフェノクスロン	0.03	10
			ベルメトリン	0.25	20
	だいこん	北海道	ジノテフラン	0.26	0.5
			シアゾファミド	0.13	25
	ほうれんそう	群馬県	シベルメトリン	1.02	5
			フルフェノクスロン	0.21	10
			メタラキシル及びメフェノキサム	0.03	0.4
	長いも	北海道	メタラキシル及びメフェノキサム	0.03	0.4
	チンゲンサイ	福岡県	ジノテフラン	0.22	10
	ピーマン	大分県	アゾキシストロピン	0.01	3
			クロルフェナビル	0.01	1
			ピラクロストロピン	0.01	1
			ボスカリド	0.03	10
	ピーマン	宮崎県	ピラクロストロピン	0.19	1
			ボスカリド	0.82	10
	メロン類果実	静岡県	マイクロブタニル	0.09	3
			イミダクロプリド	0.01	0.2
			ジノテフラン	0.21	1
	河内晩柑	高知県	クレソキシムメチル	0.05	10
			ジノテフラン	0.02	10
テブコナゾール			0.17	5	
トリフロキシストロピン			0.07	3	
トルフェンピラド			0.22	3	
ピラクロストロピン			0.03	2	
フェンプロバトリン			0.03	5	
ボスカリド			0.04	10	
10月収去	きゅうり	宮崎県	チアメトキサム	0.02	0.5
			ボスカリド	0.03	5
	だいこん	石川県	ジノテフラン	0.04	0.5
			ジノテフラン	0.25	10
	にら	高知県	フルフェノクスロン	0.15	3
			インドキサカルブ	0.05	1
	はくさい	長野県	シアゾファミド	0.04	15
			ジノテフラン	0.05	6
			ジメトモルフ	0.02	2
	ほうれんそう	茨城県	マンジプロバミド	6.36	25
インドキサカルブ			0.04	1	
キャベツ	茨城県	ピラクロストロピン	0.01	0.2	
		ボスカリド	0.05	5	
		メタラキシル及びメフェノキサム	0.05	0.5	
		ルフェヌロン	0.02	0.7	
キャベツ	長野県	メタラキシル及びメフェノキサム	0.02	0.5	
11月収去	きゅうり	宮崎県	ジノテフラン	0.10	2
			プロシミドン	0.24	4
	こまつな	茨城県	シアゾファミド	0.25	15
			ルフェヌロン	0.14	5
	こまつな	福岡県	アセタミプリド	0.06	5
			ジノテフラン	0.09	10
			ルフェヌロン	0.09	5
	だいこん	石川県	イミダクロプリド	0.02	0.4
	にんじん	北海道	BHC	0.01	0.01
	ねぎ	長野県	メタラキシル及びメフェノキサム	0.03	2
	はくさい	茨城県	チアメトキサム	0.02	3
	みかん	和歌山県	ジノテフラン	0.04	2
	長いも	北海道	メタラキシル及びメフェノキサム	0.09	0.4
	りんご	長野県	シベルメトリン	0.02	2
	玄米	岩手県	ジノテフラン	0.02	2
玄米	長野県	プロモブチド	0.02	0.7	
玄米	青森県	トリシクラゾール	0.02	3	
玄米	新潟県	ジノテフラン	0.03	2	
12月収去	かき	静岡県	ジノテフラン	0.03	2
			イミダクロプリド	0.16	15
	ほうれんそう	大分県	ジメトモルフ	0.10	50
			メトキシフェノジド	0.41	30
			ジノテフラン	0.03	2
	みかん	愛媛県	トルフェンピラド	0.08	3
	みかん	和歌山県	ジノテフラン	0.04	2
りんご	青森県	シベルメトリン	0.04	2	

表 6.3 輸入農産物から検出された農薬 (1)

実施月	食品	産地	農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)	
5月収去	えだまめ	中国	ピラクロストロビン	0.01	0.5	
			イミダクロプリド	0.34	15	
	ほうれんそう	中国	ジメトモルフ	0.23	50	
			メトキシフェノジド	0.96	30	
			イミダクロプリド	0.01	15	
	ほうれんそう	中国	シベルメトリン	0.02	5	
			ジメトモルフ	0.01	50	
ブロッコリー	中国	ジフェノコナゾール	0.01	2		
ブロッコリー	中国	ジフェノコナゾール	0.01	2		
			ピラクロストロビン	0.01	5	
6月収去	オレンジ	アメリカ	アゾキシストロビン	0.66	10	
			アゾキシストロビン	0.03	10	
			アゾキシストロビン	0.58	10	
			アゾキシストロビン	0.64	10	
			アゾキシストロビン	0.63	10	
			アゾキシストロビン	0.63	10	
	グレープフルーツ	トルコ	オルトフェニルフェノール	0.65	10	
			ピリダベン	0.07	1	
			ピリプロキシフェン	0.01	2	
			ピリメタニル	0.61	10	
				マラチオン	0.11	7
	バナナ	メキシコ	アゾキシストロビン	0.05	3	
	バナナ	フィリピン	クロルピリホス	0.03	2	
	パプリカ	韓国	ジノテフラン	0.25	3	
レモン	アメリカ	アゾキシストロビン	0.56	10		
		ピリメタニル	0.22	10		
		プロピコナゾール	1.02	8		
8月収去	オレンジ	オーストラリア	ピリメタニル	0.01	10	
			イミダクロプリド	0.01	0.7	
			ピリメタニル	0.75	10	
	オレンジ	オーストラリア	イミダクロプリド	0.02	0.7	
			ピリメタニル	1.40	10	
	グレープフルーツ	南アフリカ	ピラクロストロビン	0.04	2	
			メトキシフェノジド	0.01	3	
	グレープフルーツ	南アフリカ	ピラクロストロビン	0.03	2	
			メトキシフェノジド	0.02	3	
	グレープフルーツ	南アフリカ	ピラクロストロビン	0.05	2	
			マラチオン	0.02	7	
			メトキシフェノジド	0.03	3	
	グレープフルーツ	南アフリカ	ピラクロストロビン	0.05	2	
			メトキシフェノジド	0.02	3	
バナナ	インドネシア	アゾキシストロビン	2.09	3		
バナナ	フィリピン	ピフェントリン	0.01	0.1		
バナナ	フィリピン	クロルピリホス	0.14	2		
		ボスカリド	0.04	0.6		
		アゾキシストロビン	1.85	10		
12月収去	さやいんげん	タイ	イミダクロプリド	0.02	3	
	バナナ	フィリピン	クロルピリホス	0.02	2	
	バナナ	ベトナム	アゾキシストロビン	0.02	3	
1月収去	えだまめ	中国	シハロトリン	0.02	1.0	
			アセタミプリド	0.02	3	
	えだまめ	タイ	シハロトリン	0.03	1.0	
			シベルメトリン	0.17	2	
			シハロトリン	0.01	1.0	
	さやえんどう	中国	テブコナゾール	0.01	3	
	ほうれんそう	中国	アゾキシストロビン	0.01	30	
			ジノテフラン	0.05	15	
	チンゲンサイ	中国	アゾキシストロビン	0.01	40	
			イミダクロプリド	0.02	5	
			シベルメトリン	0.11	5	
	ブロッコリー	グアテマラ	アゾキシストロビン	0.04	5	
			インドキサカルブ	0.02	0.2	
			シベルメトリン	0.05	1	
			ジフェノコナゾール	0.04	2	
			ピラクロストロビン	0.08	5	
ブロッコリー	中国	ボスカリド	0.14	5		
		イミダクロプリド	0.06	5		
烏龍茶	中国	イミダクロプリド	0.02	10		
		チアクロプリド	0.03	25		
		チアメトキサム	0.02	20		
		ピラクロストロビン	0.04	25		

表 6.3 輸入農産物から検出された農薬 (2)

実施月	食品	産地	農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
1 月収去	烏龍茶	中国	イミダクロプリド	0.01	10
			チアクロプリド	0.01	25
			チアメトキサム	0.02	20
			ピラクロストロピン	0.03	25
	烏龍茶	中国	イミダクロプリド	0.01	10
			チアメトキサム	0.03	20
			ピラクロストロピン	0.02	25
	烏龍茶	中国	イミダクロプリド	0.02	10
			チアメトキサム	0.01	20
ピラクロストロピン			0.02	25	
2 月収去	えだまめ	中国	アセタミプリド	0.14	3
			テブコナゾール	0.23	3
			ピラクロストロピン	0.56	0.5
	かぼちゃ	メキシコ	イミダクロプリド	0.01	1
	かぼちゃ	メキシコ	イミダクロプリド	0.01	1
	ぶどう	ペルー	イミダクロプリド	0.03	3
			ジフェノコナゾール	0.06	4
	ぶどう	ペルー	ジフェノコナゾール	0.06	4
			ボスカリド	0.35	10
	グレープフルーツ	チリ	アゾキシストロピン	0.52	10
	バナナ	カンボジア	アゾキシストロピン	0.19	3
	バナナ	ベトナム	アゾキシストロピン	0.01	3
	レモン	アメリカ	アゾキシストロピン	0.80	10
ピリメタニル			1.97	10	

(4) 魚介類

魚介類 18 検体についてテトラサイクリン系抗生物質 4 項目および合成抗菌剤 30 項目の分析を行った結果、サーモン 1 検体からオキシテトラサイクリンが 0.02 ppm で検出された。その他の 17 検体については全て定量下限 (オキシテトラサイクリン、テトラサイクリン: 0.02 ppm、クロルテトラサイクリン: 0.03 ppm、ドキシサイクリン: 0.01 ppm、他: 0.01 ppm) 未満であった。養殖魚介類 14 検体について動物用医薬品 24 項目の分析を行った結果、養殖カンパチ 1 検体および養殖ヒラメ 2 検体についてオキシテトラサイクリンがいずれも 0.03 ppm で検出された。その他 11 検体については定量下限 (オキシテトラサイクリン及びテトラサイクリン: 0.02 ppm、クロルテトラサイクリン: 0.03 ppm、他: 0.01 ppm) 未満であった。(主担: 畜水産物 G)

4) 自然毒の検査

(1) 木の实・輸入豆・穀類等加工品 (アフラトキシン)

18 検体について検査を実施した結果、全て定量下限 (アフラトキシン B1、B2、G1、G2 各 0.25 µg/kg) 未満であった。(主担: 農産物 G)

(2) 生乳 (アフラトキシン M1)

2 検体について検査を実施した結果、全て定量下限 (0.01 µg/kg) 未満であった。

(3) りんごジュース (パツリン)

20 検体について検査を実施した結果、11 検体については 0.0005 ~ 0.0022 ppm で検出された。その他 9 検体については定量下限 (0.0005 ppm) 未満であった。(主担: 農産物 G)

(4) 貝類 (麻痺性貝毒・下痢性貝毒)

二枚貝 5 検体について麻痺性貝毒および下痢性貝毒を検査した結果、全て規制値 (麻痺性貝毒 4 MU/g; 下痢性貝毒 0.16 mg オカダ酸当量/kg) 未満であった。(主担: 畜水産物 G)

5) 食品添加物 (防かび剤) の検査

(1) バナナ

10 検体について検査を実施した結果、全て定量下限 (イマザリル、チアベンダゾール各 0.00001 g/kg) 未満であった。(主担: 農産物 G)

(2) キウイ

4 検体について検査を実施した結果、全て定量下限 (フルジオキシニル 0.00001 g/kg) 未満であった。(主担: 農産物 G)

(3) 輸入かんきつ類

19 検体について検査を実施した結果、アゾキシストロピンは 6 検体から 0.00067 ~ 0.00107 g/kg の濃度で検出された。イマザリルは 18 検体から 0.00056 ~ 0.00233 g/kg の濃度で検出された。チアベンダゾールは 18 検体から 0.00027 ~ 0.00357 g/kg の濃度で

検出された。ピリメタニルは11検体から0.00001～0.00189 g/kgの濃度で検出された。フルジオキソニルは10検体から0.00048～0.00144 g/kgの濃度で検出された。以上の5項目について、残りの検体は全て定量下限(0.00001 g/kg)未満であった。オルトフェニルフェノール、ピフェニル、及びプロピコナゾールは全ての検体で定量下限(0.00001 g/kg)未満であった。(主担：農産物G)

6) 放射性物質の検査

輸入魚介類3検体、輸入加工食品3検体、乳児用食品等5検体、牛乳等7検体、調製粉乳3検体、調製液状乳2検体、飲料水3検体について、ゲルマニウム半導体検出器による放射性物質(セシウム134、137)の測定を行った結果、基準値を超過したものはなかった。(主担：畜水産物G)

7) その他の定性・定量

(1) 乳、調製粉乳

牛乳等21検体、調製粉乳9検体について、成分規格検査を実施した結果、全て規格に適合していた。(主担：畜水産物G)

(2) 即席めん

即席めん類4検体について酸価・過酸化価の検査を行った結果、全て規格基準に適合していた。(主担：畜水産物G)

(3) 魚介類

魚介類20検体についてトリブチルスズ(TBT)及びトリフェニルスズ(TPT)の残留分析を行った結果、魚5検体からTPT(塩化トリフェニルスズとして)が検出された。内訳は、さばから0.09 ppm、さわらから0.05 ppm、かんぱちから0.03 ppm、つばすから0.03 ppm、ひらめから0.02 ppmで検出された。その他は全て定量下限(0.02 ppm)未満であった。(主担：畜水産物G)

(4) 魚介加工品

魚介類18検体についてヒスタミンの検査を行った結果、明太いわしつくだ煮から15 µg/g、まぐろ味付フレークから16 µg/gで検出された。その他の16検体は全て定量下限値(10 µg/g)未満であった。また、かまぼこ等の魚介加工品(36検体)をスクリーニング検査した結果、かつお油漬けから27 ppmで検出された。その他の35検体は全て定量下限(20 ppm)未満であった。(主

担：畜水産物G)

8) 確認検査

確認検査は、他の都道府県等で不良品と認められた食品や、保健所などの予備試験で陽性(残留基準違反など)とされた検体を対象に、必要に応じて検査を行うものである。今年度は実施しなかった。

9) 苦情食品の検査

府民の不安解消や食品衛生行政の支援のため、必要に応じて苦情食品の検査を行っている。

9月に、家庭内で調理したふぐの喫食による食中毒事案が発生し、テトロドトキシンの分析を行った。調理済みふぐ残品から0.4 µg/gで、患者尿から0.08 µg/mLで検出された。患者血清3検体からは検出されなかった。また12月に、家庭内で調理したふぐ鍋等の喫食による食中毒が疑われる事案が発生し、テトロドトキシンの分析を行ったところ、調理済みふぐ残品3検体(ふぐ皮、ふぐ雑炊及びふぐ鍋)、患者血清6検体及び患者尿1検体からは検出されなかった。1月には、ヤイトハタと思われる魚切り身の喫食によるパリトキシン様物質が疑われる食中毒事案が発生し、パリトキシンを測定した。魚切り身1検体、患者血清6検体及び患者尿5検体からパリトキシンは検出されなかった。(主担：畜水産物G)

10) 依頼検査

(1) 教育委員会から依頼された検査

大阪市教育委員会からの依頼検査として、農産物11検体について残留農薬(1検体につき210項目)を分析した結果、全ての検体は学校給食の規格基準に適合していた。(主担：農産物G)

食肉6検体について残留動物用医薬品10項目、食肉3検体について有機塩素系農薬類6項目、油脂含有食品2検体について酸価・過酸化価を分析した結果、全ての学校給食の規格基準に適合していた。また、魚介加工品10検体についてヒスタミンを検査した結果、さごしから25 ppmのヒスタミンを検出した。その他の9検体は全て定量下限(20 ppm)未満であった。全ての検体は学校給食の規格基準に適合していた。(主担：畜水産物G)

(2) 中核市等から依頼された検査

中核市等からの依頼検査を表6.4にまとめた。

表 6.4 依頼による検査

依頼者	検査対象品	検査項目		検体数
東大阪市	国産農産物	残留農薬		6
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	5
	鶏卵		駆虫剤	1
高槻市	国産農産物	残留農薬		2
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	2
	輸入農産物	自然毒	アフラトキシン	1
	鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	3
	鶏卵	PCB		1
	飲料水	放射性物質	放射性セシウム	2
寝屋川市	輸入農産物	自然毒	アフラトキシン	1
	リンゴジュース		パツリン	1
	国産・輸入農産物、牛乳、食肉	残留農薬	残留農薬	10
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	2
	牛乳	その他定性・定量	規格	2
	牛乳、鶏卵	PCB		2
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	6
	鶏卵		駆虫剤	1
	魚介加工品	その他定性・定量	ヒスタミン	1
吹田市	輸入農産物	自然毒	アフラトキシン	2
	リンゴジュース		パツリン	1
	国産・輸入農産物、牛乳、食肉	残留農薬	残留農薬	14
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	2
	牛乳	その他定性・定量	規格	2
	牛乳、鶏卵	PCB		2
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	5
	鶏卵		駆虫剤	1
	魚介加工品	その他定性・定量	ヒスタミン	1
八尾市	輸入農産物	自然毒	アフラトキシン	2
	リンゴジュース		パツリン	1
	国産・輸入農産物、牛乳、食肉	残留農薬	残留農薬	18
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	2
	牛乳	その他定性・定量	規格	2
	牛乳、鶏卵	PCB		2
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	6
	鶏卵		駆虫剤	1
	魚介加工品	その他定性・定量	ヒスタミン	1
豊中市	国産・輸入農産物、牛乳	残留農薬	残留農薬	10
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	1
	牛乳	その他定性・定量	規格	1
	牛乳	PCB		1
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	5
枚方市	リンゴジュース	自然毒	パツリン	1
	国産・輸入農産物、牛乳	残留農薬	残留農薬	11
	輸入果実類	食品添加物	防かび剤	1
	牛乳	その他定性・定量	規格	2
	牛乳、鶏卵	PCB		2
	牛乳、鶏卵、食肉	動物用医薬品	合成抗菌剤	5
	鶏卵		駆虫剤	1
	国産農産物、飲料水	放射性物質	放射性セシウム	3
池田市教育委員会	その他の食品	放射性物質	放射性セシウム	3
河南町	その他の食品	放射性物質	放射性セシウム	1

11) 大阪・関西万博に係る会場内収去食品の検査

魚介加工品5検体についてヒスタミン検査を行った結果、佃煮より70 ppmが検出された。その他の4検体は定量下限(20 ppm)未満であった。(主担:畜水産物G)りんごジュース1検体についてパツリンの検査を実施した結果、0.0013 ppmで検出された。(主担:農産物G)

2. 調査研究

1) 食品に含まれる健康危害物質に関する衛生学的研究

(1) 食中毒(苦情)等の原因究明に関する研究

動物性および植物性自然毒による食中毒等の原因物質を究明するための分析法の検討を行い、今年度発生したふぐの食中毒疑い事例に適用した。パリトキシン食中毒に対応するための検討を実施した。(主担:山口瑞)

食品中の生理活性アミン類に関する研究では、魚介類のヒスタミン分析法について精製法の簡便化を目的に検討を実施した。(主担:粟津)

分析機器更新に伴い、ブドウ球菌エンテロトキシンの分析条件および指標ペプチドの再検討を実施した。(主担:吉光、清田)

山羊乳、羊乳に対するアフラトキシン類検査法の適用性を確認した。過去にかび毒汚染が確認された食品を調査したところ、同程度の汚染濃度であった。(主担:吉光)

(2) 食品に含まれる化学物質に関する研究

APGC-四重極質量分析計を用いて検量線の検討と分析カラムを変えた際の分析条件の検討を実施したところ、APGCで著しく強いマトリックス効果が認められたため、前処理時の希釈倍率の検討が必要となった。また分析時間の短縮を目的として分析カラムを変更した際の分析条件を決定した。(主担:永吉)

飲料水をはじめとしたPFAS分析法の検討に向けて新規LC-MS/MSを導入し、分析条件の決定及び器材や試薬からのコンタミチェックを実施した。(主担:永吉、柿本葉、寺谷)

2) 食品中の残留農薬等に関する研究

(1) 食品中の残留農薬に関する研究

蜂蜜を対象にした高極性農薬であるグリホサート、グルホシネートの分析方法を検討した。蜂蜜については、マトリックスマッチド検量線により良好な回収率が得られたため、妥当性確認を実施した。また、全自動固相抽出装置を用いたところ、同等の性能が得られることが確認できた(主担:宮本、中村、北口)。

LC-QTOFMSを利用して分析条件を検討したところ、マトリックス効果が確認できた。また、10年以内に販売された農薬を20種類程度追加した分析条件で検討したところ、マトリックス効果を低減させる条件を確立した。(主担:中村)

水素をキャリアガスとした場合、ヘリウムと比較して感度が1/2~1/5に低下するが、感度に対応した試料液の調製をすることで、代替ガスとして水素は適用可能であった。(主担:宮本)

GC-質量分析での大気圧イオン化法を検討したところ、現検査法と同等の性能であった。今後、本手法の残留農薬および防かび剤検査への導入を検討する。(主担:上野)

果実飲料を対象とした抗菌性物質(オキシテトラサイクリンやオキシソリニック酸等)の分析法を検討した。バラ科植物の果実に農薬として散布されている抗生物質オキシテトラサイクリン分析法を開発できた。また、この抗生物質分析法をカビ毒パツリンの分析に応用したところ、真度・精度よく検出可能であることが見出された。得られた知見を活用し、果実飲料を対象とした抗菌性物質(オキシソリニック酸等)やカビ毒(パツリン等)の分析法をさらに検討する。(主担:平田)

ジビエを対象とした残留農薬(殺菌剤チアベンダゾール等)の分析法を検討した。検討の結果、除タンパク抽出を活用することでチアベンダゾールおよび代謝物について分析可能となった。ジビエを対象とした残留農薬検査に活用可能である。得られた知見を活用し、ジビエを対象とした農薬等の分析法をさらに検討する。(主担:平田)

バナナ等の10種類の青果物に適用可能な、32種類のトリアゾール系抗菌性物質に対する一斉分析法を構築した。今後、本法を用いた青果物の残留実態調査を行う。(主担:武内)

11 種類の食品に適用可能な、9 種類の防かび剤改良検査法を構築した。現在よりも広範囲の食品および防かび剤の監視が可能となると考えられた。(主担：吉光)

(2) 食品中の動物用医薬品等に関する研究

既存の畜水産物中の残留動物用医薬品残留分析法について、分析対象物質を追加するための検討を実施した。テトラサイクリン系抗生物質分析法を一部改良し、リンコマイシン、チアンフェニコールを追加し、妥当性評価ガイドラインに従った試験を行い評価したところ、良好な結果が得られ、分析法の適用範囲(対象物質)を広げることができた。これによりテトラサイクリン系抗生物質の分析法について、迅速化と検査対象範囲の拡張が可能となった。過去に牛乳で基準値を超過したサルファ剤について、加工食品のヨーグルトを対象に、分析法が適用できるか検証したところ、分析可能であることが示唆された。(主担：福井、上村、永吉、山口瑞、粟津、松井、平田)

微生物学的試験法における抗菌性陽性試料 1 個体 2 件について、理化学分析法による同定・定量を実施した。同定・定量結果は過去の抗菌性陽性試料の感受性パターンや抗菌活性の高さとよく一致しており、高い相関性がみられた。(主担：上村)

サルファ剤について、牛乳を対象に標準物質を必要としない網羅的検出法を検討したところ、鶏卵同様に適用可能であった。また、機械学習の使用により検出率が向上した。(主担：松井)

3) 食品の安全性、機能性および品質に関する研究

(1) アレルゲンに関する研究

食物アレルゲン混入防止に関する研究では、小麦や大豆等の粉体アレルゲンの飛散実態について知見を収集した。粉体アレルゲンの飛散距離は分散性と相関しており、距離の予測が可能であることが示唆された。(主担：吉光、清田)

(2) 食品の安全性、機能性、品質等に関する研究

ガンマ線照射した赤唐辛子およびクミンを対象に、ジヒドロチミジン法と公定法の熱ルミネッセンス法による照射履歴の検知性能を比較した。どちらも、それぞれの検知法の検知指標の間には、高い正の相関関係が確認され信頼性の高い検知法であることが示された。果実類(バナナ、柑橘等)の検知に必要なと想定される量の DNA

を抽出する手順を確立した。従来の手順では DNA 収量が不足していた果実類において、乾燥後の微細化処理等により収量が改善し、十分量の DNA を確保できるようになった。(主担：福井、藤原、高取)

3. 講演、委員会、研修等

1) 委員会等

令和 7 年度 医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 生物試験法委員会委員 (山口進)

令和 7 年度 日本薬学会代議員 (山口進)

令和 7 年度 東京農業大学総合研究所 食・農データサイエンス部会運営幹事 (平田)

令和 7 年度 食品衛生学雑誌編集委員会 (日本食品衛生学会) (吉光)

令和 7 年度 薬学会環境・衛生部会食品汚染物試験法専門委員 (日本薬学会) (吉光)

2) 講演

R7. 10. 16 日本食品衛生学会第 121 回学術講演会 ランチョンセミナー講演 (平田)

R7. 11. 7 東京農業大学総合研究所 食・農データサイエンス部会 第 5 回シンポジウム 招待講演 (平田)

R7. 11. 14 令和 7 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部長表彰記念講演～DNA 損傷ヌクレオシドを指標に、食品への放射線照射履歴を検知する～ (福井)

医薬品課

府内に流通している医薬品、医薬部外品、化粧品および医療機器の有効性や安全性を確保するため、製造販売承認書等に基づく検査を行った。また、健康被害の発生を未然に防ぐため、医薬品等が配合された可能性がある健康食品や危険ドラッグについて検査を行った。さらに、製造販売承認の権限が大阪府知事に委任されている医薬品および医薬部外品（33 薬効群）について、提出された試験方法に基づく製品試験を行った。加えて、厚生労働省の委託により、学術的な問題が指摘されている後発医薬品の溶出性に係る品質試験を実施した。さらに、大阪府の条例に基づき、薬物指定審査会に諮問する候補物質の調査、合成、活性評価等を行った。

研究業務では通常研究として、「医薬品等の品質確保及び健康被害防止に関する研究」および「危険ドラッグに関する研究」を実施した。

1. 試験検査

「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準（GMP：Good Manufacturing Practice）」対象品目の試験検査を行うため、厚生労働省の通知「GMP 調査要領の制定について」に基づく公的試験検査機関の認定査察を令和 8 年 2 月 12 日に受検した。今年度実施した GMP 対象品目を含む試験検査の概要を表 7.1 に示す。

1) 医薬品等の収去試験

(1) 大阪府の一斉収去

大阪府による医薬品、医薬部外品、化粧品及び医療機器の一斉収去では、使用頻度が高い品目等を検査対象とした。今年度、収去検査を実施した各製品の品質に特に問題は認められなかった。

(2) 厚生労働省の一斉監視指導（後発医薬品品質確保対策事業）

表 7.1 医薬品等の試験実施品目数・項目数

	試験品目数					試験項目数						
	総品目数	大阪府依頼品目数	大阪市依頼品目数	奈良県依頼品目数	厚労省依頼品目数	総項目数	定性試験			定量試験		
							簡単なもの	複雑なもの	極複雑なもの	簡単なもの	複雑なもの	極複雑なもの
総数	352	325	6	5	16	1803	9	18	1299	195	13	269
医薬品	50	29		5	16	252		2	12		13	225
医薬部外品	239	239				246		16	21	195		14
化粧品	35	35				446			420			26
医療機器	5	5				9	9					
無承認無許可医薬品 (健康食品)	21	15	6			844			842			2
危険ドラッグ	2	2				6			4			2

表 7.2 無承認無許可医薬品（健康食品）の買い上げ調査の対象成分

強壯効果を暗示するもの	スクリーニング対象の 40 成分 （シルденаフィル、ホモシルденаフィル、ヒドロキシホモシルденаフィル、メチソシルденаフィル、ウденаフィル、チオденаフィル、ホモチオденаフィル、ヒドロキシチオホモシルденаフィル、チオアイルденаフィル、タダラフィル、アミノタダラフィル、ホモタダラフィル、クロロプレタダラフィル、バルденаフィル、プソイドバルденаフィル、イミダゾサガトリアジノン、ホンденаフィル、ノルホンденаフィル、ゲンденаフィル、カルボденаフィル、アセチルアシッド、キサントアントラフィル、ヨヒンビン、イカリイン、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、マジンドール、シブトラミン、フェノールフタレイン、ピサコジル、グリベンクラミド、グリクラジド、トルブタミド、トラザミド、アセトヘキサミド、クロルプロパミド、スピロラクトン、フロセミド、ヒドロクロロチアジド、フルオキセチン）
ダイエット効果を暗示するもの	

厚生労働省が行う後発医薬品品質確保対策事業に参加し、令和7年度の一斉監視指導品目について試験を行った。当該事業では、後発医薬品の品質を確認するための製品検査を実施する。今年度医薬品課では、アトルバスタチンカルシウム水和物製剤（16品目）について、承認書に規定された試験方法に基づき溶出試験を行った。検査を実施した各製剤の溶出性に係る品質に問題は認められなかった。

(3) 奈良県の収去

令和7年度より奈良県が収去した医薬品の検査を実施した。奈良県による医薬品の収去ではアスコルビン酸、リボフラビンを含有する製剤及びアセトアミノフェン、無水カフェインを含有する製剤を検査対象とした。今年度、収去検査を実施した各製品の品質に特に問題は認められなかった。

2) 無承認無許可医薬品（健康食品）の検査

平成15年度から無承認無許可医薬品による健康被害の発生および拡大防止を目的として、医薬品等が配合された可能性がある健康食品の検査を実施している。今年度は大阪府健康医療部および大阪市健康局の依頼により、強壮・強精効果（16製品）及びダイエット効果（5製品）を暗示する21品目について、表7.2に示す医薬品成分を対象とした試験検査を実施した。検査を実施した各製品から医薬品成分は検出されなかった。

3) 危険ドラッグの買い上げ検査

平成23年度から大阪府健康医療部の依頼により、危険ドラッグの乱用防止を目的として買い上げ検査を実施している。今年度は試買した2製品を対象とし、指定薬物およびその類似体含有の有無について調査を実施した。その結果、2製品から指定薬物類似体を検出した。

表 7.3 知事承認申請に伴う試験検査

	医薬品	医薬部外品	合計
試験品目数	9	234	243
試験項目数	9	234	243

4) 大阪府知事への承認申請に伴う製品試験

平成29年度から大阪府知事に製造販売承認申請が行われた一般用の医薬品および医薬部外品について、提出された規格および試験法に基づく製品試験を実施している。今年度、大阪府知事に申請が行われた医薬品および医薬部外品の製品試験の結果は、概ね良好であった。試験を実施した項目数等を表7.3に示す。

5) 経口固形製剤の溶出挙動等の確認（後発医薬品品質情報提供等推進事業）

厚生労働省の委託により、全国9都府県（東京都、埼玉県、神奈川県、静岡県、富山県、愛知県、京都府、兵庫県および福岡県）と共に後発医薬品品質情報提供等推進事業に参加した。当該事業では、学術的に課題となる後発医薬品の品質に関する試験検査を実施する。今年度はエゼチミブ錠（9製品）について、4液性（水、pH1.2、pH4.0 および pH6.8）による溶出挙動の確認を行った。

6) 大阪府の条例に基づく知事指定薬物の調査

大阪府では「大阪府薬物の濫用の防止に関する条例」（平成24年12月1日施行）を制定し、知事指定薬物を選定している。当該薬物は後に国の指定薬物となり、

表 7.4 調査を行った大阪府知事指定薬物

1	1T-AL-LAD
2	1Bz-LSD
3	4-PrO-DMT
4	1SB-LSD

全国で規制を受けることになる。医薬品課では今年度も大阪府健康医療部薬務課および東京都健康安全研究センターと連携し、大阪府薬物指定審査会に諮問する候補物質の調査、選定、合成、化学的性質の確認および活性評価を行った。医薬品課の調査により今年度、大阪府知事指定薬物に指定された化合物を表 7.4 に示す。

2. 調査研究

1) 医薬品等の品質確保及び健康被害防止に関する研究

(1) 医薬品等の品質確保に関する研究

①止瀉、整腸等に用いられる生薬ゲンノショウコの指標成分（ゲラニイン）について既報を参考に分析法バリデーションを実施し、液体クロマトグラフィーによる定量法を確立した。確立した方法を用い、市場品に含まれるゲラニイン含量を明らかにした。（主担：田上）

(2) 無承認無許可医薬品による健康被害防止に関する研究

①流通検体を対象として検査項目外薬物の探索・同定を実施した。（主担：土井、浅田、東、田中、阪井、坂本）

2) 危険ドラッグに関する研究

(1) 新規乱用薬物の分析・合成に関する研究

①買い上げ試験の結果、国内販売サイトから入手した紙試料より未知ピークが検出された。合成した標準品との比較から、新規の LSD 類似化合物であることが明らかとなった。（主担：土井、浅田、東、田中、阪井、坂本）

②これまでに確立した合成法を応用し、LSD 系の薬物 3 物質、カンナビノイド系薬物を 6 物質合成した。（主担：土井、浅田、東）

③これまでに合成した新規乱用薬物・合成中間体およびその不純物等のうち、10 物質を対象として単結晶 X

線構造解析を行い、その分子の立体構造を特定した。（主担：土井、阪井）

(2) 新規乱用薬物の生体影響・代謝に関する研究

①海外で流通している新規乱用薬物（5 物質）について、委託試験（Aequorin を用いたカルシウムアッセイ、および $[^{35}\text{S}]\text{GTP } \gamma \text{ S}$ 結合試験）を実施した。（主担：浅田、土井）

②5 種類の LSD 類似化合物を対象に、ヒト肝ミクロソーム画分を用いた *in vitro* 代謝実験を実施し、2 化合物について代謝経路の推定を行った。（主担：東）

3. 研修・講演・委員会等

1) 相談業務

行政機関、地方衛生研究所、医薬品製造販売業者等から試験検査に対する問い合わせ 23 件に対応した（表 7.5）。

2) 委員会等

令和 7 年度 大阪府薬物指定審査会（東京都、大阪府、4 回）（田上、土井、浅田、東、田中、阪井、坂本）

令和 7 年度 日局原案検討委員会製剤 WG 会議（医薬品医療機器総合機構、3 回）（川口）

令和 7 年度 日局原案検討委員会化学薬品委員会（医薬品医療機器総合機構、4 回）（田上）

令和 7 年度 医薬部外品原料規格検討連絡会議（厚生労働省、3 回）（田上）

表 7.5 行政等からの相談業務

	相談件数
行政（大阪府、大阪市）	13
地方衛生研究所	4
医薬品製造販売業者	2
その他	4

令和 7 年度 医薬部外品原料規格ワーキンググループ会議（国立医薬品食品衛生研究所、4 回）（田上）

令和 7 年度 ジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会（国立医薬品食品衛生研究所、2 回）（田上）

令和 7 年度 ジェネリック医薬品・バイオシミラー品質

情報検討会製剤試験WGに係る打合せ会議（国立医薬品食品衛生研究所）（中村）

令和7年度 大阪府麻薬覚醒剤等対策本部取締対策部会
（大阪府）（田上）

令和7年度 第62回全国薬事指導協議会総会（佐賀県）
（田上、中村）

生活環境課

生活環境課では、府民が健康で安全な生活を送るために必要な環境関連の試験検査、調査分析および調査研究を行っている。上水関連の試験検査においては、水道水中の基準項目に加え、農薬類、ダイオキシン類、有機フッ素化合物類(PFAS)等の化学物質、水系感染症の原因となるクリプトスポリジウム等の病原微生物を中心に実施した。家庭用品検査は、市販繊維製品中のホルムアルデヒド試験の他、家庭用・住宅用洗剤や特定芳香族アミン等を対象として実施した。環境放射能・放射線に関しては、大阪府内の環境・食品中の放射線量や放射性物質について、原子力規制庁からの委託により調査分析を実施した。水道水質検査における信頼性確保については、環境省が実施する「令和7年度水道水質検査精度管理のための統一試料調査」に参加し、精度管理に努めた。また、大阪府健康医療部生活衛生室環境衛生課と共同し、府内の水道事業者、保健所等の水質検査機関における検査精度向上を図る目的で「令和7年度大阪府水道水質検査外部精度管理」を実施した。令和7年度に水質、生活用品および放射線等に関連して実施した試験検査等について、件数を表8.1に、項目数を表8.2に示した。

1. 試験検査等

1) 水質検査

(1) 理化学検査

水道水および水道原水等を対象とした基準項目検査(全51項目:2件)、農薬類検査(10件)、ダイオキシン類検査(15件)、有機フッ素化合物検査(143件)、NDMA検査(4件)およびミクロキスチン類(8件)を実施した。遊泳場水を対象としたトリハロメタン等検査(16件)、湧水(1件)および旅館水(16件)を対象とした平常項目等の検査を実施した(微生物検査を含む)。基準項目の検査については、基準値を超過した項目は存在しなかった。農薬類の検査については、対象農薬リスト掲載農薬類115種類を含む121種類の農薬類を検査対象としたが、すべての項目において目標値未満であった。ダイオキシン類の検査では水道原水で目標値の1 pg-TEQ/Lを超えるものはなく、浄水においてはすべて目標値の1/10未満であった。有機フッ素化合物については、一部の地下水や飲用水においては暫定目標値の超過がみられたが、多くの検体は暫定目標値未満であった。NDMAについては、いずれの検体も目標値の1/10未満であった。ミクロキスチン類については、いずれの検体も暫定目標値未満であった。総トリハロメタンはすべて

のプール水において基準値未満であった。一方、平常項目等の検査においては、一部の検体から一般細菌および色度の基準超過がみられた。(主担:上水G)

(2) 微生物検査

府内浄水場の水道原水および浄水中のクリプトスポリジウム・ジアルジアの検査(43件)を実施し、いずれの検体からもクリプトスポリジウムおよびジアルジアは検出されなかった。レジオネラ検査については、大阪府からの依頼で冷却塔水(49件)、中核市からの依頼で採暖槽水(2件)、民間からの依頼で遊泳場水(4件)、修景水(14件)を実施した。その結果、レジオネラ属菌が32件検出された。また、中核市からの依頼で遊泳場水(4件)、民間からの依頼で遊泳場水(33件)について5項目(一般細菌、大腸菌、pH、濁度、過マンガン酸カリウム消費量)の検査を実施した。いずれの検体も遊泳場水の水質基準に適合していた。(主担:環境微生物G)

(3) 放射性物質検査

府内1カ所の浄水場の水道原水および浄水について、放射性セシウムの検査(4件)を行ったが、いずれからもセシウム134およびセシウム137は検出されなかった。(主担:放射線G)

2) 水質汚濁防止法に関わる水質検査

表 8.1 試験検査件数

項目			依頼者	依頼によるもの				依頼によらないもの	計
				住民	保健所	行政機関	医療機関、学校、事業所等		
水道等 水質検査	水道原水	細菌学的検査							
		理化学的検査		1	44	1	22	68	
		生物学的検査			34	4		38	
	飲用水	細菌学的検査			22	1		23	
		理化学的検査		1	132	5	21	159	
	利用水等 (プール水含む)	細菌学的検査		6	65	37	49	157	
理化学的検査			4	16	33		53		
一般環境関係	一般廃棄物	細菌学的検査							
		理化学的検査							
	水質検査	公共用水域			2			2	
		工場・事業場排水							
		浄化槽放流水			40			40	
		その他			12			12	
	環境生物検査	藻類・プランクトン ・魚介類							
		その他							
一般室内環境									
その他					14		14		
家庭用品等	家庭用品			325			325		
	その他								
放射能	環境試料			2285			2285		
	食品			2			2		
	その他			31			31		
温泉（鉱泉）泉質検査				15			15		
その他									
合計				12	3025	95	92	3224	

府内指定地域特定施設放流水等の水質検査を実施した（40件）。（主担：上水G）

3) 家庭用品検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づく家庭用品検査（府・市からの行政依頼検査）は、市販繊維製品中のホルムアルデヒド試験の他、家庭用および住宅用洗剤など計180件、中核市からの依頼検査計145件に対して、検査項目数総計643項目を実施した。中核市から依頼を受けた乳幼児用繊維製品中のホルムアルデヒド試験で1件の基準値違反があった。これに関連した取去検査を実施した結果、8件中1件の基準値違反が認められた。（主担：家庭用品G）

4) 調査等

(1) 温泉資源保護調査

大阪府温泉保護に係る調査実施要領に基づく府内温泉成分水質調査を実施した（15件）。（主担：上水G）

(2) 特定建築物冷却塔水質調査

特定建築物における冷却塔維持管理状況調査実施要領に基づく府内特定建築物冷却塔水質調査を実施した（49件）。レジオネラ属菌や従属栄養細菌、その他関連する水質項目について調査した。（主担：環境微生物G）

(3) 環境・食品中の放射線量・放射性物質の調査分析

原子力規制庁からの委託により大阪府内の環境および食品試料中の放射能および空間放射線量率調査を実施した。降水の全ベータ放射能測定69件、環境および食品

表 8.2 環境水質関連試験検査項目数

項目	種別	水道原水	飲用水	利用水等	温泉 (鉱泉)	下水 排水	公共用水	その他	合計
一般細菌			18	53				1	72
大腸菌群・大腸菌			18	53		40		2	113
レジオネラ菌				55				14	69
その他の細菌				49					49
クリプトスポリジウム等		38	5						43
その他の生物				49					49
変異原性試験									
内分泌攪乱物質活性試験									
カドミウム			2						2
クロム			2						2
水銀			2						2
セレン			2						2
鉛			2						2
ヒ素			2						2
亜鉛			2						2
アルミニウム			2						2
鉄			18		15			1	34
銅			2						2
マンガン			18		15			1	34
その他の金属			2		15				17
塩化物イオン			18		15	73		1	107
硫酸イオン					15				15
シアン			2						2
フッ素			2		15				17
ホウ素			2		15				17
臭素酸			2						2
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素			20		15	73		1	109
アンモニア性窒素					15	40			55
総窒素						40		1	41
リン						40		1	41
残留塩素									
その他非金属物質			2		15				17
揮発性有機物質			12						12
1,4-ジオキサン			2						2
ダイオキシン類		6	9						15
農薬類		780	515						1295
トリハロメタン類			10	64					74
ハロ酢酸類			6						6
ホルムアルデヒド			2						2
陰イオン界面活性剤			2						2
非イオン界面活性剤			2						2
フェノール類			2						2
カビ臭物質			4						4
全有機ハロゲン化合物		22	21						43
その他の有機物質		569	1026				46	105	1746
有機物質 (TOC 等)		22	39	53				1	115
味			18						18
色度			18	49				1	68
臭気			18			40		1	59
蒸発残留物			2						2
濁度 (透視度)			18	102				1	121
pH 値			18	102	15	40		2	177
COD						40		1	41
BOD						80		1	81
浮遊物						40		1	41
酸度・アルカリ度					15				15
マグネシウム・カルシウム (硬度)			2		15				17
n-ヘキサン抽出物						36			36
ヨウ素消費量									
ラドン									
ベータ線測定								69	69
ガンマー線核種分析		3	3					29	35
空間放射線量率								2190	2190
その他					15			24	39
計		1440	1894	629	210	582	46	2449	7250

中のガンマ線核種分析31件および空間放射線量率測定2190件を行った。令和7年度における環境および各種食品中の放射能および放射線調査の結果、すべて過去の値と同程度であり、人工放射性物質の環境への新たな放出はないことを確認した。(主担：放射線G)

2. 調査研究

1) 水環境に関する衛生学的研究

(1) 水質中有害物質の分析法開発および実態把握

LC-QTOFMSを用いたスクリーニング分析法について、データベースを拡充するために未規制農薬を中心に19種の農薬の分析条件を検討し、16種の農薬類の分析条件を確立した。また、12種類の中性PFASについて水試料中を対象とした分析法を検討し、9種類の中性PFASの分析条件を確立した。(主担：吉田仁、高木、安達、小池、赤木、河相)

大阪府健康医療部生活衛生室環境衛生課の依頼により、水道原水・浄水中の微量汚染物質の現状を把握し、水道水の安全・安心の確保に資するために「大阪府水道水中微量有機物質調査」を引き続き実施した。令和7年度は、対象農薬リスト掲載農薬類の更新に関する検討により、水環境に検出する可能性が高いとされた農薬類を含む10農薬類について、府内の11浄水場を対象に実態調査を実施した。その結果、イミシアホス、オキサジアゾン、ピメトロジン、フェンキノトリオン、フェンキノトリオン代謝物、フルスルファミド、ペンフルフェンおよびメソトリオンが、それぞれ一部の浄水場の原水または浄水あるいは双方から検出された。(主担：吉田仁、小泉、赤木、大嶋、長谷川、河相)

ヘリウムによらないガスクロマトグラフ-質量分析計を用いた分析法を開発することを目的に、窒素キャリアガスを用いてフェノール類の告示法における妥当性評価を実施した。添加試料の評価ではフェノール類6種のうち5種が評価基準を満たしたが、検量線の評価では3種が評価基準を満たした。(主担：小泉、高木)

(2) 水道水質検査における定量精度に影響を及ぼす因子の解明

大阪府健康医療部生活衛生室環境衛生課の依頼により、今年度も引き続き大阪府内の水道事業体、保健所等の試験検査機関を対象とした水道水質検査外部精度管

理を実施した。今年度は「鉛及びその化合物」と「色度」を対象項目とした。「鉛及びその化合物」では、外れ値になった2機関を対象に原因を追究した。その結果、外れ値の要因として、標準液調製に使用したホールピペットの容量が小さかったことに加えて分析器具の汚染等が精度に影響を及ぼしていると考えられた。「色度」では、すべての参加機関が良好な分析精度を保っていた。(主担：吉田仁、長谷川、大嶋、安達、小泉)

建築物飲料水水質検査業者を対象として、「鉄及びその化合物」と「総トリハロメタン」の模擬試料の測定結果から、既存検査法の定量精度に影響を及ぼす因子を考察した。「鉄及びその化合物」について外れ値になった1機関を対象に原因を追究した結果、標準溶液と試料に含まれる硝酸濃度が異なっていたことが精度に影響を及ぼしていると考えられた。また、「総トリハロメタン」について外れ値になった2機関を対象に原因を追究した結果、1機関は対象物質とは異なった物質の検査法を用いたことによるものであり、他の1機関は、標準原液の保管条件により一部の物質を揮発させてしまったことによるものが一因であると考えられた。(主担：吉田仁、長谷川、大嶋、安達、小泉)

(3) 環境微生物の検出法および生息実態の解明に関する研究

水道水試料を対象に細菌叢解析を行った結果、一般細菌試験における主な検出菌種が優占していることが明らかとなった。水道水など細菌遺子量が少ない試料においては、抽出カラムの選定や再精製が細菌叢解析の結果に影響を与える可能性が示唆された。(主担：枝川、余野木、小池)

UKHSA(英国健康安全保障庁)が実施するレジオネラ外部精度管理に参加した地衛研55機関のデータ集計および解析を実施した。配付試料中のレジオネラについて、多くの参加機関で菌種同定はできたものの、血清群の特定には至らなかった。要因を精査した結果、手技や抗血清の品質に問題はなく、国内分離株を基に作製された抗血清が、海外由来株に対して十分な反応性を示さなかったことが一因として示唆された。(主担：枝川、小池)

クリプトスポリジウムおよびジアルジアについて、過去に顕微鏡法等で確認された河川水を複数の方法で遺子の濃縮精製を行い、検出を試みたところ、どの方法でも検出できなかった。本年度は、同時に行った顕微鏡法でも検出されておらず、当該原虫の濃度が低く検出でき

なかったものと考えられた。(主担：小池、肥塚)

2) 生活衛生に関する総合研究

(1) 生活環境中の有害物質の測定法及び健康影響に関する研究

防水加工された繊維製品に含まれる中性 PFAS について分析法の改良と実態調査を行った。その結果、一部の防水加工製品から中性 PFAS が ng/g のレベルで検出された。(主担：高木、吉田仁)

家庭用品規制法の規制対象となる防炎加工剤である APO については、開発した GC/MS 分析法で得られた試験液を LC-MS/MS 分析に適用する方法を確立した。また、家庭用洗剤のアルカリ量の中和滴定による定量において、消泡剤の使用及び逆滴定の有用性を検討した。(主担：大嶋)

大阪市健康局健康推進部生活衛生課の依頼により、昨年度対象としなかった有機スズ化合物を含む 8 種類の有機スズ化合物について繊維製品を対象に LC-MS/MS を用いた分析法を検討した。6 種類の有機スズ化合物について、LC の分離条件、プリカーサーイオン及びプロダクトイオンを決定し、検量線の妥当性評価を実施した。(主担：高木、味村、吉田俊)

Nanopore MinION シークエンサーを用いてヒトへの曝露源となりうる環境中の細菌群集構造を解析するにあたり、メーカーによりソフトウェアに加え試薬が一新されたことを踏まえ検証したところ、プロトコールの一部見直しが必要と考えられた。(主担：味村)

水中の PFOS 及び PFOA の分析法と留意点について」(高木)

R8. 2.27 令和 7 年度 第 2 回保健所検査課部門別業務研修(水質関連)「PFOS 及び PFOA の水質基準化と検査法について」(高木)

2) 委員会等

令和 7 年度 大阪府浄化槽行政連絡協議会(大阪府、1 回)(安達)

令和 7 年度 環境放射能水準調査に係る技術検討会(日本分析センター、1 回)(小泉、小池、肥塚)

令和 7 年度 水道における微生物問題検討会(環境省、1 回)(枝川)

熊取町大久保西地区地下水質汚染対策会議(大阪府、2 回)(高取、高木)

3) 研修の受講

R7.7.24 計量管理講習会(日本環境測定分析協会)

R8.1.21-23 環境放射能分析研修 環境放射線モニタリングにおける被ばく線量評価法(日本分析センター)

R8.1.22 モニタリング技術に関する基礎的な講座(大阪府熊取オフサイトセンター)

R8.1.29 計測の基礎(日本電気計器検定所 本社)

3. 講演、委員会、研修等

1) 講演等

R7. 9. 1 令和 7 年度府内水道行政機関連絡会議「水道水質における PFAS 問題－規制強化とこれからのついて－」(高木)

R7.10. 2 令和 7 年度家庭用品安全対策主管部局連絡会議「家庭用品に関する最近の話題」(味村)

R7.11.26 令和 7 年度微生物汚染と対策に関する基礎講座に関するシンポジウム「水道水の衛生微生物管理(ハイスループットシーケンシングによる配水システムにおける細菌群集構造解析)」(小泉)

R8. 1.28 令和 7 年度岩手県水道水質管理協議会「水道

地研関連事業

地 研 関 連 事 業

1) 感染症発生動向調査事業

大阪府から委託を受け、感染症発生動向調査事業の一環として、感染症情報センター事務、感染症流行予測調査事業、およびそれらに伴う病原体検査を実施している。大阪府感染症情報センターは大阪府の基幹地方感染症情報センターと位置付けられ、大阪府と政令指定都市の大阪市・堺市及び中核市の東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市・吹田市の協力のもと実施している。大阪府内の医療機関や指定届出機関（定点）から収集された全数把握対象疾患と定点把握対象疾患の患者情報を取りまとめ、厚生労働省が収集し提供する全国情報とともに、毎週研究所で開催される大阪感染症情報解析委員会に報告した。2025年の指定届出機関（定点）数は、急性呼吸器感染症定点290・小児科定点185・眼科定点51・性感染症（STD）定点63及び基幹定点18(2025年12月時点)であった。これらのデータは府内の保健所、各市町村、定点にメールおよびfaxで還元するとともに、当所のホームページに掲載し、府民に広く提供した。また、定点把握対象疾患の病原体サーベイランスとして、府内の定点医療機関から依頼のあった3718検体について病原体検索を行い、結果を速やかに還元するように努めた。検査結果のまとめは、感染症発生動向調査事業報告書第44報2025年版に掲載される。（健康危機管理課）

2) 厚生労働省感染症流行予測調査事業

(1) 侵襲性肺炎球菌感染症

2014年度より大阪府内の医療機関で血液・脳脊髄液等から検出された肺炎球菌を収集し、血清型別を実施している。2025年度は、65歳以上由来65株、10～64歳由来23株、0～9歳由来60株を含む全148株（2024年度147株）について解析を行った。検出された血清型は23種類で、3型（22株、14.8%）、38型（20株、13.5%）、10A型（15株、10.1%）、24F型（13株、8.8%）、19A型（11株、7.4%）の順に多く検出された。（細菌課）

(2) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2014年度より大阪府内の医療機関で血液・脳脊髄液等から検出されたインフルエンザ菌を収集し、血清型別を実施している。2025年度は、65歳以上由来14株、10～64歳由来6株、0～9歳由来3株を含む全23株（2024年度29株）について解析を行った。検出された血清型は、b型（1株、4.3%）、f型（1株、4.3%）、型別不能型（21株、91.3%）であった。（細菌課）

(3) 麻しんウイルス感受性調査

0歳から65歳までの計198名を対象に麻しんウイルス抗体価を測定した。測定は酵素免疫法（EIA法）で行い、EIA価4以上を陽性と判定した。年齢群別抗体保有率は、0～1歳児55.0%（11/20）、2～3歳児100%（9/9）、4～9歳児96.4%（27/28）、10歳代74.1%（20/27）、20歳以上97.4%（111/114）であった。2～3歳児および4～9歳児の抗体保有率は95%以上と高く、麻しんワクチンの定期接種（第1期および第2期）が概ね適切に実施されていることが示唆された。一方、10歳代では抗体保有率が74.1%と他の年齢群と比較して低く、抗体価の減衰や接種歴のばらつきなどの影響が考えられた。麻しん排除状態を維持するためには高い集団免疫の維持が重要であるため、当該年齢層の抗体保有状況について今後も継続した監視が必要であると考えられた。（ウイルス課）

(4) 水痘ウイルス感受性調査

0歳から65歳までの計198名を対象に水痘ウイルス抗体価を測定した。測定は酵素免疫法（EIA法）で行い、EIA価4以上を陽性と判定した。年齢群別抗体保有率は、0～1歳児20.0%（4/20）、2～3歳児66.7%（6/9）、4～9歳児14.3%（4/28）、10歳代66.7%（18/27）、20歳以上100%（114/114）であった。水痘は2014年より定期接種化されているが、本調査では小児年齢群、特に4～9歳児において抗体保有率が低かった。一方、20歳以上では抗体保有率は100%であり、過去の自然感染などにより免疫を維持している者が多いことが示唆された。小児年齢群における抗体保有率の低さについては、ワクチン接種後の抗体価の減衰や調査対象者数の影

響なども考えられることから、今後も継続的に抗体保有状況を把握していくことが重要であると考えられた。(ウイルス課)

(5) ヒトパピローマウイルス感受性調査

20～65歳までの計114名を対象にヒトパピローマウイルス(HPV)抗体価を測定した。測定は酵素免疫法(EIA法)で行い、4IU/mL以上を陽性とした。抗体保有率は、21.1%(24/114)であった。抗体陽性者は全員HPVワクチンの接種歴を有していた。今後も抗体保有状況の推移を継続的に把握していくことが重要であると考えられた。(ウイルス課)

(6) B型肝炎ウイルス感受性調査

0歳から65歳までの計198名を対象にB型肝炎ウイルス抗体価(HBs抗体価)を測定した。測定は化学発光酵素免疫測定法(CLEIA法)で行い、10.0mIU/mL以上を陽性とした。年齢群別のHBs抗体保有率は、0～4歳児は97.3%(36/37)、5～9歳児は85.0%(17/20)、10～14歳は30.8%(4/13)、15～19歳は7.1%(1/14)、20歳以上は32.5%(37/114)であった。0～4歳児では抗体保有率が高く、2016年に開始された乳児期のB型肝炎ワクチン定期接種の効果が反映されていると考えられた。B型肝炎ウイルスの感染予防の観点から、今後もワクチン接種状況および抗体保有状況の推移を継続的に把握することが重要である。(ウイルス課)

(7) 新型コロナウイルス感染症

2025年第15週から2026年第14週までの52週間にわたり毎週1回、2か所の下水処理場から下水流入水を採水し、新型コロナウイルス遺伝子の検出を実施した。検出結果は国立感染症研究所感染症流行予測調査速報に報告した。新型コロナウイルス感染症は夏季・冬季の2回流行が観察されてきていたが、2025年度冬季は感染報告数、下水コピー数ともに流行ピークは観察されなかった。新型コロナウイルスの流行パターンの変化に注目したい。(ウイルス課)

3) 病原性微生物検出情報への協力

国立感染症研究所が月報として発行する病原微生物検出情報に参画し、細菌、ウイルス及び寄生虫検出情報を提供した。

4) 地方衛生研究所全国協議会等の活動

R7.6.5 地方衛生研究所全国協議会臨時総会

R7.7.29 全国地方衛生研究所 所長会

R7.9.11 指定都市衛生研究所長会議

R7.10.28 地方衛生研究所全国協議会第76回総会

5) 地研全国協議会近畿支部における活動

R7.5.27 第1回総会

R7.7.14 役員会

R7.7.30 第1回近畿ブロック会議及び第2回総会

R8.1.14 第2回近畿ブロック会議及び第3回総会

6) 地方衛生研究所全国協議会近畿支部疫学情報部会事務局

R7.6.27 疫学情報部会役員会

R7.10.9 R7年度地域保健総合推進事業に係る近畿ブロック「精度管理事業(健康危機事象対応模擬訓練)」の実施

R7.12.5 第40回疫学情報部会研究会

業 績 集

誌 上 発 表

●研究企画課

- 1) 尾崎麻子. 食品用途における物理的再生 PET の安全性評価—指針に基づく試験と評価事例. *食品と容器* 2025; 9: 532-540.

●健康危機管理課

- 2) 本村和嗣. 大阪・関西万博感染症情報解析センターの取り組み. *月刊公衆衛生情報* 5月号 2025; 5: 8-9.
- 3) 本村和嗣. ノロウイルスによる感染性胃腸炎. *バムサージャーナル* 2025; 37(3)
- 4) Horai N, Fukusumi M, Kobayashi Y, Shimada T, Sunagawa T, Seino K, Motomura K, Tomio J Enhanced infectious disease surveillance system for Expo 2025 Osaka,Kansai, Japan : Overview of the operations and their early action review. *Mass Gathering Medicine*. 2025

●疫学解析研究課

- 5) Shimizu Y, Yoshida T, Terada K, Sasaki N, Honda E, Motomura K. Influence of Autism spectrum Disorder and Post-Traumatic Stress Disorder on Risky Drinking Behavior in Relation to Satisfactory Sleep Status Among the General Population. *Sleep and Vigilance*. 2025. <https://doi.org/10.1007/s41782-025-00322-w>
- 6) Kishida R, Yamagishi K, Maruyama K, Ikeda A, Sata M, Tanaka M, Okada C, Kubota Y, Hayama-Terada M, Shimizu Y, Muraki I, Umesawa M, Imano H, Sankai T, Okada T, Kitamura A, Kiyama M, Iso H. Dietary intake of folate, vitamin B6, vitamin B12, and riboflavin and the risk of incident dementia. *European Journal of Clinical Nutrition* 2025. <https://doi.org/10.1038/s41430-025-01663-5>. Online ahead of print.
- 7) Ariyada K, Yamagishi K, Honda E, Kihara T, Sankai T, Muraki I, Shimizu Y, Ohira T, Tanigawa T, Imano H, Iso H. Trends in incidence of intracerebral hemorrhage and its bleeding sites from 1985 to 2017 in Japanese rural communities. *Neuroepidemiology*. 2025;1-17. <https://doi.org/10.1159/000548448>. Online ahead of print.
- 8) Shimizu Y, Yoshida T, Ito K, Terada K, Sasaki N, Honda E, Motomura K. Association among autism spectrum disorder, alcohol flushing, and drinking status: a web-based survey. *International Journal of Developmental Disabilities*. 2025;1-6. <https://doi.org/10.1080/09291016.2025.2514589>
- 9) Shimizu Y, Yoshida T, Ito K, Terada K, Sasaki N, Honda E, Motomura K. Solitude, connection with society, low quality of life in relation to autism spectrum disorder. *International Journal of Social Psychiatry*. 2025;207640251345030. <https://doi.org/10.1177/00207640251345030>. Online ahead of print.
- 10) Koto S, Arima K, Nakashima H, Takatani A, Mizukami S, Shimizu Y, Tamai M, Kawakami A, Hamada K, Maeda T, Kawashiri SY, Nagata Y, Aoyagi K. Association of Angioten-sin-Converting Enzyme (ACE) Gene Single Nucleotide Polymorphisms (SNPs) With Hypertension in Older Japanese Adults: A Cross-Sectional Study Nested Within the Nagasaki Islands Study (NaIS) *Cureus*. 2025;17(4):e82193. <https://doi.org/10.7759/cureus.82193>.
- 11) Shimizu Y, Noguchi Y, Sasaki N, Matsuu-Matsuyama M, Kawashiri SY, Yamanashi H, Arima K, Nakamichi S, Nagata Y, Hayashida N, Maeda T .Association between anti-thyroid peroxidase antibody and insufficient sleep in euthyroid population. *International Journal of Clinical and Health Psychology*. 2025;25(2):100565. <https://doi.org/10.1016/j.ijchp.2025.100565>.
- 12) Shimizu Y, Kawashiri SY, Yamanashi H, Nakamichi S, Hayashida N, Nagata Y, Maeda T. Beneficial influence of low-density lipoprotein cholesterol on the endothelium in relation to endothelial repair. *Environmental Health and Preventive Medicine*. 2025;30:24. <https://doi.org/10.1265/ehpm.24-00332>.
- 13) Nakamura Y, Otsuki N, Li Q, Shinzawa M, Matsui I, Yamakawa M, Oyama A, Toki H, Yamamoto R. Alcohol

- consumption and incidence of decline in glomerular filtration rate and of proteinuria: the Osaka Kenko Innovation (TOKI) study. *Journal of Nephrology*. 2025;38:1937-1946 (2025). <https://doi.org/10.1007/s40620-025-02339-w>
- 14) Oyama A, Noguchi M. Development of a machine learning model to predict the probability of health checkup participation in Japan. *Public Health*. 2025;247:105889. <https://doi.org/10.1016/j.puhe.2025.105889>
 - 15) Shimizu Y, Sasaki N, Noguchi Y, Matsuu-Matsuyama M, Kawashiri SY, Yamanashi H, Arima K, Nakamichi S, Nagata Y, Maeda T, Hayashida N. Subclinical hypothyroidism and height loss according to free thyroxine levels: a prospective study. *Environmental Health and Preventive Medicine* 2025;30:100. <https://doi.org/10.1265/ehpm.25-00362>.
 - 16) Shimizu Y, Yamanashi H, Kawashiri SY, Noguchi Y, Sasaki N, Nakamichi S, Arima K, Nagata Y, Maeda T. Anti-early antigen Epstein-Barr virus titer and atherosclerosis in relation to vascular endothelial growth factor (VEGF) polymorphism rs3025039 among older Japanese individuals. *Environmental Health and Preventive Medicine*. 2025;30:83. <https://doi.org/10.1265/ehpm.25-00334>.
 - 17) Shimizu Y, Sasaki N, Noguchi Y, Matsuu-Matsuyama M, Kawashiri SY, Yamanashi H, Nakamichi Y, Nagata Y, Maeda T, Hayashida N. Association between subclinical hypothyroidism and skipping breakfast in relation to status of thyroid cysts among middle-aged to elderly Japanese. *Biological Rhythm Research*. 2025;1-8. <https://doi.org/10.1080/09291016.2025.2514589>.
 - 18) Nishimagi M, Hayashi F, Nakano H, Funakubo N, Okazaki K, Eguchi E, Nagao M, Yoshida T, Sato S, Yokozuka M, Moriyama N, Fujita Y, Ohira T. Associations of exercise habits in young adulthood and subsequent continuation of exercise habits with prefrailty and frailty in community-dwelling older adults. *Geriatric Gerontology International*. 2025;25(11):1495-1502. doi: 10.1111/ggi.70182.
 - 19) Yoshida T, Mashiko H, Ohira T. Work Conditions Leading to Job Retention among individuals with Neurodevelopmental Disorders. *Tohoku Journal of Experimental Medicine*. 2025. doi: 10.1620/tjem.2025.J127. Epub ahead of print.
 - 20) Shimizu Y, Sasaki N, Oyama A, Noguchi Y, Matsuu-Matsuyama M, Hamada K, Kawashiri S.Y, Yamanashi H, Nakamichi S, Nagata Y, Maeda T, Hayashida N. Association between bedtime snacking and subclinical hypothyroidism. *Environmental Health and Preventive Medicine*. 2026; in press

●細菌課

- 21) Saito E, Ogita K, Harada T, Wakabayashi Y, Yagi T, Yamaguchi T, Oshibe T, Oooka T, Kawai T. A foodborne outbreak caused by atypical enteropathogenic Escherichia coli O45:H15 in the Kinki region of Japan. *Appl. Environ. Microbiol.* 2025; 91: e0012325.
- 22) Umeda K, Suzuki M, Imaoka K. Investigation of antimicrobial susceptibility and resistance gene prevalence in Capnocytophaga spp. isolated from dogs and cats and characterization of novel class A β -lactamase CST-1. *Eur. J. Clin. Microbiol. Infect. Dis.* 2025; 44: 559-569.
- 23) Nakayama T, Yamaguchi T, Jinnai M, Minh D T N, Hoang O N, Thi H L, Thanh P N, Hoai P H, Do P N, Van C D, Kumeda Y, Hase A. Complete genome of chromosome encoding mcr-1.1 in multidrug-resistant Escherichia coli EC332 and EC529 isolates from Vietnamese chicken meats. *Microbiol. Resour. Announc.* 2025; 14: e01200-24.
- 24) Yamamoto K, Takeuchi S, Nakaya T, Fujiwara N, Seto J, Komukai J, Tsuda Y, Yoshida H, and Wada T. Geodemographic analysis of socioeconomic area disparities in tuberculosis incidence in Osaka City, Japan. *Scientific Reports*. 2025; 15: 15968.
- 25) 金鈴香、小向潤、江川裕子、高橋峰子、山本香織 . 大阪市におけるイソニアジドおよびリファンピシン感性肺結

- 核治療成功後の培養陽性再発の検討. *結核* 2025; 100(5): 95-99.
- 26) 西田伸子, 井上靖彦, 尾沼大輔, 小林慶吾, 板東知子, 山内一寛, 高橋佑介, 平井佑治, 山本香織, 山口貴弘, 柿本健作, 枝川亜希子, 永井仁美, 木下優: 大阪府内で発生したレジオネラ症アウトブレイクの原因と対策に関する考察. *日本防菌防黴学会誌* 2025; 53(8): 233-242.
- 27) Murase Y, Hosoya M, Morishige Y, Shimomura Y, Nagai M I, Tamaru A, Takaki A, Mitarai S, Japan Tuberculosis Genotyping Group (2023). A universal, high-quality, and high-yield DNA purification method for mycobacteria, including *Mycobacterium tuberculosis*: large-scale assessment of the chloroform-bead method. *Microbiol Spectr*. 2025; 4;13(11): e0076525.
- 28) Akapelwa ML, Kapalamula TF, Moonga LC, Bwalya P, Solo ES, Chizimu JY, Thapa J, Hayashida K, Hang'ombe BM, Munyeme M, Tamaru A, Wada T, Yoshida S, Koderia T, Kawase M, Gordon SV, Yamada K, Nakajima C, Suzuki Y. Development of a multiplex loop-mediated isothermal amplification (LAMP) method for differential detection of *Mycobacterium bovis* and *Mycobacterium tuberculosis* by dipstick DNA chromatography. *Microbiol Spectr*. 2025;13(6): e0242124.
- 29) Umeda K, Hirai Y. Draft genome sequences of five *Bartonella henselae* strains from shelter cats in Osaka, Japan. *Microbiology Resource Announcements* 2026; 15: e0090425.
- 30) 梅田薫, 松田由美恵, 高橋弥歌, 巴里俊哉. 大阪市内の犬、猫における *Pasteurella multocida* の保菌状況調査. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*. 2025; 9, 1-7.
- 31) 霜村竜匡, 工藤新三, 小向潤, 國吉裕子, 植田英也, 山本香織, 安田有, 保田彩音. 空間共有を実施根拠とした大阪市西成区あいりん地域内の簡易宿所における結核接触者健診. *結核*. 2026; 101(2): 61-66.
- 32) Taniguchi I, Morimoto Y, Kimura Y, Seto J, Kawai Y, Kitahashi T, Aoki J, Terai K, Furuta T, Wakabayashi Y, Tanabe S, Hamasaki M, Abe Y, Sasaki M, Narimatsu H, Yokoyama E, Iyoda S, Hayashi T, Nakamura K. Global population structure of Shiga toxin-producing *Escherichia coli* O103:H2 and the variation in their major virulence factor-encoding genetic elements. *Microb Genom*. 2026;12(1):001625.
- 33) Wakabayashi Y, Kojima K, Nishijima S, Harada T, Yamaguchi T, Sakata J, Sekiya S, Iwamoto S, Tanaka K, Kawai T. Identification and genomic characterization of Shiga toxin subtype 2j-producing *Escherichia coli* isolated from an asymptomatic carrier in Japan. *FEMS Microbiol Lett*. 2026;373:fnag018.
- 34) Taniguchi K, Yamaguchi T, Isoda K, Shiomi M, Kawasaki Y, Amo K, Wakabayashi Y, Kawahara R, Nozaki M. Clinical and Microbiological Characteristics of macrolide-resistant *Bordetella pertussis* Infection: A case series in Osaka, Japan (2024-2025). *J Infect Chemother*. 2026;32(2) 102916.
- 35) Nakayama T, Kasumi Y, Saito M, Ohata N, Yamaguchi T, Jinnai M, Kumeda Y, Hase A. ESBL-Producing *Enterobacter cloacae* Complex and *Klebsiella pneumoniae* Harboring blaCTX-M-15 and blaCTX-M-55 Potentially Risk the Worldwide Spread of ESBL-Producing Bacteria Through Contaminated Dried Fishery Products. *Curr Microbiol*. 2025;82(12) 593.
- 36) Yoshimasa Yamamoto, Hoa Thi Thanh Hoang, Yen Hai Le, Cornelia Appiah-Kwarteng, Diep Thi Khong, Thang Nam Nguyen, Manuel Calvopina, Carlos Bastidas-Caldes, Nobuyuki Tetsuka, Masaki Anraku, Mayumi Yamamoto. Multinational comparison of the detection of extended-spectrum beta-lactamase genes in healthy resident feces. *Microbiol Spectr*. 2025;13(6): e02920-24.
- 37) 山中由芽, 蛭原健, 安楽正輝, 服部員長, 神田大裕, 松尾裕央, 織田順. 市中発症の pvl 遺伝子陽性 MRSA による壊死性肺炎の 1 例. *日本救急医学会雑誌*. in press.
- 38) Yumiko Okada, Akiko Nakama, Yukako Shimojima, Miki Ida, Hiromi Nakamura, Kayoko Otsuka, Sumi Ebuchi, Akiko Tomaru, Tomoko Nishida, Tomotaka Yoshida, Hideaki Matsuoka. Establishment of standard methods for *Listeria monocytogenes* detection from foods in Japan. *Food Safety*. 2026 in press.

- 39) Miyako Ishibashi, Shinya Yonogi, Momoka Tani, Chihiro Hiura, Daisuke Hosokawa, Nami Matsuta, Yusaku Sagisaka, Mayuko Yagi, Tomohiro Hasei, Masahiko Hayashi, Yuh Shiwa, Fumito Maruyama, Daisuke Tanaka, Tomoaki Okuda, Teruya Maki, Jun Komano. Isolation of *Clostridioides difficile* from the atmospheric fine particulate matter. *BMC Microbiol.* 2026 Mar 6 doi: 10.1186/s12866-026-04888-x, Online ahead of print.

●ウイルス課

- 40) Sasaki M. Current status of bed bug *Cimex lectularius* (Hemiptera: Cimicidae) infestation and prevalence of insecticide-resistant amino acid substitutions in Osaka Prefecture, Japan. *Medical Entomology Zoology.* 2025; 76(2): 45-51. <https://doi.org/10.7601/mez.76.45>.
- 41) 浜田信夫, 馬場孝, 原田一宏, 荻野文敏. 靴のカビ汚染の特徴と季節変化. *環境管理技術.* 2025; 43(3): 151-162. <http://id.ndl.go.jp/bib/034245769>.
- 42) Shirai T, Motooka D, Ushikai Y, Komano J, Shioda T, Iida T, Sakon N. Molecular epi-demiology of human sapovirus based on the surveillance of wastewater and patients with acute gastroenteritis in Osaka, Japan. *Science of the Total Environment.* 2025; 985: 179622. <https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2025.179622>.
- 43) Kurata T, Kanbayashi D, Kakimoto K, Otsuki N, Miyoshi T, Mizutani H, Kobayashi H, Fukuda H, Uesugi M, Murakami I, Kometani T, Nagayama H, Sugimoto N, Motomura K. Molecular epidemiology of measles virus re-emergence in Osaka Prefecture, Japan, after lifting COVID-19 pandemic travel restrictions. *Japanese Journal of Infectious Diseases.* In press. <https://doi.org/10.7883/yoken.JJID.2025.111>.
- 44) Yamazaki K. Dangerous prey: a case of cannibalism between workers of *Polistes jokahamae* (Hymenoptera: Vespidae, Polistinae) *Fragmenta Entomologica.* 2025; 57: 133-135. <https://doi.org/10.13133/2284-4880/1778>.
- 45) Yamazaki K. Incidental pollination by passing animals: An overlooked mechanism? *Plants, People, Planet.* 2025; 7: 1245-1250. <https://doi.org/10.1002/ppp3.70015>.
- 46) Murayama J, Yamazaki K, Ogasawara H, Moriwaki H. Soil-adhesive or water repellent properties of the surface of cicada exuviae. *The Science of Nature.* 2025; 112: 25. <https://doi.org/10.1007/s00114-025-01976-2>.
- 47) 三津橋和也, 駒込理佳, 沖田若菜, 佐々木美江, 的場洋平, 池田辰也, 齋藤望, 柏原尚子, 絹川恵里奈, 阿部櫻子, 永木英徳, 河合優子, 竹内美夏, 吉住秀隆, 岡田若菜, 政岡智佳, 大屋日登美, 田澤崇, 昆美也子, 城座美夏, 北川恵美子, 渡邊麻衣夏, 橋井真実, 浅井希, 寺井克哉, 諏訪優希, 安井善宏, 矢野拓弥, 倉田貴子, 上林大起, 浅沼康之, 松本知美, 野口優, 下元かおり, 濱崎光宏, 古谷貴志, 鬼塚咲良, 矢野浩司, 大槻紀之, 梁明秀, 菊池風花, 林愛, 新井智, 鈴木基. 麻疹の抗体保有状況－2024年度感染症流行予測調査(暫定結果). *病原微生物検出情報.* 2025; 46(7): 142-144.
- 48) Yagi M, Hirokawa Y, Sagisaka Y, Hama M, Takeda S, Komano JA. Intron-oriented HTLV-1 integration in an adult T-cell leukemia/lymphoma cell line sustains expression of intact *ift81* mRNA. *FEBS Lett.* 2025;599(18):2620-2628. doi:10.1002/1873-3468.70104.
- 49) 菊地正, 西澤雅子, 小島潮子, Lucky Runtuwene, 林田庸総, 瀧永博之, 椎野禎一郎, 杉浦 互, 今橋真弓, 松田昌和, 重見麗, 岩谷靖雅, 横幕能行, 渡邊 大, 南留美, 伊藤俊広, 堀場昌英, 豊嶋崇徳, 吉田繁, 古賀道子, 吉野友祐, 宇野俊介, 谷口俊文, 猪狩英俊, 寒川整, 中島秀明, 茂呂寛, 高橋雅彦, 渡邊珠代, 藤井輝久, 高田清式, 末盛浩一郎, 中田浩智, 松下修三, 山川奈津子, 仲村秀太, 中村麻子, 浜みなみ, 阪野文哉, 川畑拓也, 佐野貴子, 小泉美優, 長島真美, 貞升健志, 吉村和久, 薬剤耐性 HIV 調査ネットワーク. 2024年の日本の新規未治療 HIV-1 感染者における薬剤耐性変異の動向. *病原微生物検出情報 (IASR).* 2025; 46(10): 203-205.
- 50) Shimuta K, Ohama Y, Yoshida A, Nakayama S, Ohnishi M, Kawahata T, Takahashi H, Akeda Y, Antibiotic-Resistant Gonorrhoea Study Group. Emergence of a ceftriaxone-resistant *Neisseria gonorrhoeae* strain harbouring penA-60.001 in a novel genetic background (MLST 9903) in Japan, 2018–2024. *Sexually Transmitted Infections*

Published Online First: 20 November 2025. doi: 10.1136/sestrans-2025-056694.

- 51) 鎌倉亜樹子, 前田孝博, 永谷史織, 宮本圭, 鈴木久美子, 華有紀, 齊藤武志, 岡田めぐみ, 松村直樹, 藤岡正人, 廣川秀徹, 中山浩二, 山元誠司, 馬場孝, 佐々木麻綾, 青山幾子, 池森亮, 山崎一夫, 阿部仁一郎. デング熱国内感染疑似事例を受けての大阪市の対応. *病原微生物検出情報 (IASR)*. 2025; 46(12): 244-246.
- 52) Kotaki T, Akieda Y, Chen Z, Onishi M, Komatsu S, Motooka D, Omori H, Tamiya S, Kanai Y, Minami S, Kawagishi T, Sakon N, Ishitani T, Kobayashi T. Recovery of infectious recombinant human norovirus using zebrafish embryos. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*. 2025. 122(49): e2526726122.
- 53) 森川佐依子, 大塚真紀, 阿部仁一郎. 大阪府内における 2024/2025 シーズンのインフルエンザ流行状況. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2025; 9: 8-17.
- 54) 青山幾子, 山元誠司, 馬場孝, 池森亮, 佐々木麻綾, 横田正春, 弓指孝博, 山崎一夫. 大阪府内における過媒介ウイルス感染症に対するサーベイランス調査 (2024 年度). *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2025; 9: 18-28.
- 55) 馬場孝, 垣本愛, 平尾真大, 小西敦子, 前原智史. 大阪市においてクドア属粘液胞子虫が関与したと疑われる有症事例と流通する海産魚における粘液胞子虫の検出状況. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2025; 9: 29-44.

●食品安全課

- 56) 寺谷清香, 村上太郎, 昌山敦, 新矢将尚, 内部精度管理手法による LC-MS/MS を用いた加工食品の甘味料分析法の評価, *日本食品化学会誌* 32(1), 37-42, 2025.
- 57) 野村千枝, 柿本葉, 藤原拓也, 徳永佑亮, 山崎朋美, 新矢将尚: 通気蒸留装置 - アルカリ滴定法を用いた食品中の亜硫酸分析法の妥当性確認. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*. 2025, 45-98.
- 58) Hiroyuki Hashimoto, Koichiro Ogata, Tatsuya M. Ikeda, Masato Yoshimitsu, Kyohei Kiyota. Analysis of dispersal characteristics of five food powders for avoiding unintentional food allergen cross-contact during food processing. *Journal of Food Engineering* 2026; 407: 112
- 59) 村上太郎, 岸映里, 尾崎麻子, マイクロプレートを利用したヒスタミン定量法の魚加工品への適用と頑健性の評価. *日本食品化学会誌* 2025 ; 32(3):132-138.
- 60) Chiharu Mizuguchi-Fukase, Asako Ozaki, Eri Kishi, Daichi Asakawa, Miku Yamaguchi, Yutaka Abe, Motoh Mutsuga. Development of a long-term migration test method for plastic food utensils, containers, and packaging. *Food Safety*. 2026;14(1):25-36.
- 61) Nakatani T, Yamazaki K, Nakamura M, Yamaguchi N. Pyrrolizidine alkaloids in honey: occurrence and profile analysis in Japan. *Food Chem*. 2025;496:146790.
- 62) Nakatani T, Kitaguchi D, Nakamura M. Survey of tetrodotoxin in commercially available bivalve molluscs in Japan, including first report of detection in oysters in Western Japan. *Food Addit Contam Part A Chem Anal Control Expo Risk Assess*. 2025;42(10):1394-1401.

●食品化学課

- 63) Yoshimitsu M., Kiyota K. Development of a mass spectrometry-based quantitative method for two isoallergens of celery allergen Api g 1 in fresh and processed celery. *J Agric Food Chem* 2025; 73(34): 21560-21565.
- 64) 平田祥太郎, 星英之. 梅加工飲料を対象とした残留オキシテトラサイクリン試験法の妥当性確認—飲料中エタノールがオキシテトラサイクリン回収率に与える影響—. *日本食品化学会誌* 2025; 32(1): 24-28.
- 65) 平田祥太郎, 秋澤直仁, 荒木浩太, 寺澤宏樹, 山口進康. 地方衛生研究所における医学系大学生への抗生物質分析の研修指導事例. *日本食品化学会誌* 2025; 32(2): 121-125.
- 66) 平田祥太郎. カビ毒パツリンの食品残留規制および輸入食品における違反状況について. *大阪府獣医師会報* 2025; 76: 8-10.

- 67) 宮本伊織, 食品中残留農薬試験法におけるガスクロマトグラフ質量分析計での水素ガスキャリアー使用に関する基礎的検討, *Journal of the Mass Spectrometry Society of Japan* 2025; 73(3):151-154.
- 68) 粟津薫, 福井直樹, 永吉晴奈, 山口瑞香, 松井啓史, 白川育子, 山口進康. LC-FL 分析によるヒスタミン検査事例の報告 - 令和5及び6年度における大阪府及び府内中核市の依頼検査について -. *大阪健康安全基盤研究所研究年報* 2025; 9: 49-56.

●医薬品課

- 69) 坂本裕介, 東雄貴, 浅田安紀子, 阪井貴之, 田中未紗, 土井崇広, 田上貴臣. 強壮効果を標榜するいわゆる健康食品から医薬品成分を検出した事例—タダラフィル及びクロロプレタダラフィルの検出—. *大阪健康安全基盤研究所研究年報* 2025; 9: 57-66.
- 70) Azuma Y., Tanaka M., Asada A., Doi T., In vitro metabolic fate of 1-[3-(trimethylsilyl)propanoyl] lysergic acid diethylamide (1S-LSD), a silicon-containing LSD analog. *Forensic Toxicol.*, 2026; 44(1): 72-85.
- 71) Sakai T., Tanaka M., Azuma Y., Sakamoto Y., Tagami T., Asada A., Doi T., Simultaneous identification of 50 illegal adulterants in dietary supplements using high-performance liquid chromatography–single quadrupole mass spectrometry. *J. Pharm. Biomed. Anal.*, 2026; 270: 117300.

●生活環境課

- 72) 赤木航, 吉田仁, 小泉義彦, 高木総吉, 安達史恵, 長谷川有紀, 尾沼大輔, 玄番瑛子, 山口進康. LC-MS/MSによる水道水・河川水中のアクリル酸およびヒドラジンの分析法の検討と大阪府内浄水場における実態調査. *水道協会雑誌*, 2025; 94(9): 36-44.
- 73) Ooshima T., Nakamura M., Kakutani N., Kawakami T. Simultaneous Analysis of Three Flame Retardants in Textile Products Prohibited in Japan by Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometry. *BPB Reports*, 2025; 8: 64-69. doi.org/10.1248/bpbreports.8.3_64
- 74) 吉田仁, 安達史恵, 長谷川有紀, 小泉義彦. 水質検査における外部精度管理 (2023年度) —塩化物イオン—. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2025; 9: 67-73.
- 75) 小泉義彦, 長谷川有紀, 安達史恵, 吉田仁. 水質検査における外部精度管理 (2023年度) —ジブロモクロロメタン—. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2025; 9: 74-81.
- 76) 長谷川有紀, 小泉義彦, 吉田仁, 安達史恵. 水質検査における定量精度に影響を及ぼす因子の考察 (2022年度) —大阪府建築物飲料水水質検査業 (プロモホルム) —. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2025; 9: 82-88.
- 77) 大嶋智子, 小泉義彦, 吉田仁, 安達史恵, 高取聡. 水質検査における定量精度に影響を及ぼす因子の解明 (2024年度) —大阪府建築物飲料水水質検査業外部精度管理 (プロモジクロロメタン) —. *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2025; 9: 89-95.
- 78) 小泉義彦, 小池真生子, 肥塚利江, 高取聡. 大阪府における環境および食品中放射能調査 (令和6年度報告). *大阪健康安全基盤研究所研究年報*, 2025; 9: 96-104.
- 79) Shikama S., Uchii K., Sadamitsu M., Kaminagayoshi T., Koizumi Y., Nasu M. Bacterial community structure and dominant species in pharmaceutical manufacturing water revealed by high-throughput sequencing. *Eur. J. Pharm. Sci.*, 2025; 211:107153. doi: 10.1016/j.ejps.2025.107153
- 80) 西以和貴, 吉富太一, 千葉真弘, 塩田寛子, 味村真弓, 吉田俊明, 高木総吉, 高居久義, 櫻木大志, 大野浩之, 田原麻衣子, 河上強志. 有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律 (有害物質含有家庭用品規制法) におけるクレオソート油関連製品中多環芳香族炭化水素類試験法改定に係わる検討. *YAKUGAKU ZASSHI*, 2025; 145(7): 645-655. doi.org/10.1248/yakushi.25-00013
- 81) Azuma T., Adachi F., Kawahara R., Yamaguchi N., Kanamori H. First nationwide survey of the distribution and

seasonal variation of antimicrobials in effluents from wastewater treatment plants in Japan. *J. Hazard. Mater. Adv.*, 2026; 21: 101054. doi.org/10.1016/j.hazadv.2026.101054

学 会 発 表

●信頼性保証室

- 1) 阿久津和彦：地衛研の分野特性と信頼性確保のあり方—QAUの視点から—，日本食品衛生学会第121回学術講演会，東京都（2025）

●健康危機管理課

- 2) 本村和嗣：大阪万博に向けた大阪府の取り組み 大阪万博に備えたマスギャザリング感染症対策セミナー，大阪（2025）
- 3) 寶來徳子，福住宗久，小林祐介，島田智恵，砂川富正，清野薫子，富尾淳，本村和嗣：大阪・関西万博感染症情報解析センターの業務に関する初期の振り返り．第84回日本公衆衛生学会総会，静岡（2025）
- 4) 本村和嗣：強化サーベイランスの仕組み、意義とその結果（疫学情報）．第27回国立大学附属病院感染対策協議会，大阪（2025）
- 5) 本村和嗣：大阪・関西万博感染症情報解析センターについて．第40回 疫学情報部会研究会，大阪（2025）
- 6) 皐月由香，柿本健作，西田陽子，山中靖貴，関雅之，入谷展弘，本村和嗣，吉光真人，平田祥太郎，宮本伊織，仲谷正，福井直樹，山口進康，朝野和典：地方衛生研究所 近畿支部 疫学情報部会における模擬訓練の取り組み 実施及びアンケート結果（2024年）第62回全国衛生化学技術協議会年会，群馬県（2025）
- 7) 皐月由香，柿本健作，西田陽子，関雅之，山中靖貴，北島平太，三山豪士，濱口重人，本村和嗣：大阪・関西万博に係る感染症強化サーベイランス-地衛研における取り組み-第39回公衆衛生情報研究協議会，埼玉県（2025）

●疫学解析研究課

- 8) 清水悠路，吉田知克，大山飛鳥，寺田久美子，佐々木なぎさ，本田瑛子，本村和嗣：散歩と精神疾患における自閉症スペクトラム障害の影響の検討．第86回日本生理人類学会，大阪（2025）
- 9) 清水悠路，佐々木なぎさ，山梨啓友，中道聖子，林田直美，永田康浩，前田隆浩：LDL-コレステロールパラドックスが起こるメカニズムの解明．第84回日本公衆衛生学会，静岡（2025）
- 10) 三山豪士，本村和嗣．RSウイルス感染症の流行開始基準値の評価．第84回日本公衆衛生学会総会，静岡（2025）
- 11) 大山飛鳥，山本陵平：ヘルスケアアプリ「アスマイル」を用いたアプリ内抽選の結果とアプリ継続の関係．第84回日本公衆衛生学会，静岡（2025）
- 12) 吉田知克：東日本大震災前後の神経発達症及び気分障がい長期推移とその要因に関する疫学研究．第32回ヘルスリサーチフォーラム，東京（2025）
- 13) 吉田知克，清水悠路，大山飛鳥，寺田久美子，佐々木なぎさ，本田瑛子，本村和嗣：神経発達症における日常の運動量と生活満足度の関連性．第84回日本公衆衛生学会，静岡（2025）
- 14) Shimizu Y, Noguchi Y, Sasaki N, Oishi K, Oyama A, Matsuu-Matsuyama M, Kawashiri SY, Nagata Y, Maeda T. Inverse association between Good-Quality Sleep and Anti-thyroid Peroxidase Antibody Positively in Euthyroid Population. The 36th Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological Association & The 3rd Joint Scientific Meeting with the IEA Western Pacific Region, Nagasaki (2026)
- 15) 清水悠路，吉田知克，大山飛鳥，寺田久美子，佐々木なぎさ，本田瑛子，本村和嗣：睡眠と生活満足度における自閉症スペクトラム症の影響の検討．第96回日本衛生学会学術総会，栃木（2026）
- 16) 三山豪士，西浦博．大阪府におけるRSウイルス感染症流行動態の季節性変動要因分析．第96回日本衛生学会学術総会，栃木（2026）

●細菌課

- 17) 若林友騎, 西嶋駿弥, 山口貴弘, 勢戸和子, 河合高生: 亜テルル酸高度耐性 *Escherichia albertii* 株の全ゲノム配列解析, 第98回日本細菌学会総会, 金沢市 (2025)
- 18) 児嶋浩一, 若林友騎, 西嶋駿弥, 坂田淳子, 空翔太, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一: 質量分析法を用いたベロ毒素 A2 フラグメント検出法の検討, 第27回腸管出血性大腸菌感染症研究会, 久留米市 (2025)
- 19) 空翔太, 児嶋浩一, 坂田淳子, 若林友騎, 西嶋駿弥, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一: STEC の主要な O 血清群における質量分析法を用いた糖鎖型判別法の検討, 第27回腸管出血性大腸菌感染症研究会, 久留米市 (2025)
- 20) 李謙一, 森田昌知, 伊豫田淳, 泉谷秀昌, 中村佳司, 山岸敏明, 久保田寛顕, 木全恵子, 若林友騎, 野本竜平, 柿田徹也, 明田幸宏: 細菌ゲノム解析パイプライン (SNPcaster) の開発, 第27回腸管出血性大腸菌感染症研究会, 久留米市 (2025)
- 21) 若林友騎, 余野木伸哉, 河合高生: ブドウ球菌食中毒検査における迅速遺伝子型別法の検討, 第46回日本食品微生物学会学術総会, 川崎市 (2025)
- 22) 空翔太, 児嶋浩一, 坂田淳子, 若林友騎, 西嶋駿弥, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一: MALDI-TOF-MS を用いた O 抗原型別法 (糖鎖型判別法) の大腸菌 O111 への適用, 第46回日本食品微生物学会学術総会, 川崎市 (2025)
- 23) 志村巖巳, 若林友騎, 入江通子, 西嶋駿弥, 原田哲也, 河合高生, 西岡麻須美: と畜牛から高率に分離された腸管出血性大腸菌 O171 に係る疫学調査及び遺伝子解析, 第103回近畿地区連合獣医師大会, 堺市 (2025)
- 24) 空翔太, 児嶋浩一, 若林友騎, 西嶋駿弥, 坂田淳子, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一: アシッドショックプロテインをバイオマーカーとした *Enterobacter cloacae* complex の鑑別可能性に関する検討, 第37回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 千葉市 (2026)
- 25) 空翔太, 児嶋浩一, 坂田淳子, 若林友騎, 西嶋駿弥, 関谷禎規, 田中耕一: 質量分析法を用いた大腸菌の O 抗原糖鎖分析による O 血清群型別法の開発, 日本農芸化学会 2026 年度京都大会, 京都市 (2026)
- 26) 若林友騎, 原田哲也, 河合高生: 志賀毒素 2e 産生性大腸菌 O26 の表現型およびゲノム解析, 第99回日本細菌学会総会, 広島市 (2026)
- 27) 新井暢夫, 玉村雪乃, 若林友騎, 古屋裕崇, 桃木杏奈, 渡部綾子, 岩田剛敏, 楠本正博: 我が国の家畜・家きんにおける *Salmonella* Schwarzengrund の浸潤状況と遺伝的関係性, 第99回日本細菌学会総会, 広島市
- 28) 山本香織, 田丸亜貴, 土井健司, 大阪市保健所感染症対策課, 和田崇之: 結核菌ゲノム解析を用いた大阪府市間における感染伝播の検討, 第84回日本公衆衛生学会総会, 静岡県 (2025)
- 29) 田丸亜貴, 山本香織, 下内昭: 2019 ~ 2024 年度の大阪府外国出生患者由来結核菌株の分子疫学, 第84回日本公衆衛生学会総会, 静岡県 (2025)
- 30) 坂田淳子, 梅川奈央, 若林友騎, 河合高生, 川津健太郎: 紅麴サプリメントによる健康被害事案の原因究明に関する検討, 第50回カビ毒研究連絡会, 神奈川県 (2025)
- 31) 梅田薫, 安楽正輝, 山口貴弘, 稲嶺由羽, 松井真理, 鈴木里和, 河原隆二: KHM-1 メタロ - β - ラクタマーゼ産生 *E. coli* のセフィデロコル耐性機序, 第37回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 千葉市 (2026)
- 32) 山本香織, 田丸亜貴, 康史朗, 小向潤, 浅野瑞穂, 岩本朋忠, 有川健太郎, 安中めぐみ, 和田崇之, 下内昭: 外国出生若年者を発端とした結核感染伝播事例, 第100回日本結核・非結核性抗酸菌症学会, 横浜市 (2025)
- 33) 吉田萌恵, 原田哲也, 若林友騎, 山口貴弘, 河合高生: *Salmonella* Braenderup 食中毒事例における分離菌株の分子疫学解析, 第46回日本食品微生物学会学術総会, 川崎市 (2025)
- 34) 山口貴弘, 高橋佑介, 平井佑治, 山本香織, 高田利香, 庄司裕都, 西田伸子, 木下優, 河合高生, 永井仁美: 大阪府内の一部地域で発生したレジオネラ症の集積事例について, 第98回日本細菌学会総会, 金沢市 (2025)
- 35) 山口貴弘, 若林友騎, 河原隆二: 大阪府におけるマクロライド耐性百日咳菌の検出および遺伝子解析について, 第37回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 千葉市 (2026)

- 36) 松田由美恵, 安楽正輝, 河原隆二: 大阪府における髄膜炎菌の検出状況, 令和7年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部細菌部会研究会, 堺市 (2025)
- 37) 松田由美恵, 安楽正輝, 山口貴弘, 河原隆二, 梅田薫: *Acinetobacter baumannii* 臨床株を溶菌する新規バクテリオファージの探索とファージ感受性菌株の解析, 第37回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 千葉市 (2026)
- 38) 安楽正輝: 地方衛生研究所における実験動物を用いた検査および研究環境の整備, 令和7年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部細菌部会研究会, 堺市 (2025)
- 39) 池田愛沙, 杉辺英世, 客野弘幸, 客野弘幸, 平野藍子, 室谷貴弘, 濱田悠介, 木村貞美, 田中一樹, 板垣祐輔, 安楽正輝: 血清 III 型 ST17GBS による新生児遅発型 GBS 髄膜炎の 1 例. 第 57 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 浦安市 (2025)
- 40) 小林裕太郎, 谷口公啓, 堺大地, 野口侑記, 岡本裕也, 安楽正輝, 河原隆二, 野崎昌俊: 基礎疾患のない年長児に生じた ST834, SCC mec IVc, TSST-1 遺伝子陽性 MRSA による鼠蹊部化膿性リンパ節炎. 第 57 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 浦安市 (2025)
- 41) 安楽正輝, 水野真介, 佐伯玲, 笠井正志, 奥野英雄, 谷口公啓, 野崎昌俊, 田中沙紀, 伊藤雄介, 渡辺浩良, 梅田薫, 河原隆二: 侵襲性黄色ブドウ球菌感染症における分離菌株の Leukocidin 保有率. 第 57 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 浦安市 (2025)
- 42) 藤倉裕之, 安楽正輝: ダプトマイシンによる治療中に非感性化した MRSA 持続菌血症の 1 例, 第 37 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 千葉市 (2026)
- 43) 安楽正輝, 明田幸宏, 山口貴弘, 河原隆二, 梅田薫: 細菌エステラーゼ活性定量法を応用した迅速薬剤感受性試験の検討, 第 37 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 千葉市 (2026)
- 44) 本村和嗣, 白石志帆: *Campylobacter jejuni* の共生菌由来シデロフォア獲得に着目した病原性発揮機序の解明, 第 45 回近畿腸管微生物研究会総会・研究発表会, 大阪市 (2025)
- 45) 白石志帆, 河合高生: 共生細菌を介した鉄獲得が *Campylobacter jejuni* の病原性に与える影響, 第 46 回日本食品微生物学会学術総会, 川崎市 (2025)
- 46) 白石志帆, 河合高生: 共生菌由来のシデロフォアが *Campylobacter jejuni* の病原性に与える影響, 第 18 回日本カンピロバクター研究会総会, 帯広市 (2025)
- 47) 白石志帆, 河合高生: *Campylobacter jejuni* の病原性におけるシデロフォアを介した鉄獲得の役割, 第 99 回日本細菌学会総会 (2026)
- 48) 中村寛海, 吉田萌恵, 高橋佑介, 原田哲也, 番匠大樹, 近藤香織, 河合高生, 篠原利典: 高野豆腐から分離された *Bacillus* 属菌の分類・同定の試み, 第 46 回日本食品微生物学会学術総会, 川崎市 (2025)
- 49) 中村寛海: 地方衛生研究所のお仕事ってどんな? ~大安研編~, 第 99 回日本細菌学会総会, 広島市 (2026)
- 50) 原田哲也, 若林友騎, 李謙一, 河合高生, 伊豫田淳: 腸管出血性大腸菌 O157 clade 分類のためのリアルタイム PCR 法の確立, 第 27 回腸管出血性大腸菌感染症研究会, 久留米市 (2025)
- 51) 原田哲也, 中村寛海, 梅川奈央, 梅田薫, 山口貴弘, 河原隆二, 駒野淳, 河合高生: 3 症例に由来する *vanD* 保有 *Enterococcus faecium* の全ゲノムシーケンス, 第 54 回薬剤耐性菌研究会, つくば市 (2025)
- 52) 河原隆二: 都市下水サーベイランスによる薬剤耐性菌モニタリングの可能性と課題, 第 98 回日本細菌学会総会, 札幌市 (2025)
- 53) 河原隆二: 大安研における Nanopore シーケンサーの運用と実施例, 第 5 回地研現場の会・研究会, 札幌市 (2025)
- 54) 安楽正輝, Judith Dzifa Azumah, Sandra Padikie Nyumutei, Cornelia Appiah-Kwarteng, Joshua Baffoe-Ansah, 河原隆二, 山本真由美, 手塚宣之, 山本容正: ガーナ共和国で母子から分離された ESBL 産生大腸菌の特徴, 第 54 回薬剤耐性菌研究会, (2025)
- 55) 河原隆二, 安達史恵, 原直寛, 左近直美, 濱口重人: 大阪における下水流入水の薬剤耐性菌モニタリングの試み, 令和7年度地方衛生研究所近畿支部細菌部会研究会, 堺市 (2025)

- 56) 河原隆二：メトロポリタンヘルスのセンチネルとしての下水サーベイランスの有用性：薬剤耐性菌，大阪公立大学・長崎大学感染症合同シンポジウム第3回，大阪市（2025）
- 57) 河原隆二：大阪における下水薬剤耐性菌モニタリングの試みと大阪・関西万博の影響，AMED 公開シンポジウム「下水サーベイランスの社会実装に向けた研究の最前線と展望」，東京大学（2026）
- 58) 原直寛，安達史恵，左近直美，松本悠希，元岡大祐，菅原庸，菅井基行，河原隆二：大阪の下水から分離された IMI-2 カルバペネマーゼ産生大腸菌の遺伝学的解析，第99回日本細菌学会総会，（2026）

●ウイルス課

- 59) 佐々木麻綾：大阪府内で採取されたトコジラミの分子系統解析：地域および国際的視点から，第77回日本衛生動物学会大会，長崎市，（2025.04.11-13）
- 60) 浜田信夫，馬場孝，荻野文敏：結露する窓の目地に生えたカビの生死を推定する，日本菌学会第69回大会，千葉市（2025.5.18）
- 61) 青山幾子：大阪のSFTS症例に関連するマダニと卵からのSFTSV・リケッチア同時検出，第32回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー奥豊後岡城の里大会，竹田市（2025.6.13）
- 62) 阪野文哉，浜みなみ，大隈和，川畑拓也：大阪府のMSMにおけるHTLV-1抗体陽性率の推計，第38回近畿エイズ研究会学術集会，京都市（2025.6.14）
- 63) 川畑拓也，阪野文哉，浜みなみ，古林敬一，志牟田健，大西真，明田幸宏：大阪府内で流行する淋菌の抗菌薬感受性について，第13回日本性感感染症学会関西支部総会・学術集会，大阪市（2025.7.5）
- 64) 菊地正，西澤雅子，林田庸総，瀧永博之，豊嶋崇徳，吉田繁，伊藤俊広，古賀道子，長島真美，貞升健志，佐野貴子，宇野俊介，谷口俊文，猪狩英俊，寒川整，中島秀明，吉野友祐，堀場昌英，茂呂寛，渡邊珠代，今橋真弓，蜂谷敦子，松田昌和，重見麗，岡崎玲子，岩谷靖雅，横幕能行，渡邊大，阪野文哉，川畑拓也，藤井輝久，高田清式，中村麻子，南留美，松下修三，仲村秀太，小島潮子，Lucky Runtuwene，椎野禎一郎，吉村和久，杉浦互，薬剤耐性 HIV 調査ネットワーク：本邦で未治療時に検出された HIV 薬剤耐性変異の伝播寄与の推定，第33回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会，東京都（2025.8.22）
- 65) T Kikuchi, M Nishizawa, T Hayashida, H Gatanaga, M Imahashi, D Watanabe, R Minami, S Yoshida, T Teshima, T Ito, M Koga, M Nagashima, K Sadamasu, T Sano, S Uno, H Igari, T Taniguchi, S Samukawa, H Nakajima, Y Yoshino, M Horiba, H Moro, T Watanabe, F Banno, T Kawahata, T Fujii, K Takada, A Nakamura, S Matsushita, H Nakamura, M Matsuda, R Shigemi, Y Iwatani, Y Yokomaku, S Kojima, L R Runtuwene, T Shiino, A Hachiya, K Yoshimura, W Sugiura, on behalf of the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network: Trends in pretreatment drug-resistance (PDR) in Japan, 2020-2023: Increase in M184V prevalence among treatment-naive individuals and association with PrEP use, The 31st International Workshop on HIV Drug Resistance and Treatment Strategies, online（2025.9.3）
- 66) 馬場孝，垣本愛，平尾真大，小西敦子，前原智史：海産魚類における粘液胞子虫の検出状況，第46回日本食品微生物学会学術総会，川崎市（2025.9.18-19）
- 67) 馬場孝：マアジとマルアジにおけるアニサキスの寄生状況，令和7年度日本水産学会秋季大会，東広島市（2025.9.24-26）
- 68) 大場邦弘，改田厚，久場由真仁，竹前喜洋，影山努：FilmArray 呼吸器パネルにおける小児および成人のウイルス重複検出例の検討，第29回日本ワクチン学会・第66回日本臨床ウイルス学会合同学術集会，札幌市（2025.9.27）
- 69) 竹前喜洋，久場由真仁，大場邦弘，改田厚，影山努：ターゲットキャプチャー NGS によるライノウイルス / エンテロウイルスと診断された検体中に含まれるエンテロウイルス属ウイルスの全ゲノム解析，第29回日本ワクチン学会・第66回日本臨床ウイルス学会合同学術集会，札幌市（2025.9.27）
- 70) 久場由真仁，竹前喜洋，大場邦弘，改田厚，影山努：国内における呼吸器症状を呈した症例から検出されたエン

- テロウイルス D68 の分子疫学解析, 第 29 回日本ワクチン学会・第 66 回日本臨床ウイルス学会合同学術集会、札幌市 (2025.9.28)
- 71) 山田華蓮、菊池風花、板持雅恵、谷英樹、左近直美、竹前等、水谷哲也、新井智: 未処理下水を用いた非標的 NGS による多様な病原体の同時検出, 第 29 回日本ワクチン学会・第 66 回日本臨床ウイルス学会合同学術集会、札幌市 (2025.9.28)
- 72) 阪野文哉、浜みなみ、川畑拓也: HIV 検査の基礎と大阪府域における HIV 検査と発生動向, 第 15 回 AIDS 文化フォーラム in 京都, 京都市 (2025.10.5)
- 73) 平井有紀、改田厚、森川佐依子、小山芽以、葛西早苗、阿部仁一郎: 大阪における ARI サーベイランスについて, 令和 7 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部ウイルス部会研究会、尼崎市 (2025.10.16)
- 74) 左近直美、白井達哉: 大阪におけるロタウイルスの変化—感染症発生動向調査から—, 第 36 回ウイルス性下痢症研究会, 浜松市 (2025.10.27)
- 75) 白井達哉、元岡大祐、牛飼裕美、駒野淳、塩田達雄、飯田哲也、左近直美: 大阪府の下水および臨床検体から検出されたヒトサポウイルスの分子疫学的解析, 第 72 回日本ウイルス学会学術集会, 浜松市 (2025.10.28-30)
- 76) 佐々木麻綾: 分子系統解析時に確認したトコジラミの不均一なミトコンドリア DNA 配列に関する検討, 第 80 回日本衛生動物学会西日本支部大会, 神戸市 (2025.11.1-2)
- 77) 青山幾子: 大阪府におけるダニ媒介感染症の発生動向, 第 80 回日本衛生動物学会西日本支部大会, 神戸市 (2025.11.1-2)
- 78) 阪野文哉、浜みなみ、大隈和、川畑拓也: 大阪府の MSM における HTLV-1 抗体陽性率の推計, 第 11 回日本 HTLV-1 学会学術集会、鹿児島市 (2025.11.8)
- 79) 北山翔太、生田和良、品川日出夫、上山健彦、改田厚: 磁気ビーズを用いたウイルス粒子精製法によるヒトパラインフルエンザウイルス 3 型 (HPIV-3) に対する中和抗体作製, 第 148 回日本薬理学会近畿部会、大阪市 (2025.11.29)
- 80) 改田厚: 精度管理事業結果報告, 令和 7 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部 第 40 回疫学情報部会研究会、大阪市 (2025.12.5)
- 81) 川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、山朋久、町登志雄、朝来駿一: クリニックにおける MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン 2024 年度実績報告, 第 39 回日本エイズ学会学術集会, 熊本市 (2025.12.5)
- 82) 菊地正、西澤雅子、林田庸総、瀧永博之、豊嶋崇徳、吉田繁、伊藤俊広、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、末盛浩一郎、中村麻子、南留美、松下修三、仲村秀太、小島潮子、Lucky Runtuwene、椎野禎一郎、吉村和久、杉浦互: 2024 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向, 第 39 回日本エイズ学会学術集会, 熊本市 (2025.12.5)
- 83) 阪野文哉、浜みなみ、川畑拓也、菊地正: 大阪府における HIV 確認検査陽性検体における HIV 薬剤耐性変異と分子疫学解析, 第 39 回日本エイズ学会学術集会, 熊本市 (2025.12.6)
- 84) 志牟田健、大濱侑季、吉田愛、中山周一、大西真、川畑拓也、高橋英之、明田幸宏: 京都、大阪地域におけるセフトリアキソン耐性淋菌株の性状解析, 日本性感染症学会 第 38 回学術大会、名古屋市 (2025.12.20)
- 85) 川畑拓也, Marta Pla-Diaz, Lorenzo Giacani, David Šmajš, 阪野文哉, Allan Pillay, Angel Noda, Philipp Bosshard, Natasha Arora, Fernando González-Candelas: 梅毒トレポネーマとその亜種に対して高い鑑別能を有する新しい MLST 法の開発, 日本性感染症学会 第 38 回学術大会、名古屋市 (2025.12.21)
- 86) 浜野彰太、高橋邦彦、佐藤一穂、長澤唯、川上竜太郎、野口杏子、尾上泰祐、西本静香、荒堀仁美、徳永康行、馬場孝、茶山公祐: 日本海裂頭条虫症の兄弟例, 第 39 回近畿小児科学会、大阪市 (2026.3.15)
- 87) 馬場孝: サンマからアニサキスを除去していた際に確認された蠕虫, 令和 8 年度日本水産学会春季大会、東京都 (2026.3.29)

●食品安全課

- 88) 村上太郎, 寺谷清香, 宮本京子, 村野晃一, 昌山敦, 新矢将尚: 透析-LC-MS/MS法によるジペプチド甘味料の一斉分析法の妥当性確認, AOAC INTERNATIONAL JAPAN SECTION 第28回年次大会, 東京都(2025)
- 89) 村上太郎, 寺谷清香, 宮本京子, 村野晃一, 昌山敦, 新矢将尚: 透析-LC-MS/MS法による使用基準のない甘味料分析の妥当性確認, 第62回全国衛生化学技術協議会年会, 群馬県(2025)
- 90) 村野晃一, 仲谷正, 村上太郎, 中村実沙子, 秋田耕佑, 尾崎麻子, 高取聡: ヒキガエル喫食後に食中毒様症状を呈した事例対応について, 令和7年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会, 兵庫県(2025)
- 91) 寺谷清香, 村上太郎, 宮本京子, 昌山敦, 村野晃一, 大西英里加, 新矢将尚: 透析-LC-MS/MS法による甘味料分析の妥当性確認, 第62回全国衛生化学技術協議会年会, 群馬県(2025)
- 92) 野村千枝, 柿本葉, 藤原拓也, 徳永佑亮, 山崎朋美, 新矢将尚: 通気蒸留装置-アルカリ滴定法を用いた食品中の亜硫酸分析法の妥当性確認, 第62回全国衛生化学技術協議会年会, 群馬県(2025)
- 93) 柿本葉, 新矢将尚: LC-MS/MSによる有機酸測定の見直し, 第62回全国衛生化学技術協議会年会, 群馬県(2025)
- 94) 大西英里加, 柿本葉, 徳永佑亮, 野村千枝, 藤原拓也, 山崎朋美, 寺谷清香, 新矢将尚: 低温透析法による甘味料一斉分析の妥当性確認, 第62回全国衛生化学技術協議会年会, 群馬県(2025)
- 95) 藤原拓也, 福井直樹, 高取聡, 古田雅一: LC-MS/MSを用いた食品への放射線照射履歴検知法の複数原料から構成される食品を対象とした検討, 日本食品衛生学会第121回学術講演会, 東京都(2025)
- 96) 油谷藍子, 村野晃一, 村上太郎, 新矢将尚: マイクロウェーブ分解-ICP-MS法による食肉等元素分析法の妥当性評価, 日本食品衛生学会第121回学術講演会, 東京都(2025)
- 97) 柿本幸子, 吉光真人, 藤原拓也: QuEChERS法を応用したメチル水銀分析法の見直しおよび魚介類の実態調査, 日本食品衛生学会第121回学術講演会, 東京都(2025)
- 98) 水口(深瀬)智晴, 岸映里, 尾崎麻子, 浅川大地, 六鹿元雄: リサイクルプラスチックに由来する玩具等の元素分析, 日本食品衛生学会第121回学術講演会, 東京都(2025)
- 99) 仲谷正, 山崎一夫, 中村実紗子: ハーブティー等に含有するピロリジジナルカロイド(PA)の組成に基づく汚染源植物の推定, 日本食品衛生学会第121回学術講演会, 東京都(2025)
- 100) 山崎朋美, 平川由紀, 工藤鮎子, 狐塚慶子, 井上博喜, 中川博之, 紀雅美, 門間敬子, 久城真代, 三宅司郎: 小麦中デオキシニバレノールを測定するための表面プラズモン共鳴(SPR)を利用したイムノセンサの構築, 日本分析化学会第74年会, 北海道(2025)

●食品化学課

- 101) 頭士泰之, 江口哲史, 山本敦史, 家田曜世, 永吉晴奈, 浅川大地, 松神秀徳: 迅速な環境ノンターゲットスクリーニングの実現を目指す確信的マススペクトル検索システムの開発と性能評価, 第4回環境化学物質合同大会, 山形県(2025)
- 102) 福井直樹, 藤原拓也, 高取聡, 古田雅一: 照射原料を用いた模擬加工食品の照射履歴検知の試み, 第62回アイソトープ・放射線研究発表会, 東京都(2025)
- 103) 平田祥太郎, 小西博史, 芹野武, 辻井良政, 金谷重彦: 回収率の同等性検定による残留農薬分析法の性能評価-果実ジュースと果実酒における殺菌剤オキシテトラサイクリンをモデルとしたパイロットスタディ, 第48回農薬残留分析研究会, 東京都(2025)
- 104) 平田祥太郎, 小西博史: 果実飲料を対象とした残留抗生物質分析法の開発および同等性検定を用いた性能評価, 東京農業大学食・農データサイエンス部会第5回公開シンポジウム, 東京都(2025)
- 105) 平田祥太郎, 星英之: ジビエに適した残留農薬分析法の見直し-チアベンダゾールおよび代謝物を対象としたパイロットスタディ-, 第42回農薬環境科学研究会, 千葉県(2025)

- 106) 平田祥太郎, 吉光真人: 抗生物質オキシテトラサイクリン分析法を応用したりんごジュース中のカビ毒パツリン分析の検討, 日本マイコトキシン学会第 93 回学術講演会, 徳島県 (2025)
- 107) 平田祥太郎, 吉光真人, 山口進康: 健康危害事象を想定した有機リン系農薬検出キットによるシアノホス混入飲料の簡易検出法, 令和 7 年度日本獣医公衆衛生学会 (近畿), 堺市 (2025)
- 108) 松井啓史, 村野晃一: 液体クロマトグラフ飛行時間型質量分析を用いた鶏卵中サルファ剤の網羅的検出におけるデータ解析手法依存性, 第 85 回分析化学討論会, 愛媛県 (2025)
- 109) 松井啓史, 村野晃一: LC-QTOF-MS の DIA 測定による MS/MS スペクトル類似度に基づいた化合物群網羅的検出法の開発と牛乳中サルファ剤への適用, 日本分析化学会第 74 年会, 北海道 (2025)
- 110) 松井啓史, 村野晃一: 少品目の標準物質との MS/MS スペクトル類似度を指標とした畜産物食品中サルファ剤の網羅的検出, 日本食品衛生学会第 121 回学術講演会, 東京都 (2025)
- 111) 宮本伊織, 北口大毅, 中村実沙子, 仲谷正: 不活性化添加剤を用いた非誘導体化測定によるはちみつ中グリホサート及びグルホシネートの残留実態調査, 日本食品衛生学会第 121 回学術講演会, 東京都 (2025)
- 112) 平田祥太郎: Agilent 1260 Infinity II シリーズを用いた加工食品における残留抗生物質およびカビ毒の分析について, 日本食品衛生学会第 121 回学術講演会, 東京都 (2025)
- 113) 友澤潤子, 南谷臣昭, 竹内浩, 谷口賢, 山口瑞香, 野村千枝, 吉岡直樹, 阿部尚仁, 鈴木敏之, 登田美桜: LC-MS/MS によるわが国の主な毒きのこの多成分同時分析法の開発, 日本食品衛生学会第 121 回学術講演会, 東京都 (2025)
- 114) 粟津薫, 福井直樹, 永吉晴奈, 山口瑞香, 松井啓史, 白川育子, 山口進康: LC-FL 分析によるヒスタミン検査事例の報告, 第 62 回全国衛生化学技術協議会年会, 群馬県 (2025)
- 115) 山口瑞香, 福井直樹, 松井啓史, 粟津薫, 永吉晴奈, 山口進康: 畜産食品からの抗菌性物質検出事例について, 第 62 回全国衛生化学技術協議会年会, 群馬県 (2025)
- 116) 吉光真人, 平田祥太郎, 宮本伊織, 仲谷正, 福井直樹, 山口進康, 梶月由香, 柿本健作, 西田陽子, 山中靖貴, 関雅之, 入谷展弘, 本村和嗣, 朝野和典: 地方衛生研究所 近畿支部 疫学情報部会における模擬訓練の取り組み 高濃度農薬混入飲料の分析法構築 (2024 年), 第 62 回全国衛生化学技術協議会年会, 群馬県 (2025)
- 117) 山口瑞香, 松井啓史, 永吉晴奈, 福井直樹, 山口進康: こども園でのジャガイモの苦情事例について, 令和 7 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会, 兵庫県 (2025)

● 医薬品課

- 118) 武田章弘, 内山奈穂子: 医薬部外品原料規格「ジヘプタデシルケトン」の確認試験について, 第 62 回全国衛生化学技術協議会年会, 群馬 (2025)
- 119) 岡坂衛, 石田晃大, 石原理恵, 河端昭子, 田上貴臣, 谷手紗也香, 西尾雅世, 藤田佑飛, 山下真行, 山本豊, 吉川舜, 吉原司貴, 酒井英二, 森川敏生, 松田久司: 生薬品質集談会報告第 56 報—ゲンノショウコについて— HPLC によるゲラニイン分析法の検討と市場品の分析, 第 53 回生薬分析シンポジウム, 大阪 (2025)
- 120) 土井崇広, 浅田安紀子: トリプタミン系化合物 4-PrO-DMT およびフマル酸塩の結晶構造について, 日本薬学会第 146 年会, 大阪 (2026)
- 121) 浅田安紀子, 田中未紗, 土井崇広: 知事指定薬物として規制されたフェンタニル類似薬物の活性評価 (2015-2024), 日本薬学会第 146 年会, 大阪 (2026)
- 122) 田中未紗, 土井崇広, 田上貴臣: ホルムアルデヒド遊離型防腐剤が配合された化粧品中の化学変化と保存環境の影響, 日本薬学会第 146 年会, 大阪 (2026)
- 123) 松本謙吾, 東雄貴, 松田駿太郎, 志摩典明, 土井崇広, 鎌田徹: ニュートラルロスを活用した新規 LSD アナログのスクリーニング分析, 日本薬学会第 146 年会, 大阪 (2026)

● 生活環境課

- 124) Ryota Gomi, Fumie Adachi: Genetic contexts of plasmid-mediated quinolone resistance genes in environmental *Escherichia coli*, WaterMicro 2025, Amersfoort, Netherlands (2025)
- 125) 上山さくら, 原口麻子, 森崎真奈, 浦上逸男, 枝川亜希子, 松林誠: 長波長 UV-LED による水中の病原性原虫の不活化効果 - クリプトスポリジウムに対する *in vitro* および *in vivo* 評価試験 -, 日本防菌防黴学会第 52 回年次大会, 三重県 (2025)
- 126) 大嶋智子, 小泉義彦, 吉田仁, 安達史恵, 長尾綾佳, 加藤友香里, 疋田裕子, 上澤行成, 高取聡: 建築物飲料水水質検査業を対象とした水質検査における外部精度管理 (2024 年度) - プロモジクロロメタン -, 第 62 回全国衛生化学技術協議会年会, 高崎市 (2025)
- 127) 大嶋智子, 田原麻衣子, 河上強志: 家庭用洗浄剤中のアルカリ量の定量における中和滴定に関する検討, 第 62 回全国衛生化学技術協議会年会, 高崎市 (2025)
- 128) 小泉義彦, 吉田仁, 吉田直志, 吉田顕二, 玄番瑛子, 高取聡: 水質検査における外部精度管理 -1,4- ジオキサン -, 第 62 回全国衛生化学技術協議会年会, 高崎市 (2025)
- 129) 吉田仁, 安達史恵, 大嶋智子, 小泉義彦, 長尾綾佳, 加藤友香里, 疋田裕子, 上澤行成, 高取聡: 建築物飲料水水質検査業を対象とした水質検査における外部精度管理 (2024 年度) - 鉛及びその化合物 -, 第 62 回全国衛生化学技術協議会年会, 高崎市 (2025)
- 130) 小池真生子, 肥塚利江, 小泉義彦, 柳本有理, 村川真也, 枝川亜希子: モバイルリアルタイム PCR を用いた冷却塔水からのレジオネラ属菌検出, 第 53 回建築物環境衛生管理全国大会, 東京都 (2026)
- 131) 吉田仁, 小泉義彦, 高木総吉, 安達史恵, 大嶋智子, 長谷川有紀, 高取聡, 長尾綾佳, 加藤友香里, 疋田裕子, 上澤行成: 大阪府の建築物飲料水水質検査業における外部精度管理 - 定量精度に影響を及ぼす要因の解析 -, 第 53 回建築物環境衛生管理全国大会, 東京都 (2026)
- 132) 安達史恵, 原直寛, 菅原庸, 松本悠希, 左近直美, 元岡大祐, 河原隆二: IR Biotyper を用いた菌株分類の試み, 第 37 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 千葉市 (2026)
- 133) 安達史恵, 山口進康, 河原隆二: 環境水から分離された NDM 型カルバペネマーゼ産生菌の特徴, 第 60 回日本水環境学会年会, 八王子市 (2026)
- 134) 河相優子, 吉田仁, 赤木航, 高木総吉, 小泉義彦, 吉田直志, 吉田顕二, 玄番瑛子, 高取聡: 大阪府内の水道水等における人工甘味料の実態調査, 第 60 回日本水環境学会年会, 八王子市 (2026)
- 135) 高木総吉, 味村真弓, 吉田俊明, 高取聡: 液体クロマトグラフ - 質量分析計を用いた繊維製品中の有機錫化合物の分析法開発, 日本薬学会第 146 年会, 吹田市 (2026)

事業年報（令和 7 年度） ISSN 2760-8832

令和 8 年 6 月

編集発行 地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所

〒 537-0025 大阪市東成区中道 1 丁目 3 番 3 号

TEL 06-6972-1321（代）

<http://www.iph.osaka.jp>

